日田市埋蔵文化財調査報告書第102集

求来里の遺跡Ⅳ

―県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4)―

求来里平島遺跡４次の調査

２０１２年

日田市教育委員会

求来里の遺跡Ⅳ 求来里平島遺跡
日田市埋蔵文化財調査報告書第102集
２０１２年
日田市教育委員会

3号竪穴建物跡出土遺物集合写真

序　　文

この報告書は、当委員会が平成17年に県営経営体育成基盤整備事業求来里地区の事業実施に伴って発掘調査を行った求来里平島遺跡４次調査の内容をまとめたものです。調査では、数多くの竪穴建物跡から成る古墳時代の集落跡が発見されました。求来里川流域では、圃場整備等の工事に伴うに調査によって、日田の古墳時代を考える上で非常に重要な地域であることが判明してきていますが、本遺跡においてもそのことを裏付ける貴重な資料を得ました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や三芳地区の歴史解明、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査中に多大なるご指導を賜りました熊本大学の杉井健先生をはじめ、ご協力を賜りました求来里地区圃場整備組合や地元の方々に、心から厚くお礼を申し上げます。

平成24年３月

日田市教育委員会

教育長　合原　多賀雄

例　　言

1．本書は、日田市教育委員会が平成17年度に実施した求来里平島遺跡４次の発掘調査報告書である。
2．調査は、平成17年度に県営経営体育成基盤整備事業求来里地区の事業実施に伴い、大分県日田地方振興局（現、大分県西部振興局）の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3．調査にあたっては、大分県日田地方振興局耕地課（現、大分県西部振興局農林基盤部）、日田市役所農政課（現、農業振興課）、求来里地区圃場整備組合、および地元の方々のご協力を賜った。
4．求来里平島遺跡では、過去に３度の発掘調査が実施されており、その内、日田市教育委員会が実施した平成５年度の調査を１次、平成15年度の調査を３次、大分県教育委員会が実施した平成14年度の調査を２次とし、今回を４次調査とした。
5．発掘調査は若杉が担当した。
6．遺構実測は若杉が行った他、雅企画有限会社に委託した。
7．遺構写真撮影は、若杉が行い、空中写真撮影については、九州航空株式会社に委託し、その成果品を使用した。
8．調査中は、現地にて杉井健先生（熊本大学准教授）のご指導・ご助言を賜った。
9．石器石材については、一部を野田雅之先生（大分県地質学会会長）に肉眼観察により同定していただいた。
10. 遺物実測については、一部を若杉が行い、その他の遺物実測及び製図を雅企画有限会社に委託し、その成果品を使用した。
11. 遺構実測図の製図は雅企画有限会社に委託し、その成果品を使用した。
12. 遺物写真の撮影は国際文化財株式会社に委託し、その成果品を利用した。
13. 報告書作成にあたっては、伊藤一美・安元百合（日田市教育庁文化財保護課整理作業員）の協力を得た。
14. 挿図中の方位、文中の方位角は磁北を示す。
15. 写真図版の遺物に付した番号は、実測図番号に対応する。
16. 出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
17. 本書の執筆・編集は若杉が行った。

本 文 目 次

Ⅰ　調査の経過 …… 1
(1)　調査に至る経緯 …… 1
(2)　発掘作業の経過 …… 3
(3)　整理等作業の経過 …… 3

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 5

Ⅲ　調査の成果 …… 7
(1)　調査の方法と概要 …… 7
(2)　遺構と遺物 …… 8

Ⅳ　総括 …… 62

挿図目次

第１図　求来里半島遺跡調査区位置図（1/5,000）…… 4
第２図　B地点全体図（1/200）…… 4
第３図　求来里川流域の遺跡分布図（1/15,000）…… 6
第４図　A地点遺構配置図（1/400）…… 7
第５図　１号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80,1/4）…… 8
第６図　２号ＡＢ竪穴建物跡、出土遺物（1/80,1/4）…… 8
第７図　３号竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図⑴（1/80,1/40,1/4・1/2）…… 9
第８図　３号竪穴建物跡出土遺物実測図⑵（1/4）…… 10
第９図　３号竪穴建物跡出土遺物実測図⑶（1/4）…… 11
第10図　４号竪穴建物跡実測図（1/80）…… 12
第11図　４号竪穴建物跡カマド、
出土遺物実測図（1/40,1/4）…… 12
第12図　５号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/80,1/4）…… 13
第13図　６号Ａ・Ｂ竪穴建物跡実測図（1/80）…… 14
第14図　６号Ｂ竪穴建物跡カマド実測図（1/40）…… 14
第15図　６号Ａ・Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4・1/2）…… 15
第16図　７号竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図（1/80,1/40,1/4）…… 16
第17図　８号竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図（1/80,1/40,1/4）…… 16
第18図　９号Ａ竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図（1/80,1/40,1/4・1/2）…… 17
第19図　９号Ｂ竪穴建物跡
出土遺物実測図（1/80,1/4・1/2）…… 18
第20図　10号竪穴建物跡、
カマド実測図（1/80,1/40）…… 19
第21図　10号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 20
第22図　11号竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図（1/80,1/40,1/4）…… 21
第23図　12号竪穴建物跡、
カマド実測図（1/80,1/40）…… 22
第24図　12号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 22
第25図　13号竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図（1/80,1/40,1/4）…… 23
第26図　14号竪穴建物跡、
出土遺物実測図（1/80,1/4）…… 24
第27図　16号竪穴建物跡、
出土遺物実測図（1/80,1/4）…… 25
第28図　17号Ａ・Ｂ・Ｃ竪穴建物跡、
カマド実測図（1/80,1/40）…… 26
第29図　17号Ａ・Ｂ・Ｃ竪穴建物跡
出土遺物実測図（1/4）…… 27
第30図　18号Ａ竪穴建物跡、
カマド実測図（1/80,1/40）…… 28
第31図　18号Ａ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 29
第32図　18号Ｂ竪穴建物跡実測図（1/80）…… 30
第33図　18号Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 30
第34図　18号Ｃ・Ｄ竪穴建物跡実測図（1/80）…… 30
第35図　19号Ａ・Ｂ・Ｃ竪穴建物跡、
カマド実測図（1/80,1/40）…… 31
第36図　19号Ａ・Ｃ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 32
第37図　20号竪穴建物跡実測図（1/80）…… 32
第38図　20号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 33
第39図　21号竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図⑴（1/80,1/40,1/4）…… 34
第40図　21号竪穴建物跡出土遺物実測図⑵（1/4）…… 35
第41図　22号Ａ竪穴建物跡実測図（1/80）…… 36
第42図　22号Ａ竪穴建物跡カマド、
出土遺物実測図（1/40,1/4）…… 36
第43図　22号Ｂ竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図（1/80,1/40,1/4）…… 37
第44図　22号Ｃ竪穴建物跡実測図（1/80）…… 37
第45図　22号Ｃ竪穴建物跡カマド、
出土遺物実測図（1/40,1/4）…… 38
第46図　22号Ｄ竪穴建物跡実測図（1/80）…… 38
第47図　22号Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ竪穴建物跡
出土遺物実測図（1/4）…… 39
第48図　23号Ａ竪穴建物跡実測図（1/80）…… 40
第49図　23号Ａ竪穴建物跡
出土遺物実測図⑴（1/4）…… 40
第50図　23号Ａ竪穴建物跡
出土遺物実測図⑵（1/4）…… 41
第51図　23号Ｂ竪穴建物跡、
カマド実測図（1/80,1/40）…… 42
第52図　23号Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 43
第53図　23号Ｃ竪穴建物跡、
カマド実測図（1/80,1/40）…… 44
第54図　23号Ｃ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 45
第55図　23号Ａ・Ｂ・Ｃ竪穴建物跡
出土遺物実測図（1/4・1/6）…… 45
第56図　24号Ａ・Ｂ竪穴建物跡、カマド、24号Ａ竪穴建物跡
出土遺物実測図（1/80,1/40,1/4）…… 46
第57図　24号Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 47
第58図　24号Ａ・Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 47
第59図　25号竪穴建物跡実測図（1/80）…… 48
第60図　25号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）…… 48
第61図　26号竪穴建物跡、カマド、
出土遺物実測図（1/80,1/40,1/4）…… 49
第62図　27号竪穴建物跡実測図（1/80）…… 49

第63図　27号竪穴建物跡
出土遺物実測図（1/4・1/6）…… 50
第64図　1・2・4・5掘立柱建物跡，
出土遺物実測図（1/80,1/4）…… 51
第65図　3号掘立柱建物跡実測図（1/100）…… 52
第66図　土坑実測図⑴（1/40）…… 54
第67図　土坑実測図⑵（1/40・1/60）…… 56
第68図　ピット実測図（1/10）…… 56
第69図　土坑、ピット、グリッド一括
出土遺物実測図（1/4）…… 57
第70図　出土玉類・土製品・
石製品実測図（1/1・1/2）…… 58
第71図　出土石器実測図⑴（1/1・1/3）…… 59
第72図　出土石器実測図⑵（2/3）…… 60
第73図　出土石器実測図⑶（2/3）…… 61
第74図　出土石器実測図⑷（2/3）…… 62

本文写真目次

写真1　発掘作業風景 …… 4

表目次

第1表　求来里川流域における古墳時代建物跡変遷表 …… 64
第2～10表　出土土器観察表⑴～⑼ …… 65～73
第11表　出土土製品・石製品・玉類観察表 …… 73
第12表　出土石器観察表 …… 74

写真図版目次

巻頭写真図版　3号竪穴建物跡出土遺物集合写真
写真図版1　上　A地点調査区全景（南から）
下　調査区全景（北東から）
写真図版2　上　1号竪穴建物跡発掘状況（東から）
中　3号竪穴建物跡発掘状況（西から）
下　3号竪穴建物跡カマド発掘状況（西から）
写真図版3　上　3号竪穴建物跡カマド発掘状況（西から）
中　3号竪穴建物跡遺物出土状況
下　4号竪穴建物跡発掘状況（南から）
写真図版4　上　4号竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
中　5号竪穴建物跡発掘出土状況（北から）
下　5号竪穴建物跡遺物出土状況
写真図版5　上　6号A・B竪穴建物跡発掘状況（南から）
中　6号A竪穴建物跡遺物出土状況
下　6号B竪穴建物跡発掘状況（東から）
写真図版6　上　7号竪穴建物跡発掘状況（南西から）
中　7号竪穴建物跡カマド発掘状況（南西から）
下　7号竪穴建物跡遺物出土状況
写真図版7　上　8号竪穴建物跡完掘状況（南から）
中　8号竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
下　9号A竪穴建物跡発掘状況（西から）
写真図版8　上　9号A竪穴建物跡カマド発掘状況（西から）
中　9号A竪穴建物跡遺物出土状況
下　9号B竪穴建物跡発掘状況（東から）
写真図版9　上　10号竪穴建物跡発掘状況（西から）
中　10号竪穴建物跡カマド発掘状況（西から）
下　10号竪穴建物跡カマド発掘状況（西から）
写真図版10　上　10号竪穴建物跡遺物出土状況
中　11号竪穴建物跡発掘状況（南から）
下　11号竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
写真図版11　上　11号竪穴建物跡カマド遺物出土状況
中　12号竪穴建物跡発掘状況（南から）
下　12号竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
写真図版12　上　12号竪穴建物跡遺物出土状況
中　13号竪穴建物跡発掘状況（南西から）
下　13号竪穴建物跡カマド発掘状況（南西から）
写真図版13　上　13号竪穴建物跡遺物出土状況
中　14号竪穴建物跡発掘状況（南西から）
下　14号竪穴建物跡遺物出土状況
写真図版14　上　16号竪穴建物跡発掘状況（南東から）
中　16号竪穴建物跡カマド発掘状況（南東から）
下　17号A・B・C竪穴建物跡発掘状況（南東から）
写真図版15　上　17号A・B・C竪穴建物跡発掘状況（南から）
中　17号A竪穴建物跡カマド発掘状況（南西から）
下　17号A竪穴建物跡カマド遺物出土状況
写真図版16　上　18号A竪穴建物跡発掘状況（南から）
中　18号A竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
下　18号A竪穴建物跡遺物出土状況
写真図版17　上　18号B竪穴建物跡発掘状況（西から）
中　18号C竪穴建物跡発掘状況（東から）
下　19号A・B・C竪穴建物跡発掘状況（西から）
写真図版18　上　19号A竪穴建物跡カマド発掘状況（西から）
中　19号B・C竪穴建物跡発掘状況（東から）
下　20号竪穴建物跡発掘状況（北から）
写真図版19　上　21号竪穴建物跡発掘状況（南から）
中　21号竪穴建物跡遺物出土状況
下　21号竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
写真図版20　上　21号竪穴建物跡カマド遺物出土状況（南から）
中　22号A竪穴建物跡発掘状況（南から）
下　22号A竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
写真図版21　上　22号A竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
中　22号B竪穴建物跡発掘状況（南から）
下　22号B竪穴建物跡カマド遺物出土状況
写真図版22　上　22号C竪穴建物跡発掘状況（東から）
中　22号C竪穴建物跡カマド発掘状況（東から）
下　22号D竪穴建物跡発掘状況（西から）
写真図版23　上　23号A竪穴建物跡発掘状況（南から）
中　23号A竪穴建物跡遺物出土状況
下　23号B竪穴建物跡発掘状況（西から）
写真図版24　上　23号B竪穴建物跡カマド発掘状況（西から）
中　23号B竪穴建物跡カマド遺物出土状況
下　23号C竪穴建物跡発掘状況（南から）
写真図版25　上　23号C竪穴建物跡遺物出土状況
中　23号C竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
下　23号C竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
写真図版26　上　24号A竪穴建物跡発掘状況（北西から）
中　24号A竪穴建物跡カマド発掘状況（北西から）
下　24号A竪穴建物跡遺物出土状況
写真図版27　上　24号A・B竪穴建物跡発掘状況（南から）
中　24号B竪穴建物跡カマド遺物出土状況
下　25号竪穴建物跡発掘状況（南から）
写真図版28　上　26号竪穴建物跡発掘状況（南から）
中　26号竪穴建物跡カマド発掘状況（南から）
下　26号竪穴建物跡カマド遺物出土状況
写真図版29　上　27号竪穴建物跡発掘状況（にしから）
中　27号竪穴建物跡遺物出土状況
下　1号掘立柱建物跡発掘状況（南西から）
写真図版30　上　2号掘立柱建物跡発掘状況（東から）
中　3号掘立柱建物跡発掘状況（南西から）
下　4号掘立柱建物跡発掘状況（東から）
写真図版31　上　5号掘立柱建物跡発掘状況（南から）
中　1号土坑発掘状況（北から）
下　2号土坑発掘状況（南東から）
写真図版32　上　3号土坑発掘状況（東から）
中　4号土坑発掘状況（南西から）
下　5号土坑発掘状況（北東から）
写真図版33　上　6号土坑発掘状況（南から）
中　7号土坑発掘状況（東から）
下　8号土坑発掘状況（東から）
写真図版34　上　9号土坑発掘状況（東から）
中　10号土坑発掘状況（北から）
下　10号土坑遺物出土状況
写真図版35　上　11号土坑発掘状況（北から）
下　B地点全景（西から）
写真図版36～56　出土遺物

Ⅰ　調査の経過

(1)　調査に至る経緯

県営経営体育成基盤整備事業求来里地区全体の調査に関する経緯については、『求来里の遺跡Ⅰ』に記述しているので、ここでは割愛し、求来里平島遺跡４次調査の経緯について述べる。

求工区内に所在する本遺跡の発掘調査については、大分県日田地方振興局耕地課（現大分県西部振興局農林基盤部、以下県耕地課）の事業の進捗に合わせて、当初平成17年度前半に着手する予定としていた。しかし、ほ場整備工事と平行して行われる求来里川の河川工事の残土をほ場に使用することしていたが、諸事情により、河川工事が平成18年度以降にずれ込んだ。これにより、今回の対象地の工事にも遅れが生じ、稲の作付けを行うことになったことから、調査の着手も稲刈り後の秋以降にずれ込んだ。

また、調査対象となる箇所については、予備調査の結果や工事の設計高などから３箇所を予定としていた（北から旧E・F・G区、第１図）。その後の県耕地課協議により、G区については盛土保存されることになったことから、調査対象から除外した。

以上の経過により平成17年11月21日に大分県日田地方振興局と委託契約を取り交わし、平成18年３月24日までの予定で調査に着手した（発掘調査の経過については、後述する）。

なお、発掘作業と整理等作業の体制は以下のとおりである。（職名は当時のまま）

平成17年度

調 査 主 体　日田市教育委員会

調査責任者　諫山康雄（日田市教育委員会教育長）

調 査 統 括　後藤　清（日田市教育庁文化財保護課長）

調 査 事 務　髙倉隆人（日田市教育庁文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）
　　伊藤京子（同専門員）若杉竜太（同主任）中村邦宏（同主事補）

調 査 担 当　若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）

調　査　員　土居和幸（日田市教育庁文化財保護課副主幹）
　　今田秀樹　行時桂子　渡邉隆行（以上、同主任）　矢羽田幸宏（同主事補）

発掘作業員　足立米子　穴井正利　安藤一枝　諫元正隆　石谷アサカ　梅木忠臣　荏隈マサ子　梶原シゲ子
　　河津信義　河津モリ　河部松子　北澤幾子　小下一　五島絹代　財津勲子　財津高子　定賀和子
　　髙倉美津子　髙倉美利　髙野瞳　谷口芳枝　中島カズ子　藤本弥八　松間敦子　本松シヅエ
　　森本絹子　吉長利夫

調査補助員　杉野貴幸　豊田沙和美　中川照美

整理作業員　朝倉眞佐子　穴井トヨ子　石松裕美　伊藤一美　井上とし子　宇野富子　鍛治谷節子　梶原ヒトエ
　　川原君子　黒川舞　佐藤みちこ　武石和美　田中静香　中原琴枝　聖川暢子　平川優子　安元百合
　　吉田千津子

指　導　者　杉井　健（熊本大学助教授）

来　訪　者　小田富士雄（福岡大学名誉教授）下村　智（別府大学教授）玉川剛司（別府大学講師）

平成18年度

調 査 主 体　日田市教育委員会

調査責任者　諫山康雄（日田市教育委員会教育長）

調 査 統 括　後藤　清（日田市教育庁文化財保護課長）

調 査 事 務　髙倉隆人（日田市教育庁文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）

田中正勝　伊藤京子（同専門員）若杉竜太（同主任）中村邦宏（同主事補）

整 理 担 当　若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）

調　査　員　今田秀樹　行時桂子　渡邉隆行（以上、日田市教育庁文化財保護課主任）

矢羽田幸宏（同主事）

整理指導者　河野一隆（九州国立博物館）丸山康晴（春日市教育委員会）

整理補助員　杉野貴幸　中川照美

整理作業員　朝倉眞佐子　穴井トヨ子　石松裕美　伊藤一美　井上とし子　宇野富子　鍛治谷節子　川原君子

黒木千鶴子　坂口豊子　佐藤みちこ　武石和美　田中静香　中原琴枝　聖川暢子　平川優子

安元百合　吉田千津子

平成19年度

調 査 主 体　日田市教育委員会

調査責任者　諫山康雄（日田市教育委員会教育長、～平成19年８月）

合原多賀雄（同教育長、平成19年９月～）

調 査 統 括　梶原孝史（日田市教育庁文化財保護課長、～平成19年９月）

原田文利（同文化財保護課長、平成19年10月～）

調 査 事 務　井上正一郎（日田市教育庁文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）

田中正勝　伊藤京子（同専門員）塚原美保（同主査）若杉竜太（同主任）

整 理 担 当　若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）

調　査　員　今田秀樹（日田市教育庁文化財保護課主査）

行時桂子　渡邉隆行（以上、同主任）　矢羽田幸宏（同主事）

整理作業員　黒木千鶴子　佐藤みちこ　武石和美　中川照美　中原琴枝　坂口豊子

平成21年度

調 査 主 体　日田市教育委員会

調査責任者　合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）

調 査 統 括　原田文利（日田市教育庁文化財保護課長）

調 査 事 務　北村　羊（日田市教育庁文化財保護課主幹兼埋蔵文化財係長）

河津美広（同専門員）塚原美保（同主査）若杉竜太（同主任）

整 理 担 当　若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）

調　査　員　今田秀樹　行時桂子（以上、日田市教育庁文化財保護課主査）

渡邉隆行（同主任）　矢羽田幸宏（同主事）

整理作業員　石松裕美　佐藤みちこ　武石和美　中川照美　中原琴枝　平川優子

平成23年度

調 査 主 体　日田市教育委員会

調査責任者　合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）

調 査 統 括　財津隆之（日田市教育庁文化財保護課長）

調 査 事 務　土居和幸（日田市教育庁文化財保護課埋蔵文化財係長）

　　華藤善紹　井上和泉　若杉竜太（以上、同主査）

報告書担当　若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主査）

調　査　員　行時桂子　渡邉隆行（以上、日田市教育庁文化財保護課主査）　上原翔平（同主事）

(2) 発掘作業の経過

発掘作業は平成17年12月21日に着手した。以下、その経過を記す。

平成17年12月21日　重機搬入、表土剥ぎ開始。

平成18年１月11日　作業員による遺構検出及び一部遺構掘下げ開始

１月16日　基準点測量実施

１月18日　遺構実測開始

１月23日　遺構検出終了

２月９日　福岡大学小田富士雄名誉教授来訪

２月10日　別府大学下村智教授、玉川剛司講師来訪

３月14日　熊本大学杉井助教授現地指導

３月21日　空中写真撮影実施

３月24日　器材整理、撤収し、調査終了

また、Ｂ地点（旧Ｅ区）については、隣接する農道建設に伴う１次調査において、集落の存在が確認されていたことから、予備調査は行わずに調査対象としていた。そこで、調査は対象地にあったビニールハウス撤去後の平成18年２月22日に着手し、表土剥ぎを行った。しかし、既に大きく削平を受けており、黄褐色粘質土の地山のみが検出され、遺構・遺物は確認されなかったことから調査区の測量のみを行って、調査を終了した（第２図図版35）。

(3) 整理等作業の経過

整理等作業は、調査実施中の平成17年度より着手し、平成18年度以降も実施し、以下の内容で各年度の委託契約を締結した。

平成18年度　平成18年４月10日～平成19年１月31日　整理等作業

平成19年度　平成19年５月１日～平成20年２月29日　整理等作業

平成21年度　平成21年５月１日～平成22年３月19日　整理等作業

平成19年度までに遺物の復元までをほぼ終了し、平成21年度は、他の遺跡とともに求来里地区報告書作成事業として、契約を一本化した。この年度は一部の遺物の復元の見直しや石膏による補強等を実施し、遺物の実測・製図・写真撮影及び遺構製図について、委託業務を実施した。

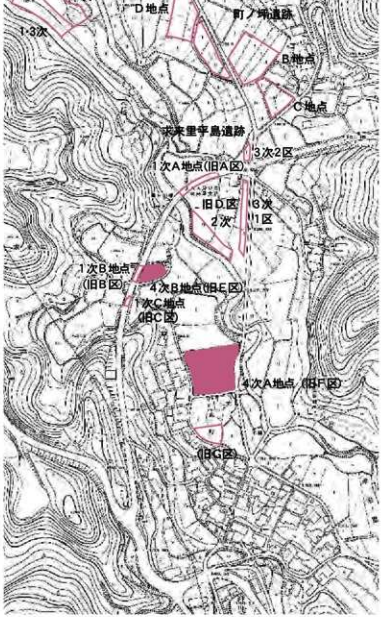
また、遺物を観察していくにあたり、良好なセット関係が伺える一括資料や日田盆地内では出土例がなかった黒色処理を施した模倣坏など、資料的な価値が高いと判断できる遺物が多数あり、これらについては熊本大学・杉井准教授に実見いただき、指導を受けた。この他土師器等で器面の剥落等で脆くなっている遺物については、

バインダー処理を施した。

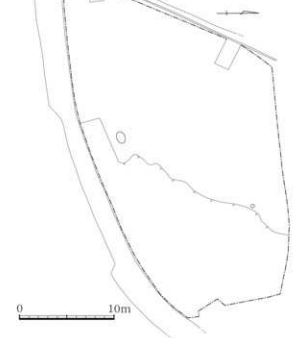
平成23年度の報告書作成に伴う整理作業及び報告書の刊行について、平成21年度で当該事業が終了したことにより、事業者側からの予算措置がなくなったため、市の単独事業である埋蔵文化財発掘調査報告書作成事業により予算化し、事業を実施した。

また、発掘調査、整理等作業にあたり、前述の指導者・来訪者の方々のほかに、次の方々にも有益なご教示・ご指導を頂き、お世話になった（敬称略・五十音順）。

池ノ上宏　木村龍生　重藤輝行　田中裕介　橋本達也　原俊一　柳沢一男　吉田和彦



第１図　求来里平島遺跡調査区位置図（1/5,000）



第２図　B地点全体図（1/400）

写真１　発掘作業風景

Ⅱ　遺跡の位置と環境

求来里平島遺跡の所在する求来里地区は盆地の東部に位置し、天瀬町馬原を源とする求来里川により形成された沖積地が狭い谷状の地形を呈している。求来里川は大きく蛇行を繰り返しながら、北西方向に流れ、遺跡の北約２㎞の地点で有田川と合流する。

求来里地区及び求来里川流域では、ほ場整備事業に伴って行われた発掘調査の他にも、道路建設や河川改修による発掘調査が行われている。ここでは、それらの遺跡を中心に求来里川流域の遺跡を概観していく。

求来里平島遺跡の北西側約600mの台地縁には、弥生時代中期から終末期にかけての集落が確認された小西遺跡[4]がある。小西遺跡の南側には求来里川を挟んで金田遺跡[5]と町ノ坪遺跡[6]が所在する。金田遺跡では弥生時代中期後半から古墳時代後期の集落、町ノ坪遺跡では古墳時代中期から後期の集落が確認された。この２遺跡ともに古墳時代中期の集落では朝倉産の初期須恵器や朝鮮半島系土器が出土しており、地床炉からカマド導入期の集落変遷が伺える。

求来里平島遺跡の南側には弥生時代・古墳時代の包蔵地である着来遺跡[7]がある。着来遺跡の東側、求来里川が形成する谷の最奥部には縄文時代前期を中心とした包含層、古墳時代後期～終末期の集落や中世の墓地が確認された名里遺跡[8]が存在する。

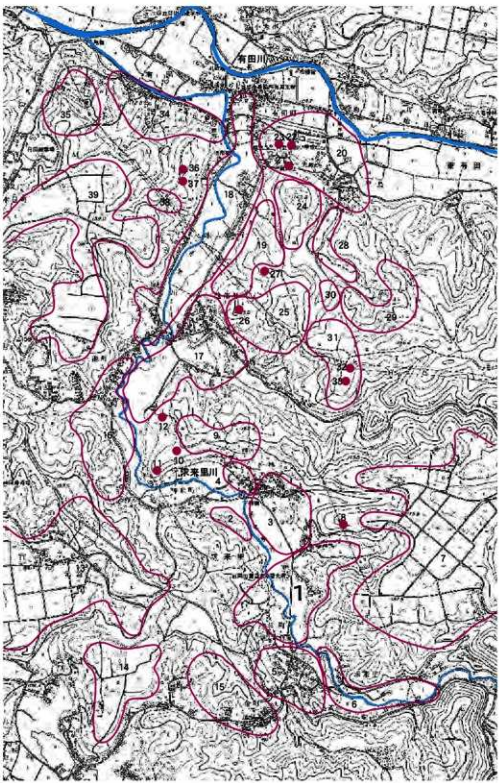
一方、谷の北側には町野原台地が広がり、台地一帯は旧石器時代・縄文時代・古墳時代の包蔵地である町野原遺跡[9]が存在する。また、台地の南東側に円墳の亀ノ甲古墳[9]、さらに台地から西側に派生し、小西遺跡背後にあたる丘陵上には、横穴式石室を主体とし、３基の円墳からなるガニタ古墳群[10~12]がある。

また、谷南側の元宮原台地上には弥生時代後期の甕棺墓・石棺墓や古墳時代後期の石蓋土坑墓、中世の塚と笠塔婆などが見つかった元宮遺跡[13]が存在する。弥生時代～古墳時代にかけての墓地は、求来里川流域に展開する同時期の集落との関係を想起させる。

さらに、求来里地区から求来里川を下流に下った有田地区でも、沖積地及び周辺の丘陵上に多くの遺跡がみられる。小西遺跡の西約600mの丘陵上には古墳時代の集落や古代の土坑墓が見つかった馬形遺跡[16]がある。さらに下流の沖積地及び微高地上には、縄文時代晩期の埋甕や平安時代の竪穴遺構が確認された森ノ元遺跡[17]や弥生時代の墓地や古墳時代の集落、300枚を超える六道銭が埋納された土坑墓が確認された尾漕遺跡[18]が存在する。また、求来里川右岸の台地上には、弥生時代から古墳時代にかけての集落や近世墓群が見つかった祇園原遺跡[24]、古墳時代から古代を中心とする集落が確認された長迫遺跡[19]、古墳時代後期の横穴式石室を主体とする塔ノ本１号墳[21]などが存在する。一方、左岸の台地上には古墳時代の土坑墓・石蓋土坑墓・石棺墓などが確認された大迫遺跡[26]や３基の円墳からなる中尾古墳群[26・27]が存在する。

(参考文献)
若杉竜太編『平成15年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会　2004
渡邉隆行編『平成16年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会　2005
今田秀樹編『平成17年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会　2007
矢羽田幸宏編『平成18年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会　2008
土居和幸・行時志郎・永田裕久編『会所宮遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第11集　日田教育委員会　1996
松下桂子編『牧原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第12集　日田市教育委員会　1997
村上久和・友岡信彦・染矢和徳編『日田条里遺跡群・佐寺横穴墓群・大迫遺跡・白岩遺跡・下綾垣遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6)　大分県教育委員会　1997
行時志郎編『森ノ元遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第13集　日田市教育委員会　1998
土居和幸・行時志郎・永田裕久編『馬形遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第16集　日田市教育委員会　1998
友岡信彦・松本康弘『佐寺原遺跡・尾漕遺跡群・有田塚ヶ原古墳群』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(9)　大分県教育委員会　1998
村上久和・原田昭一編『尾漕遺跡』大分県文化財調査報告書第112輯　大分県教育委員会　2000
若杉竜太編『長迫遺跡D地点　塔ノ本古墳　祇園原遺跡２次　長迫遺跡C地点　長迫遺跡D地点　尾漕遺跡６次』日田市埋蔵文化財調査報告書第28集　日田市教育委員会　2001
渡邉隆行編『大波羅遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第29集　日田市教育委員会　2001
行時志郎編『尾漕遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第30集　日田市教育委員会　2001

土居和幸編『求来里平島遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第38集　日田市教育委員会　2003
若杉竜太編『日田条里矢地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第40集　日田市教育委員会　2003
若杉竜太編『日田条里大原地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第47集　日田市教育委員会　2004
行時桂子編『尾漕２号墳』日田市埋蔵文化財調査報告書第69集　日田市教育委員会　2006
若杉竜太・矢羽田幸宏編『上井手遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第76集　日田市教育委員会　2007
行時桂子編『求来里平島遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第77集　日田市教育委員会　2007
行時桂子編『祇園原遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第81集　日田市教育委員会　2007
矢羽田幸宏編『上井手遺跡３次』日田市埋蔵文化財調査報告書第86集　日田市教育委員会　2008
行時桂子編『祇園原遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第87集　日田市教育委員会　2008
田中裕介・原田昭一・松本康弘編『求来里平島遺跡Ｄ区、求来里名里遺跡ＡＩＣＩ次調査区、金田遺跡１次調査区、金田遺跡３次調査区』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第31集　大分県教育庁埋蔵文化財センター　2008
若杉竜太『求来里の遺跡Ⅲ　小西遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第91集　2010



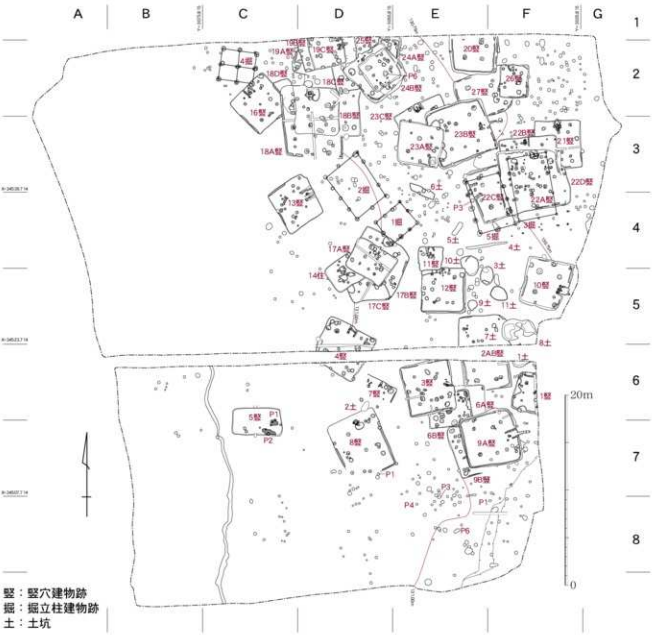
第３図　求来里川流域の遺跡分布図（1/15,000）

Ⅲ　調査の成果

(1)　調査の方法と概要

Ａ地点の調査では、機械による表土除去後、南側から北側へ向かって遺構検出を行った。その際、旧水田の境界にはコンクリートブロックが存在していたが、これを除去すると双方に跨る遺構を損なう恐れがあったことから、撤去は行わなかった。なお、本文中ではこのコンクリートブロックを境にして、便宜的に北側調査区・南側調査区としている。遺構の検出状況については、古墳時代の竪穴建物跡を中心に多くが確認されたが、山側にあたる西側では遺構はほとんど存在せず、大部分が東側に存在していた。こうした状況から、東側は後世の削平を受けていた可能性も想定できる。なお、遺物は土師器・須恵器を中心にコンテナケース25箱分が出土した。

また、調査区内を10m×８mのグリッドに分け、西から東へＡ～Ｇ、北から南へ１～９とし、遺物の取り上



第４図　Ａ地点遺構配置図（1/400）

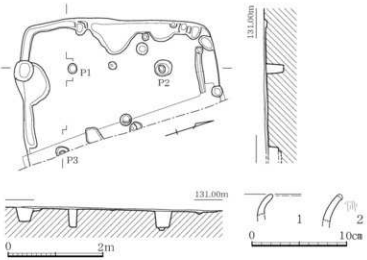
げやピット番号を付すのに利用している。なお、竪穴建物跡のうち、15号竪穴建物跡については、調査中に竪穴建物跡ではないと判断したことから、欠番とし、出土した遺物については、グリッド一括とした。また、6号A竪穴建物跡・6号B竪穴建物跡など、同一番号の建物を細分しているものがあるが、遺物が何れの建物から出土したか不明な場合は、6号竪穴建物跡出土としている。

(2) 遺構と遺物

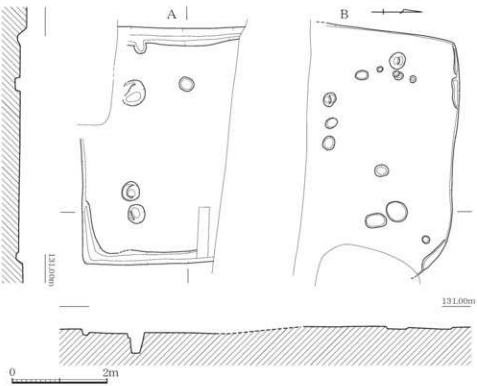
1．竪穴建物跡

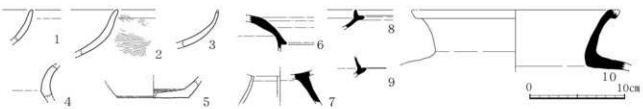
竪穴建物跡は調査区の西側及び南側の一部を除き、42軒検出された。多い部分で5～6軒切りあって確認されたが、単独で存在する竪穴建物跡も数軒あった。

また、出土遺物については、諸般の事情により、実測図と観察表のみの掲載とし、本文中では触れていない。

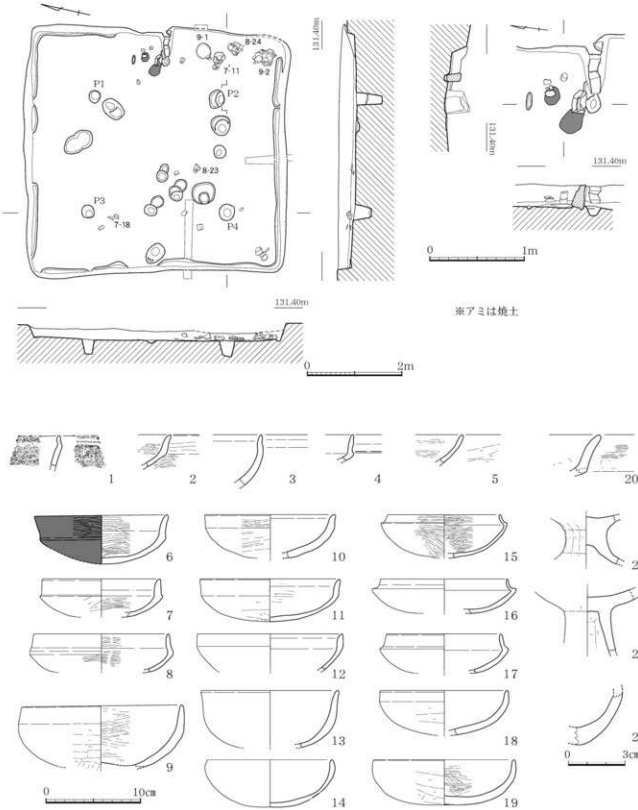


第5図　1号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）





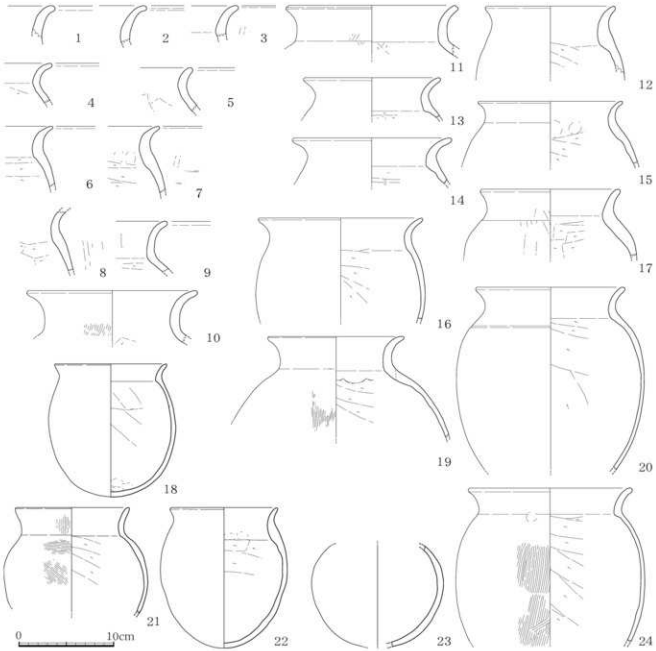
第6図　2号A・B竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）



第７図　３号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図(1)（1/80、1/40、1/4・23のみ1/2）

１号竪穴建物跡（第５図　図版２）

この建物跡は南側調査区南東側の壁際で確認された。平面形は方形を呈するとみられるが、東側は調査区外へ広がる。規模は南北軸約2.9m、南壁側で約4.15m、床面までの深さは約５cmを測る。また、床面の三方には壁際溝が掘りこまれ、西壁側には土坑状の落ち込みがある。床面に確認されたピットのうち、Ｐ１～Ｐ３の３本が



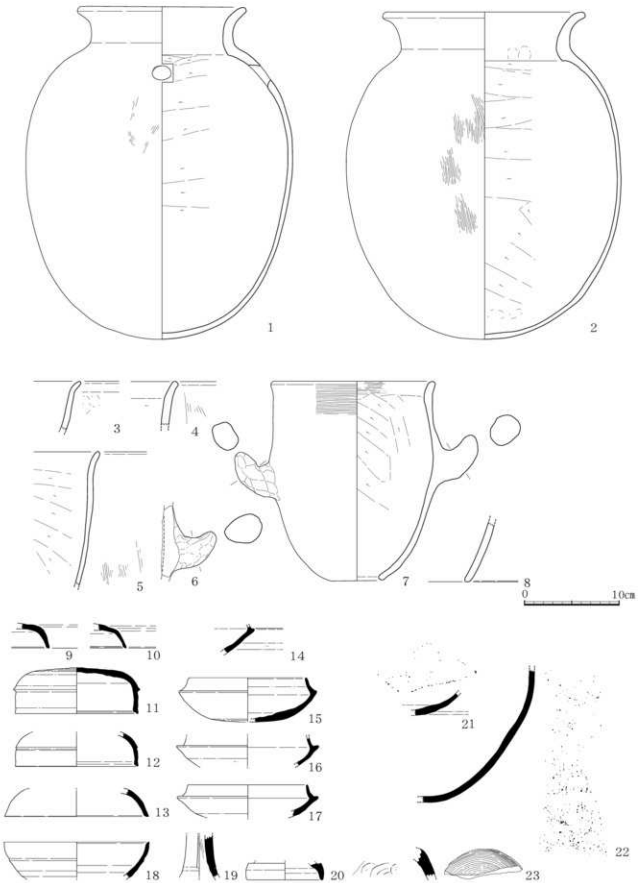
第８図　３号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)（1/4）

主柱穴になると考えられ、位置関係から北東側に１本存在すると考えられる。床面からの深さは30～40cmである。この他、壁際にはカマドは確認されず、床面にも炉跡及びその痕跡を窺わせるような焼土・炭は検出されなかった。

遺物は、土師器甕が出土した。

２号Ａ・Ｂ竪穴建物跡（第６図）

１号竪穴建物跡の北西側に隣接して確認されたこの建物跡については、当初、北側調査区との境界にあたるコンクリートブロックを挟んで、１軒の建物跡として考えていた。しかし、建物跡の規模などの検討をしていく中で、軸がややずれていることや、床面のレベルが異なること、南側で見られた壁周溝が北側ではみられないことから、１軒の建物跡とするにはやや無理があると判断し、切り合い関係にある２軒の建物跡とした。そこで南側

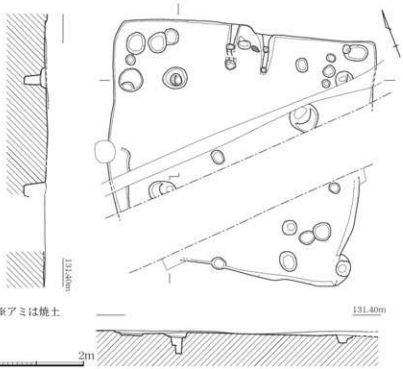


第９図　３号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)（1/4）

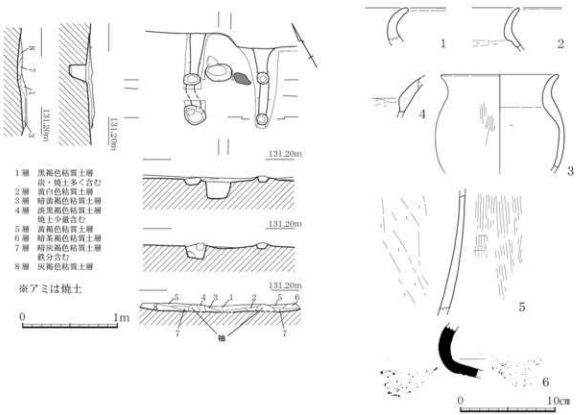
を２号Ａ竪穴建物跡、北側を２号Ｂ竪穴建物跡とする。

２号Ａ竪穴建物跡は南西側で６号Ａ竪穴建物跡と切り合う。平面形は方形を呈し、規模は東西軸約5.0m、南北軸約3.2m＋α、床面までの深さは約15cmを測る。床面には東・西側と南側の一部に壁際溝が掘られる他、４基のピットが確認され、最も深いもので約40cmを測る。ただ、これらのピットのうち、主柱穴になりうるものがあるかは判断できなかった。

２号Ｂ竪穴建物跡は北東側を８号土坑に切られる。平面形は方形を呈し、規模は東西軸約4.9m、南北軸約2.9m＋α、床面までの深さは約10cmを測る。床面には北側の一部に壁際溝、ピットが10数個確認できた。ただ、これらのピットは２号Ａ竪穴建物跡と同様



第10図　４号竪穴建物跡実測図（1/80）

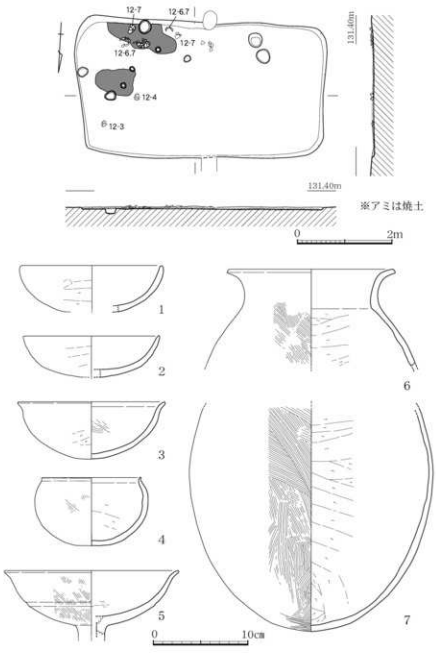


第11図　４号竪穴建物跡カマド（1/40）、出土遺物実測図（1/4）

に主柱穴と判断できるものはなかった。

また、両建物跡とも炉の痕跡を示すような、焼土・炭は確認されなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏蓋・坏身・高坏・甕、土師質土器皿が出土している。



第12図　5号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

3号竪穴建物跡

（第7～9図　図版2・3）

この建物跡は、2号A竪穴建物跡の西側で確認され、6号AB竪穴建物跡と切り合う。平面形は方形を呈し、規模は東西軸約5.5m、南北軸約5.0m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約40cmを測る。床面には四周に壁際溝が掘られ、ピットが10個以上確認された。ピットのうち、その位置関係や深さから、P1～P4の4本を主柱穴と判断した。なお、ピットの深さは床面から30～50cmを測る。

また、カマドは西壁中央付近に付設される。右袖および袖石、支脚は確認されたが、左袖は残っていなかった。ただし、袖石の抜き取り痕とみられるピットが確認された。カマドの寸法は右袖が約62cm、袖石の抜取り痕から推定される左袖の長さは約65cm、袖間の幅は袖石側で約44cmを測る。袖の内側と右袖石付近には火床面がみられ、石製の支脚が直立した状態で確認された。また、左袖が残っていなかったことから、なんらかの祭祀行為を行った可能性がある。

遺物は、床面およびやや浮いた状態で、土師器坏・高坏・甕・甑、須恵器坏身・坏蓋・高坏等が多く出土した。

4号竪穴建物跡（第10・11図　図版3・4）

この建物跡は調査区中央付近、北側調査区と南側調査区に跨って確認され、位置的に7号竪穴建物跡を切る可能性がある。平面形は方形を呈し、北西－南東軸約5.5m、北東－南西軸約5.1m、床面までの深さは最も残り

の良い部分で約10cmを測る。床面には、ピットが10数個確認されたが、位置関係や深さなどから、Ｐ１～Ｐ４の４本が主柱穴になると判断した。

カマドは北壁中央付近に付設される。両袖及び袖石の抜取り痕が確認された。カマドの寸法は右袖が約81cm、左袖が約97cm、袖間の幅は奥壁側は約55cm、袖石側で約53cmを測る。袖の内側には、支脚の抜取り痕とみられるピット及びその右側に火床面を検出した。また、土層観察の結果、祭祀行為を行った痕跡は確認することはできなかった。

遺物は、土師器甕・甑、須恵器甕が出土している。

５号竪穴建物跡（第12図　図版４）

この建物跡は南側調査区の西側で単独で確認された。平面形は長方形を呈し、東西軸約5.1m、南北軸約2.9m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約５cmを測る。床面にはピットが数個確認されたが、柱穴になりうるようなピットは確認できなかった。また、東隅及び南東隅では床面に焼土が確認されたが、明確にカマドとなるような痕跡は確認されず、地床炉であった可能性も考えられる。

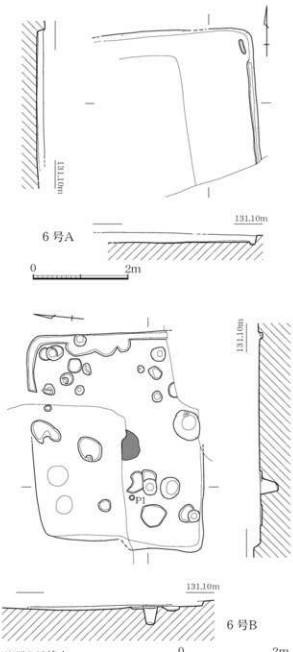
遺物は、土師器坏・椀・高坏・甕が出土している。

６号Ａ竪穴建物跡（第13・15図　図版５）

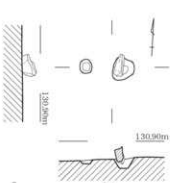
この建物跡は南側調査区の３号竪穴建物跡の南東側で確認され、３号竪穴建物跡と切り合い、６号Ｂ竪穴建物跡を切る。他の建物跡との切り合いから、北側と東側の壁しか残っていなかったが、平面形は方形を呈するとみられる。確認された部分の規模は、北壁側で約3.1m、東壁側で約2.7mである。床面にはピットは確認されなかったが、東壁側には壁際溝が掘り込まれていた。

６号Ｂ竪穴建物跡（第13～15図　図版５）

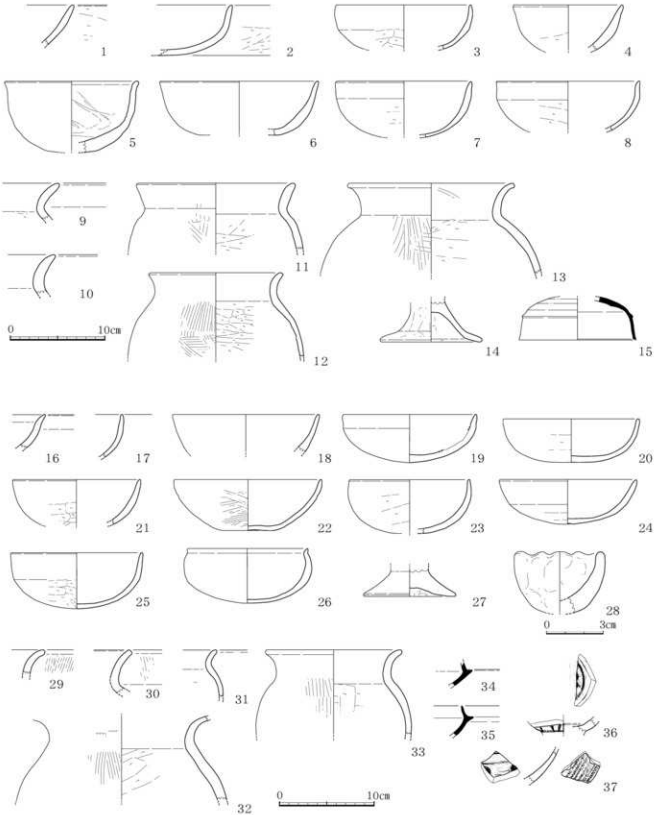
この建物跡は６号Ａ竪穴建物跡とほぼ同じ位置で確認され、これを切り、３号、９号ＡＢ竪穴建物跡と切り合う。平面形は他の建物跡と切り合いがあるものの、長方形を呈することがわかる。規模は東西軸約4.6m、南北軸約3.6m、床面までの深さは最も残りの良い部分で10cmを測る。床面にはピットが10数個確認されたが、確実に主柱穴となるようなピットは確認できなかった。ただし、Ｐ１が床面からの深さが40cmあり、主柱穴になる可能性はある。



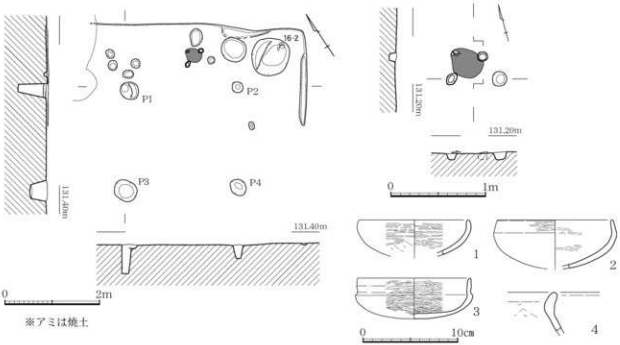
第13図　６号Ａ・Ｂ竪穴建物跡実測図（1/80）



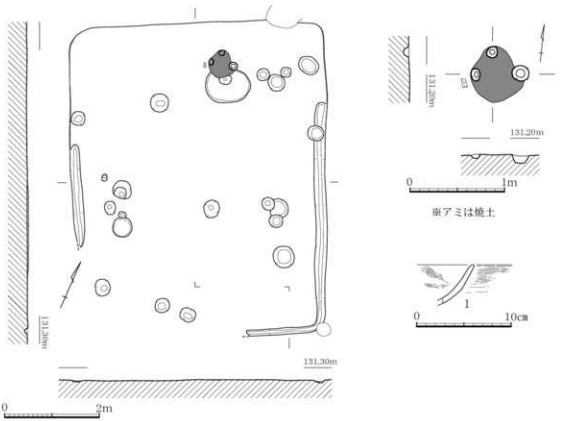
第14図　６号Ｂ竪穴建物跡カマド実測図（1/40）



第15図　6号A・B竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4・28のみ1/2）

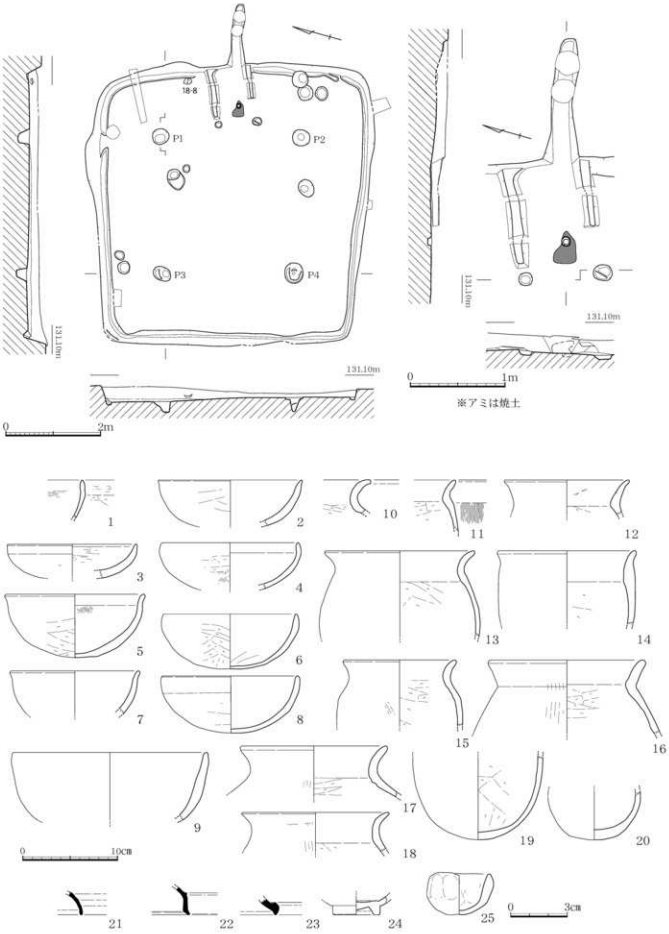


第16図　7号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

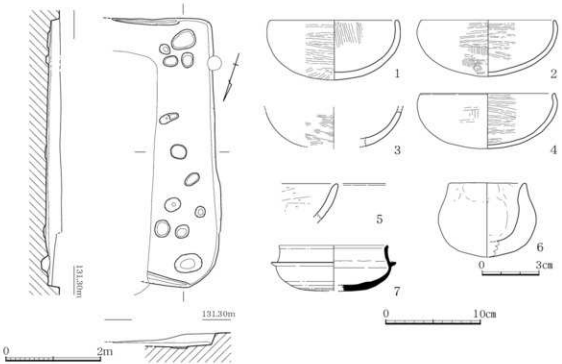


第17図　8号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

また、北側壁の東寄りには、石がほぼ直立したピットが確認されたが、カマドの袖石の可能性がある。なお、この２軒の出土遺物については、調査時に切り合いが判断できなかった部分もあり、遺物が混在していることから、一括して図示することにする。



第18図　9号Ａ竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4・25のみ1/2）



第19図　９号Ｂ竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4・6のみ1/2）

７号竪穴建物跡（第16図　図版６）

この建物跡は、南側調査区の３号竪穴建物跡と４号竪穴建物跡との間で確認されている。ほぼ床面まで削平を受けているため、北側と東側の一部で壁のラインや壁際溝が確認された程度であり、その状況から４・８号竪穴建物跡、２号土坑に切られていることが分かる。平面形については、方形を呈すると思われるが、規模は不明である。また、深さについても前述のとおり、削平を受けており、不明である。床面には10個ほどのピットが確認され、そのうち、Ｐ１～Ｐ４の４本が主柱穴になると考えられる。なお、床面からの深さは30～60㎝を測る。また、北側壁からＰ３、Ｐ４までの距離は約3.8mとなる。

また、北側の壁際では焼土とピット数個が確認されたことから、カマドと判断した。ただ、ピットと焼土の位置関係から、どれが袖石などの抜取り痕になるかは判断できず、規模については不明である。

遺物は、土師器坏・甕が出土している。

８号竪穴建物跡（第17図　図版７）

この竪穴建物跡は７号竪穴建物跡の南側で確認され、７号竪穴建物跡を切り、２号土坑に切られる。７号竪穴建物跡と同様に床面まで削平を受けているが、壁際溝や壁のラインが確認された部分から、平面形は長方形を呈し、規模は北西－南東軸約6.7m、北東－南西軸約5.4mを測る。また、床面には20個ほどのピットが確認されたが、主柱穴と判断できるものはなかった。

また、北側の壁から約80㎝内側には焼土と支脚・袖石の抜き取り痕とみられるピットが確認され、カマドと判断した。その寸法は、袖石の抜取り痕間で約35㎝を測る。なお、袖は削平を受けていたため、長さや奥壁側の幅などは不明である。

遺物は、土師器坏が出土している。

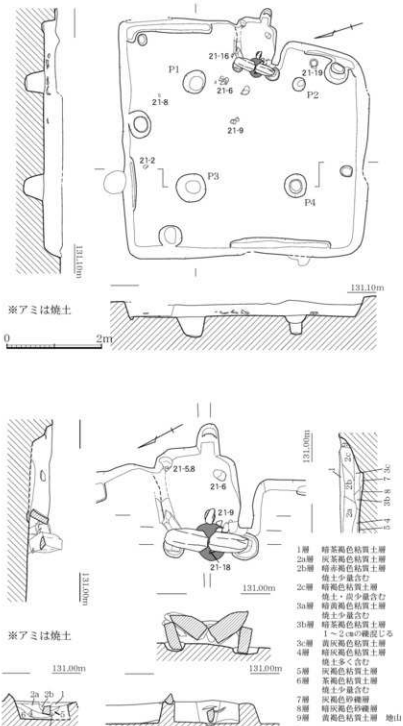
９号Ａ竪穴建物跡（第18図　図版７・８）

この竪穴建物跡は南側調査区の東側で確認され、９号Ｂ竪穴建物跡を切り、６号Ａ Ｂ竪穴建物跡と切り合う。

平面形は方形を呈し、規模は東西軸約5.9m、南北軸約5.4m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約35cmを測る。床面には四周に壁際溝が掘られ、ピットが10個以上確認された。ピットのうち、その位置関係や深さから、P1～P4の4本を主柱穴と判断した。なお、ピットの深さは床面から25～50cmを測る。

カマドは東壁中央付近に付設され、煙道が壁の外に伸びる。左袖及び右袖の一部は残っていたが、袖石、支脚は既になく、抜き取り痕とみられるピットが確認された。また、袖の内側には火床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約117cm、右袖が約75cm残存し、袖石の抜取り痕から推定される長さは約116cm、袖間の幅は奥壁側で約73cm、袖石側で約65cmを測る。また、煙道を含めた長さは約234cmとなる。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏蓋などが出土した。



第20図　10号竪穴建物跡、カマド実測図（1/80、1/40）

9号B竪穴建物跡

（第19図　図版8）

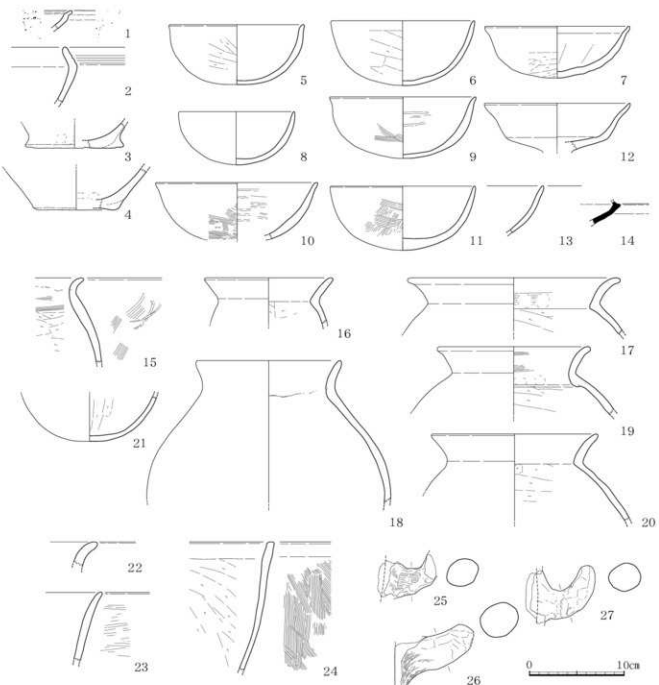
この竪穴建物跡は南側調査区の東側で確認、9号A竪穴建物跡に切られ、6号AB竪穴建物跡と切り合う。平面形は残存している西壁と南北の壁の一部から方形を呈することが分かる。規模は南北軸で約5.7m、南壁で約2.0m残る。床面までの深さは、最も残りのよい部分で約25cmを測る。床面には南北側で壁際溝、10個ほどのピットが掘り込まれているが、主柱穴と判断できるものはなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏身などが出土した。

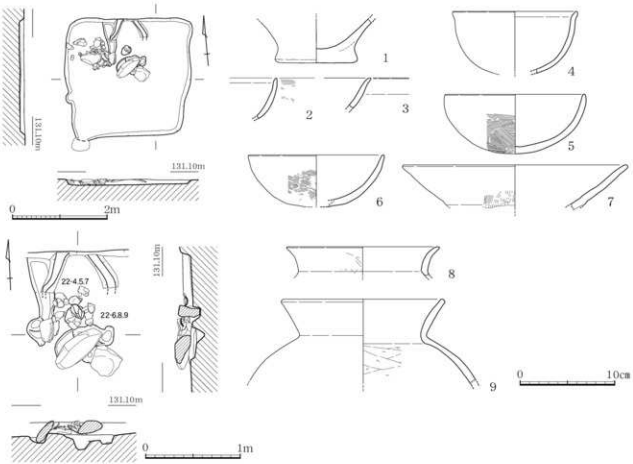
10号竪穴建物跡（第20・21図　図版９・10）

この竪穴建物跡は北側調査区南東隅で確認され、単独で存在する。平面形はやや歪な方形を呈し、規模は南北軸約5.1m、東西軸約6.0m、床面までの深さは最も残りのよい部分で約35cmを測る。床面には南壁を除き、壁際溝、９個のピットが確認された。これらのピットのうち、位置関係からＰ１～Ｐ４の４本が主柱穴になると判断した。なお、主柱穴の深さは床面から40～45cmを測る。

カマドは東壁中央よりやや南に付設され、短い煙道が壁の外に伸びる。左右の袖及び袖石・支脚・天井石が残存していた。なお、天井石は上面からの力で、ほぼ真っ二つに割れた状態で確認された。また、袖の内側には火



第21図　10号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）



第22図　11号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約90cm、右袖が約76cm、袖間の幅は奥壁側で約80cm、袖石側で約76cmを測る。また、煙道を含めた長さは約140cmとなる。

遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑などが出土した。

11号竪穴建物跡（第22図　図版10・11）

この竪穴建物跡は北側調査区の10号竪穴建物跡の西側で確認され、12号竪穴建物跡に切られる。平面形はほぼ正方形を呈し、規模は南北軸約2.5m、東西軸約2.7m、床面までの深さは最も残りのよい部分で約10cmを測る。床面にはピットや壁際溝等は確認されなかった。

カマドは北壁のほぼ中央に付設されるが煙道は確認できなかった。左の袖石及び支脚と天井石が残存していた。カマドの寸法は、左袖が約75cm、右袖が約83cm、袖間の幅は奥壁側約19cm、袖石側で約65cmを測る。

遺物は、カマド内とその左側を中心に、土師器坏・高坏・甕などが出土した。

12号竪穴建物跡（第23・24図　図版11・12）

この竪穴建物跡は北側調査区の11号竪穴建物跡の南側で確認され、これに切られる。平面形はほぼ正方形を呈し、規模は南北軸東側で約4.8m、東西軸約4.7m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約15cmを測る。床面には東壁、南壁、西壁の一部に壁際溝と10数個のピットが確認された。ピットのうち、その位置関係や深さからＰ１～Ｐ４が主柱穴と判断した。なお、主柱穴の深さは床面から25～40cmを測る。このほか、北西側には細長い土坑状の落ち込みがあるが、この竪穴建物跡に伴うものか、確認できなかった。

また、カマドが北壁のほぼ中央に付設されるが、煙道は確認できなかった。左右の袖の一部と袖石・支脚の抜取り痕と思われるピットが確認できた。袖石の抜取り痕から推定できる、カマドのす法は左袖が約70cm、右袖が約70cm、袖間の幅は奥壁側約68cm、袖石側で約42cmを測り、幅が比較的広い。

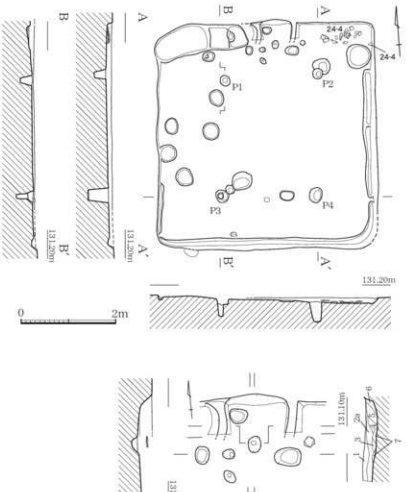
遺物は北東隅の床面近くで、土師器甕・甑、須恵器蓋坏が出土している。

13号竪穴建物跡

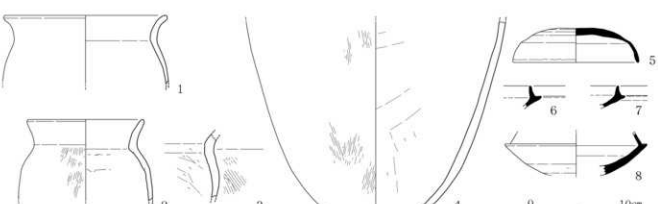
（第25図　図版12・13）

この竪穴建物跡は北側調査区のほぼ中央で確認され、単独で存在する。平面形は方形を呈し、規模は北東－南西軸で約4.6m、北西－南東軸で約4.9mを測り、床面までの深さは残りのよい部分でも5cm程度である。床面には北西壁及び南西壁の一部で壁際溝が掘り込まれている。また、10数個のピットが確認され、このうち、位置関係や深さからＰ１～Ｐ４が主柱穴と判断した。なお、主柱穴の深さは床面から25～35cmを測る。

また、カマドが北東壁の中央に付設されるが、煙道は確認できなかった。左右の袖はともに残存しており、袖の



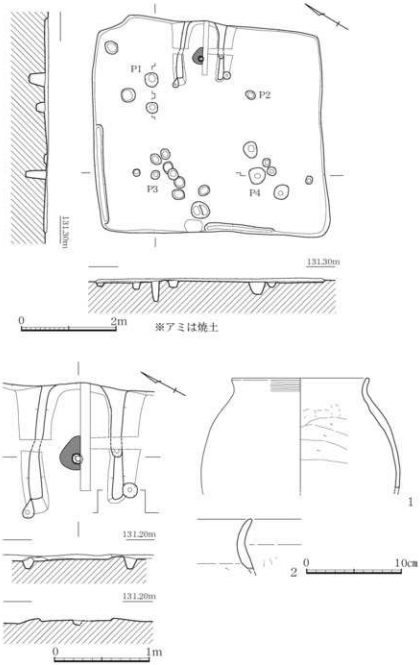
第23図　12号竪穴建物跡、カマド実測図（1/80、1/40）



第24図　12号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

内側には火床面及び支脚の抜取り痕とみられるピットが確認できた。カマドの寸法は左袖が約137cm、右袖が約121cm、袖間の幅は奥壁側が約61cm、袖石側が約64cmを測る。

遺物は、土師器甕などが出土している。



第25図　13号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

14号竪穴建物跡

（第26図　図版13）

この竪穴建物跡は北側調査区の中央南側付近、４号竪穴建物跡の北側で確認され、17号Ｃ竪穴建物跡を切り、17号Ａ竪穴建物跡に切られる。平面形は正方形を呈し、規模は北西－東軸約3.1m、北東－南西軸約3.4m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約10cmを測る。床面にはピットや土坑が確認されたが、柱穴など、住居と判断できるようなものはなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏身・蓋などが出土している。

16号竪穴建物跡

（第27図　図版14）

この竪穴建物跡は北側調査区の北側で確認され、18号Ｄ竪穴建物跡を切り、18号Ａ竪穴建物跡に切られる。平面形は東側が切られているものの、方形を呈すると思われる。規模は北西－南東軸約4.7m、北東－南西軸約4.8mを測り、床面までの深さは約10cmと大きく削平を受けている。床面には南西壁と北東・南東壁の一部に壁際溝と10数個のピットが確認された。これらのピットのうち、位置関係や深さからＰ１～Ｐ４が主柱穴と判断した。なお、床面からの深さは25～50cmを測る。

また、北西壁のほぼ中央にはカマドが付設される。袖は左右とも確認され、袖石及び支脚の抜取り痕と思われるピットが確認された。また、袖の内側には火床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約109cm、右袖が約105cm、袖間の幅は奥壁側約57cm、袖石側で約69cmを測る。

遺物は、土師器甕、須恵器高坏が出土している。

17号ＡＢＣ竪穴建物跡（第28・29図　図版14・15）

これらの竪穴建物跡は北側調査区の南側で確認され、それぞれの建物跡及び14号竪穴建物跡と切り合う。

17号Ａ竪穴建物跡の平面形は長方形を呈し、規模は北西－南東軸約6.0m、北東－南西軸約4.8m、床面までの深さは約20cmを測る。床面にピットが10数個確認されたが、主柱穴と判断できるものはなかった。

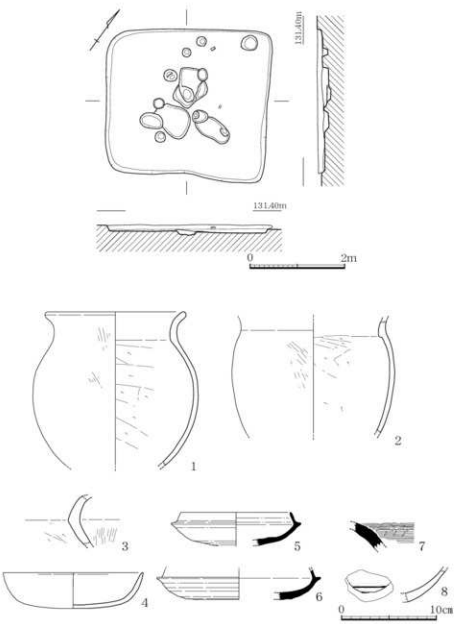
また、北東壁の中央付近にはカマドが付設される。袖は確認されなかったが、煙道の一部と袖石及び支脚の抜取り痕とみられるピットが確認された。カマドの寸法は抜取り痕から奥壁までの長さで左袖が約103cm、右袖が約114cm、袖間の幅は袖石側で約87cmを測る。

17号Ｂ竪穴建物跡は17号Ａ竪穴建物跡に切られる。平面形は南東側の壁がやや広がるが、方形を呈していたと思われる。規模は北西－南東軸約5.6m、東壁側で約4.7m、床面までの深さは最も深いところで約10cmを測る。床面にはピットが10個ほど確認されたが、主柱穴と判断できるものはなかった。

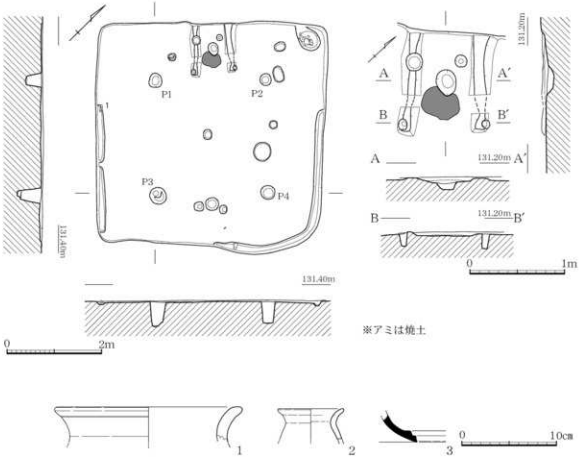
また、北東壁の中央付近に焼土がみられる土坑状の落ち込みを検出した。カマドの可能性も考えられるが、袖や袖石、支脚の痕跡など、明確にカマドと判断できるものがなかった。なお、寸法は北東－南西軸約105cm、北西－南東軸約80cmを測る。

17号Ｃ竪穴建物跡は17号Ｂ竪穴建物跡を切り、17号Ａ竪穴建物跡に切られる。北側が削平を受けているものの、平面形は方形を呈すると思われる。規模は東西軸約4.0m、南北軸約3.6m＋α、床面までの深さは最も残りのよい部分で約10cmを測る。また、床面にはピットが10個以上確認されたが、主柱穴と判断できるものはなかった。

遺物については、17号Ｂ竪穴建物跡を中心に土師器坏・甕・高坏、須恵器蓋坏などが出土している。なお、どの住居からの出土か、判断できなかったものは、17号竪穴建物跡一括として、報告する。



第26図　14号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）



第27図　16号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

18号Ａ竪穴建物跡（第30・31図　図版16）

この竪穴建物跡は北側調査区の北側で確認され、16号、18号Ｂ・Ｃ・Ｄ竪穴建物跡を切る。平面形は当初正方形に近い形状を呈するかと思われたが、最終的には長方形を呈する部分もあることがわかった。そのため、一部掘り間違えた可能性と２軒の切り合いもしくは拡張した可能性がある。平面形が長方形になると想定した場合の規模は南北軸約5.1m、東西軸約4.6m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約20㎝を測る。また、床面には西壁側及び東壁、南壁の一部に壁際溝があり、ピットは20個以上が確認された。これらのピットのうち、深さや位置関係から、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴になると判断した。なお、主柱穴の深さは床面から25～60㎝を測る。

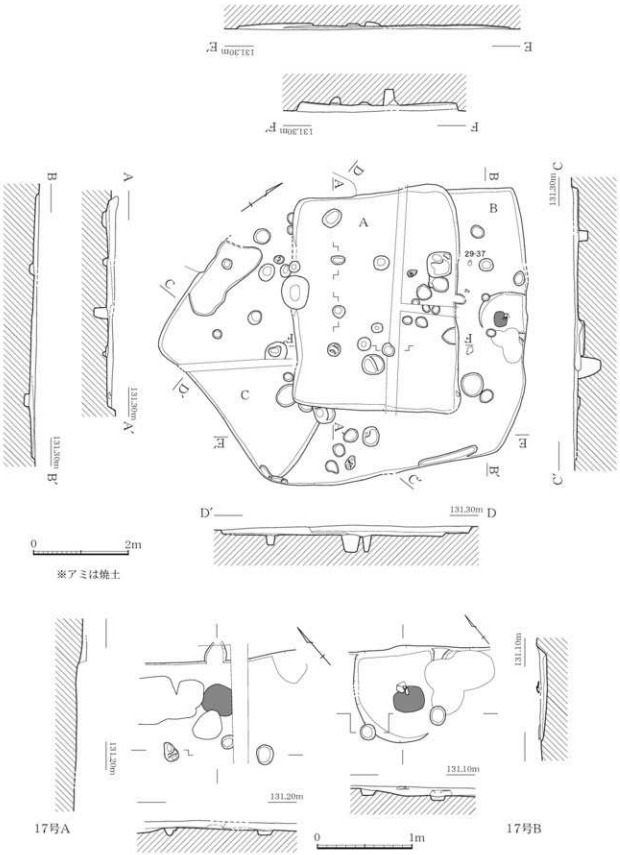
また、北壁の中央付近において、土坑状の落ち込みと焼土を検出し、その内側で石材片などを確認した。検出された位置や石材が出土したことから、カマドの可能性があるが、袖や袖石・支脚、またその抜取り痕など、カマドと断定できるものは確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕・壺・甑、須恵器蓋坏・蓋・高坏が出土している。

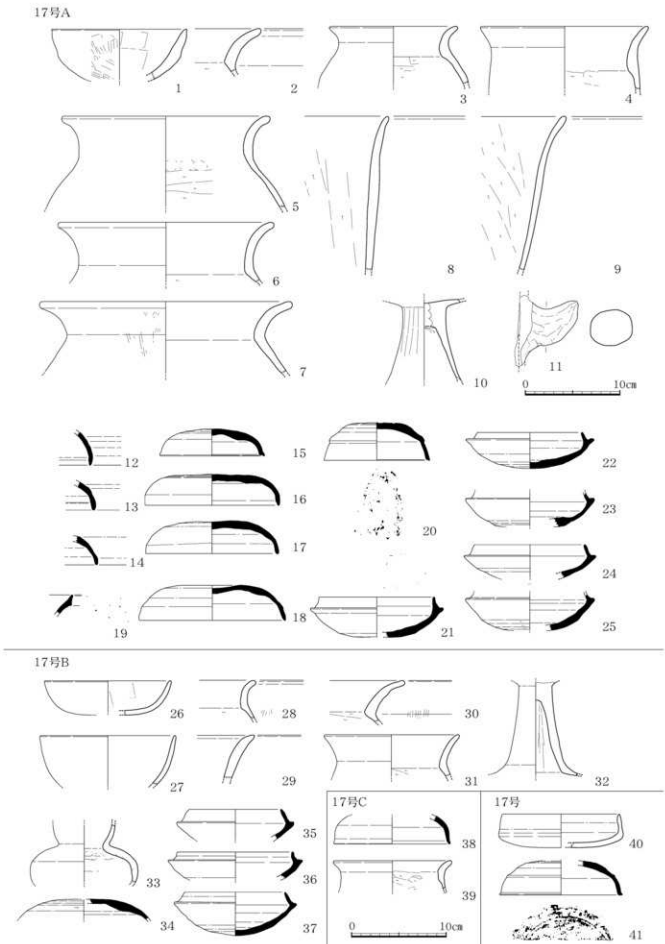
18号Ｂ竪穴建物跡（第32・33図　図版17）

この竪穴建物跡は18号Ａ竪穴建物跡の東側で確認され、18号Ａ・Ｃ、24号Ｂ竪穴建物跡に切られる。平面形は東壁と南壁の一部しか残っていないが、方形を呈すると思われる。規模は東壁で約4.8m、南壁で約4.3m、床面までの深さは最も残りのよい部分で約15㎝を測る。床面にはピットは10個前後確認され、位置関係や深さから、Ｐ１～Ｐ４の４本が主柱穴と判断した。なお、主柱穴の床面から深さは25～45㎝を測る。

なお、カマドや炉跡を示すような焼土や炭は確認できなかった。



第28図　17号A・B・C竪穴建物跡、カマド実測図（1/80、1/40）



第29図　17号Ａ・Ｂ・Ｃ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

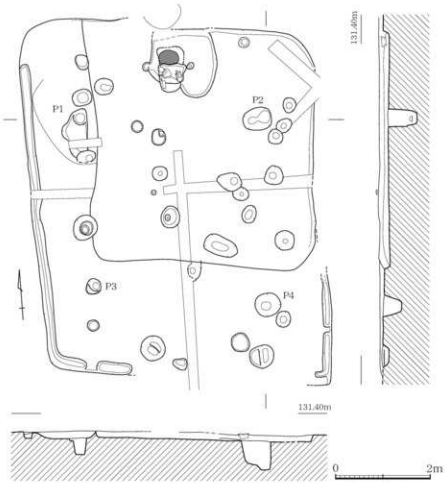
遺物は、土師器坏・甕、須恵器甑・器台などが出土している。

18号Ｃ竪穴建物跡

（第34図　図版17）

この竪穴建物跡は18号Ａ竪穴建物跡の北東側で確認され、19号Ｃ、24号Ｂ竪穴建物跡に切られる。平面形は西壁と南壁の一部のみが残っている程度だが、方形を呈すると思われる。規模は、西壁で約2.9m＋α、南壁で約2.6m＋α、床面までの深さは最も残りのよい部分で約20cmを測る。床面にはピットが数個確認されたが、主柱穴にと判断できるものはなく、また、カマドや炉跡を示すような焼土や炭は確認できなかった。

遺物は出土しなかった。



第30図　18号Ａ竪穴建物跡、カマド実測図（1/80、1/40）

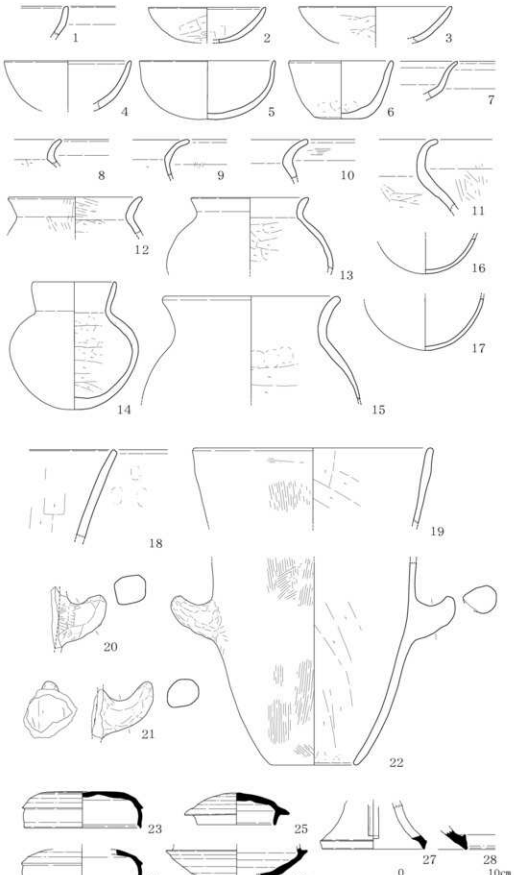
18号Ｄ竪穴建物跡（第34図）

この竪穴建物跡は、18号Ａ竪穴建物跡の北側で確認され、この建物跡と16号竪穴建物跡に切られる。平面形は北壁と東壁の一部が確認されたのみであるが、方形と思われる。規模は、北壁で約1.4m＋α、東壁で約1.0m＋α、床面までの深さは約５cmと浅い。床面ではピット等は確認されず、また遺物も出土しなかった。

19号ＡＢＣ竪穴建物跡（第35・36図　図版17・18）

これらの竪穴建物跡は、北側調査区の中央北端で確認され、ＡＢＣの順で切り合い、また18号Ｃ竪穴建物跡に切られる。また、Ｂ・Ｃ竪穴建物跡の南東側は調査区外へ広がる。

19号Ａ竪穴建物跡は、東壁・北壁の一部が残るのみであるが、平面形は方形を呈すると思われる。床面の東側に壁際溝が確認されたほか、数個のピットが見られたが、主柱穴と判断できるものや、焼土・炭など炉跡やカマドの痕跡を示すものは検出されなかった。



第31図　18号Ａ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

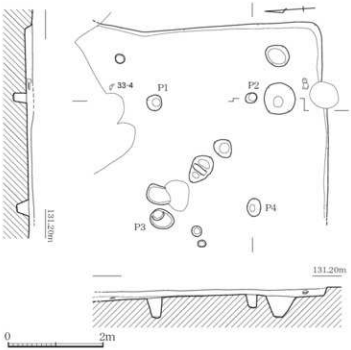
遺物は、土師器甕・甑、須恵器坏身などが出土した。

19号Ｂ竪穴建物跡は北西壁・南東壁の一部のみが残存しているが、平面形は方形を呈すると思われる。床面にはピットが数個確認されたが、主柱穴に判断できるものや、焼土・炭などが跡やカマドの痕跡を示すものは検出されなかった。

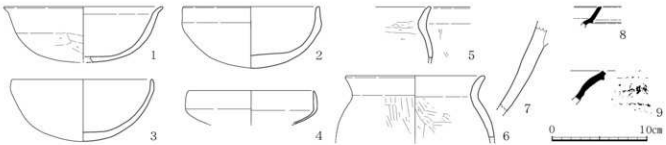
遺物は、出土しなかった。

19号Ｃ竪穴建物跡は南東壁及び北東・南西壁の一部が残存しているが、平面形は方形を呈すると思われる。規模は東西軸約4.7m、南北軸約3.1m＋α、床面まで深さは最も残りの良い部分で約30cmを測る。

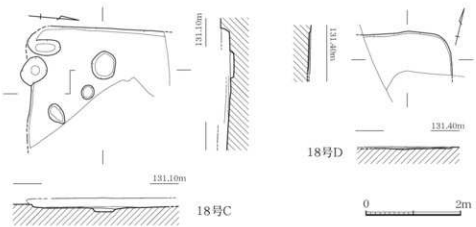
床面には北東側の一部に壁際溝があり、ピットが10個ほど確認された。ピットのうち、その位置関係や深さからＰ１～Ｐ４を主柱穴と判断した。なお、主柱穴の床面からの深さは40



第32図　18号Ｂ竪穴建物跡実測図（1/80）



第33図　18号Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）



第34図　18号Ｃ・Ｄ竪穴建物跡実測図（1/80）

～65cmを測る。

また、カマドは南西壁に付設され、短い煙道が壁の外に伸びる。左右の袖はともに一部が確認され、袖石・支脚などが残存していなかったが、その抜取り痕とみられるピットは確認できた。また、袖の内側には火床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約80cm、右袖が約75cm、袖間の幅は奥壁側・袖石側ともに約75cmを測る。また、煙道を含めた長さは約120cmとなる。

遺物は、土師器坏・甕・甑、須恵器坏身・高坏などが出土した。

20号竪穴建物跡（第37・38図　図版18）

この竪穴建物跡は北側調査区北東側で確認され、27号竪穴建物跡を切る。また、北側は調査区外へ広がるが、平面形は方形を呈すると思われる。規模は南北軸約3.7m＋α、東西軸約4.9m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約45cmを測る。

床面には、確認された三方の壁に壁際溝があり、ピットが6個確認された。これらのピットのうち、位置関係や深さからＰ１～Ｐ４を主柱穴と判断した。なお、主柱穴の床面からの深さは15～40cmを測る。

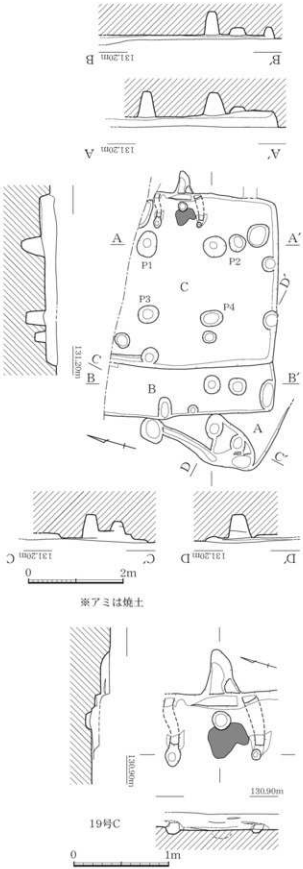
また、この他、床面にはカマドや炉の痕跡を示す焼土や炭などは確認されなかったことから、調査区外となる北壁側にカマドを付設していた可能性がある。

遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑、須恵器蓋坏・甕・高坏などが出土した。

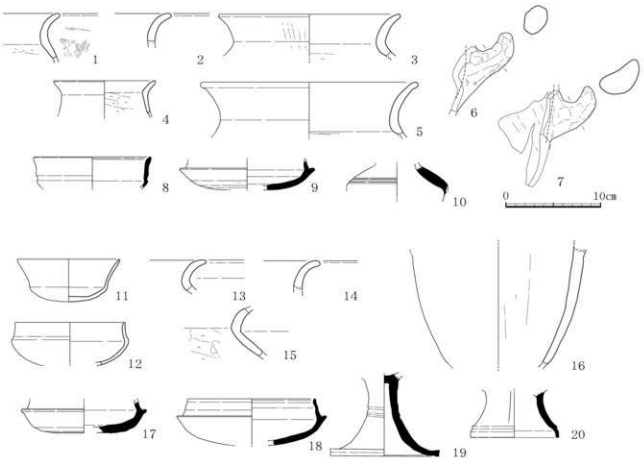
21号竪穴建物跡（第39・40図　図版19・20）

この竪穴建物跡は北側調査区東側で確認され、22号Ｄ竪穴建物跡を切り、22号Ｂ竪穴建物跡に切られる。平面形は現状からほぼ正方形を呈すると思われる。規模は南北軸約5.1m、東西軸約4.9m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約25cmを測る。

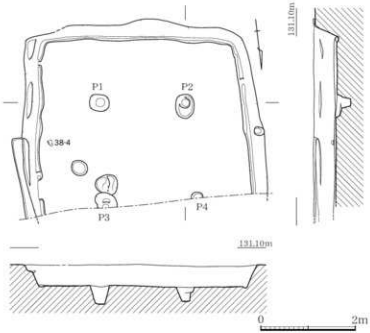
床面には東壁の一部に壁際溝があり、ピットが10個ほど確認された。これらのピットのうち、位



第35図　19号Ａ・Ｂ・Ｃ竪穴建物跡、カマド実測図（1/80、1/40）



第36図　19号Ａ・Ｃ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

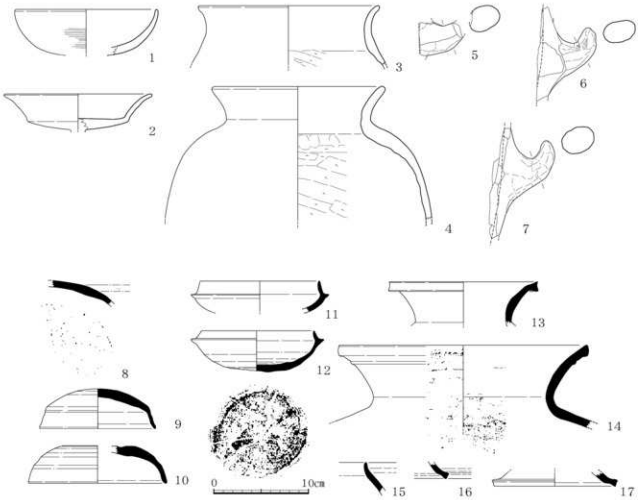


第37図　20号竪穴建物跡実測図（1/80）

置関係や深さから、Ｐ１～Ｐ４の４本が主柱穴と判断した。なお、Ｐ３については、22号Ｂ竪穴建物跡内で確認した。主柱穴の床面からの深さは25～55㎝を測る。

また、北壁中央にはカマドが付設され、煙道がわずかに残る。左右の袖及び袖石、支脚などほとんどが残存していた。なお、袖の内側には火床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約73㎝、右袖が約86㎝、袖間の幅は奥壁側で約31㎝、袖石側で約50㎝を測る。また、煙道を含めた長さは約86㎝となる。さらに袖の内側及び左右の袖の内側において、遺物が多く出土し、これらの一部は床面直上より出土している。

遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑、須恵器蓋坏などが出土している。



第38図　20号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

22号Ａ竪穴建物跡（第41・42図　図版20・21）

この竪穴建物跡は北側調査区東側で確認され、21号・22号ＢＣＤ竪穴建物跡を切り、３・５号掘立柱建物跡に切られる。北壁側をトレンチによる掘り下げで確認できなかったものの、平面形は方形を呈するものと思われる。規模は南北軸約6.2m、東西軸約6.4m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約25㎝を測る。

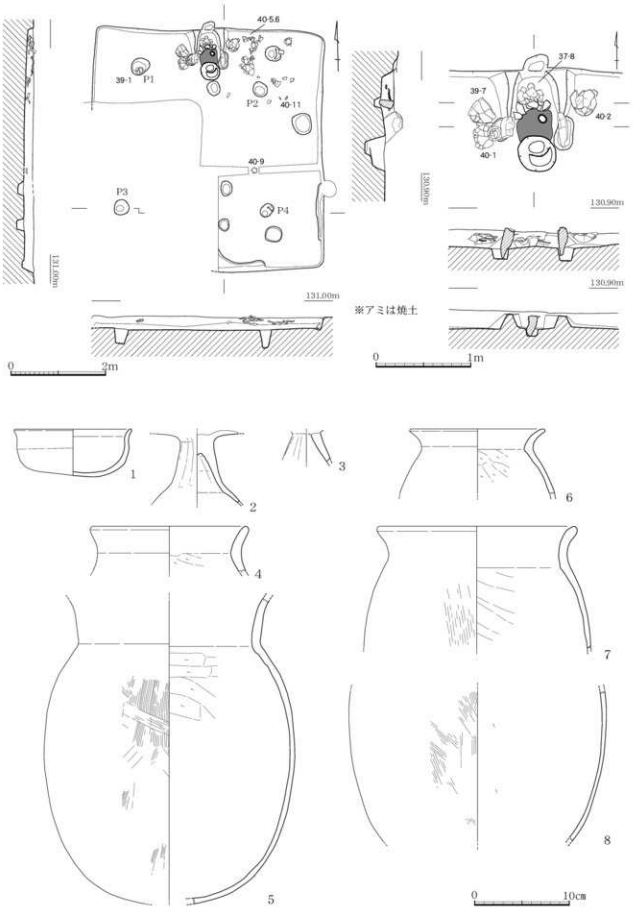
床面には部分的に壁際溝があり、ピットが数10個確認された。確認されたピットの内、位置関係や深さからＰ１～Ｐ４の４本が主柱穴になると判断した。主柱穴の深さは床面から20～40㎝を測る。

また、北壁の中央からやや東寄りにはカマドが付設される。前述のように建物跡の北壁が確認できなかったことから、煙道の有無は不明である。左右の袖は内側が残るものの、外側は削平を受けている。袖石は左右とも確認され、その上部には天井石が残っていた。また、袖の内側には火床面が見られる。カマドの寸法は左袖が約90㎝＋α、右袖は約78㎝＋α、袖間の幅は奥壁側で約55㎝、袖石側で約70㎝を測る。

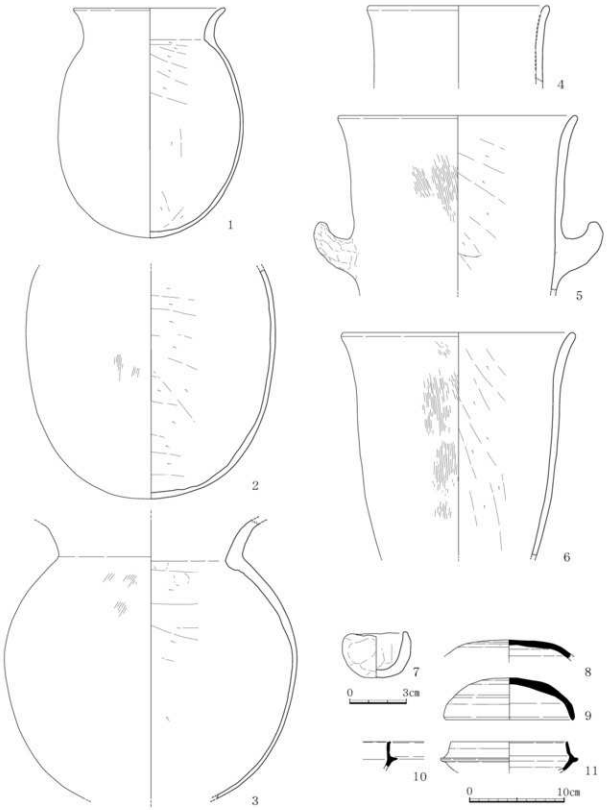
遺物は、土師器坏・高坏・甑が出土している。

22号Ｂ竪穴建物跡（第43図　図版21）

この竪穴建物跡は22号Ａ竪穴建物跡の北側で確認され、この建物跡に切られ、21号竪穴建物跡を切る。壁は北壁のほか、東西壁の一部が残っているのみであるが、平面形は方形を呈すると思われる。規模は東西軸約6.0m、南北軸が約1.3m＋α、床面までの深さは最も残りの良い部分で約30㎝を測る。



第39図　21号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図(1)（1/80、1/40、1/4）



第40図　21号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)（1/4・7のみ1/2）

床面には壁際溝は見られず、ピットが９個確認されたが、主柱穴と判断できるようなピットはなかった。

カマドは北壁のほぼ中央に付設される。煙道は確認できなかったが、右袖及び支脚とその前面に火床面が確認できた。左袖については、土層観察の結果、焼土が想定される左袖の位置より、大きく外側に確認されたため、住居廃絶時に破壊されたと考えられる。なお、規模は右袖の長さが約98cmを測る。

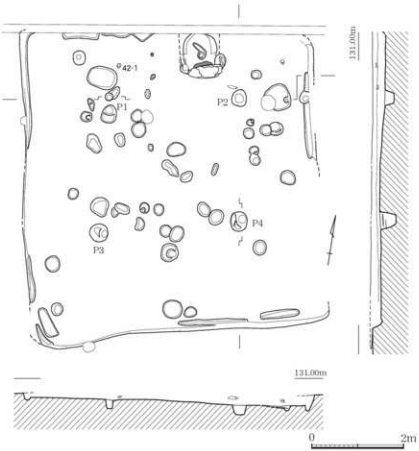
遺物は、土師器坏・高坏・甕が出土している。

22号Ｃ竪穴建物跡（第44・45図　図版22）

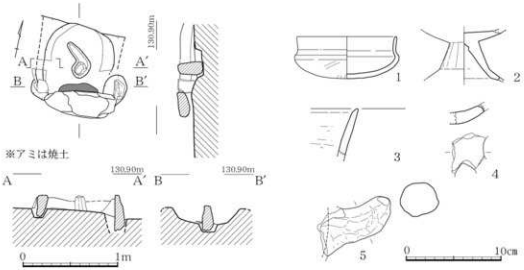
この竪穴建物跡は北側調査区東側の22号Ａ竪穴建物跡の西側で確認され、この建物跡と５号掘立柱建物跡に切られる。建物跡のほぼ東半分が切られているが、平面形は方形を呈すると思われる。規模は南北軸約5.7m、北壁で約2.6m＋α、床面までの深さは最も残りの良い部分で約20cmを測る。

床面には壁際溝が部分的にみられ、ピットが数個確認された。これらのピットと22号Ａ竪穴建物跡内で確認されたピットの位置関係や深さから、Ｐ１～Ｐ４の４本が主柱穴と判断した。これにより、西壁からＰ３までの東西軸の規模は少なくとも4.3mを測る。なお、主柱穴の深さは床面から30～60cmを測る。

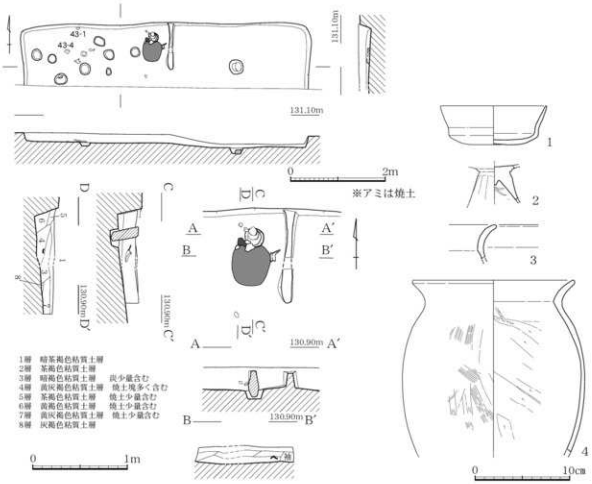
カマドは西壁の中央よりやや



第41図　22号Ａ竪穴建物跡実測図（1/80）



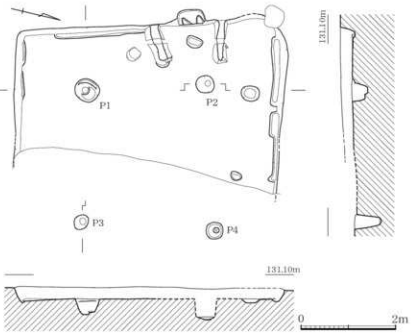
第42図　22号Ａ竪穴建物跡カマド、出土遺物実測図（1/40、1/4）



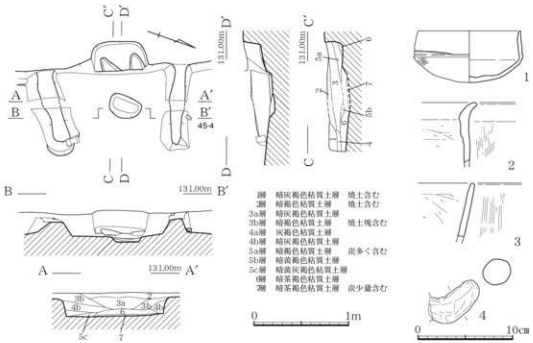
第43図　22号Ｂ竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

北側に付設され、壁側には突出部が見られるが、煙道となるかは判断できなかった。袖は左右ともに残り、袖の内側には、支脚の抜取り痕と見られるピットが確認されたが、袖石及び火床面は検出できなかった。カマドの寸法は左袖が約93㎝、右袖が約90㎝、袖間の幅は奥壁側で約130㎝、端部側で約112㎝を測る。

遺物は、土師器坏・甑が出土している。



第44図　22号Ｃ竪穴建物跡実測図（1/80）

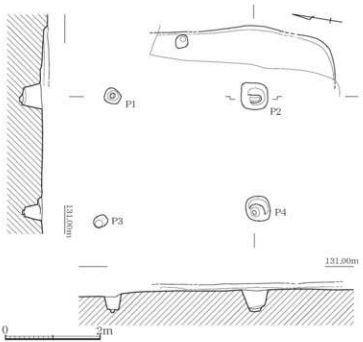


第45図　22号Ｃ竪穴建物跡カマド、出土遺物実測図（1/40、1/4）

22号Ｄ竪穴建物跡（第46図　図版22）

この竪穴建物跡は北側調査区東側で確認され、21・22号Ａ竪穴建物跡に切られる。大部分を他の建物跡に切られているものの、平面形は方形を呈すると思われる。規模は東壁が約3.4mを測るが、22号Ａ竪穴建物跡内で確認できたＰ１～Ｐ４が主柱穴と考えられることから、規模は少なくとも南北軸約4.9m、東西軸約4.1mを測る。また、床面までの深さは東側で約10cmである。なお、主柱穴の深さは40～50cmを測る。

遺物は22号Ａ～Ｄ竪穴建物跡一括出土のものがあるが（第47図　図版46・47）、確実にこの建物跡から出土したと判断できるものはなかった。

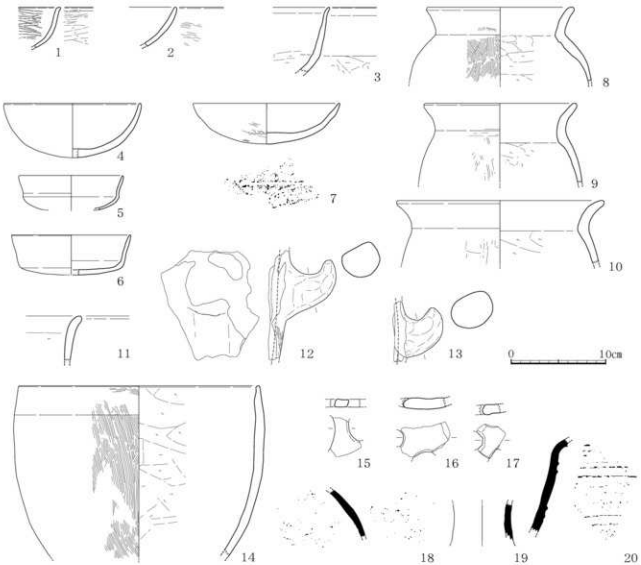


第46図　22号Ｄ竪穴建物跡実測図（1/80）

23号Ａ竪穴建物跡（第48～50図　図版23）

この竪穴建物跡は北側調査区北東側の22号Ｃ竪穴建物跡の北東側で確認され、23号Ｂ・Ｃ竪穴建物跡と切り合う。平面的な切り合い関係はＣ→Ｂ→Ａの順番となっているが、遺物を検討する限りでは、切り合い関係が逆転することも考えられる。詳細については、後述する。

平面形は方形を呈し、規模は南北軸約4.5m、東西軸約4.8m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約50cmを測る。床面には一部に壁際溝が見られ、ピットが数個確認された。これらのピットのうち、位置関係や深さからＰ１～Ｐ４が主柱穴と判断した。なお、主柱穴の深さは20～45cmを測る。この他、Ｐ１付近において、焼土



第47図　22号Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

が確認された。この焼土がカマドに伴うものなのか、もしくは23号Ｂ竪穴建物跡に伴うものなのか、判断できなかった。

遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑、須恵器坏身・高坏・甕などが出土している。

23号Ｂ竪穴建物跡（第51・52図　図版23・24）

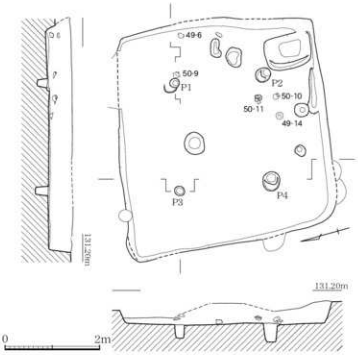
この竪穴建物跡は23号Ａ竪穴建物跡の東側で確認され、23号ＡＣ竪穴建物跡と切り合い、27号竪穴建物跡を切る。平面形は方形を呈し、規模は南北軸約5.9m、東西軸約5.2m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約30cmを測る。床面には、ほぼ全体にわたって壁際溝が掘り込まれ、ピットが10数個確認された。これらのピットのうち、位置関係や深さからＰ１～Ｐ４が主柱穴と判断した。なお、主柱穴の深さは50～55cmを測る。

カマドは東壁のほぼ中央に付設され、約100cmの煙道が確認された。袖は右袖が壁際から約31cmだけ残り、それ以外が確認できなかった。なお、袖石の抜取り痕とみられるピットは左右ともにみられ、袖の内側には、火床面とその内側に支脚が立った状態で確認された。袖石の抜取り痕から推定されるカマドの寸法は左袖が約104cm、

右袖が約118cm、袖間の幅は端部側で約45cmを測る。

また土層観察の結果、焼土が袖の位置より外側に見られることから、意図的に破壊されたものと見られ、祭祀行為に伴うものとも考えられる。

遺物はカマドの内側より土師器坏・甕・甑、須恵器甕などが多く出土した。



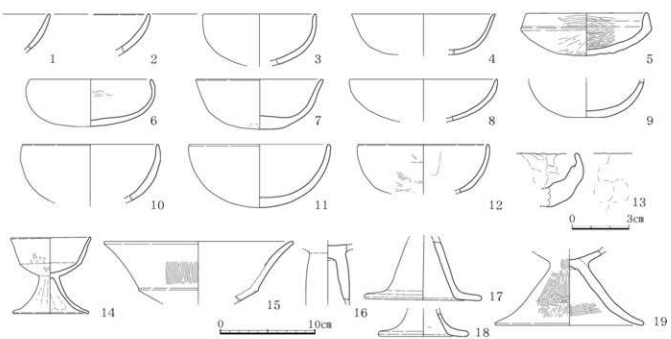
第48 図　23号Ａ竪穴建物跡実測図（1/80）

23号Ｃ竪穴建物跡

（第53・54図　図版24・25）

この竪穴建物跡は23号ＡＢ竪穴建物跡の北側で確認され、これらの建物跡と切り合う。平面形は北壁と東西壁の一部しか確認されていないが、方形を呈するとみられる。床面にはピットが５個確認されたが、このうち、Ｐ１とＰ２及び23号Ａ竪穴建物跡内で確認されたＰ３・Ｐ４が位置関係や深さから主柱穴になると推定される。よって規模は北壁からＰ３までの南北軸で約3.5m、北壁側で約5.4mを測る。なお、床面までの深さは約25cmである。

カマドは北壁のほぼ中央に付設されているが、突出部は検出されなかった。袖は両側とも残り、袖石も確認された。袖の内側には火床面・支脚の抜取り痕が確認され、天井石の一部と考えられる石材もあった。カマドの寸法は、右袖が約70cm、左袖が約76cm、袖間の幅は奥壁側が約43cm、端部側で約44cmを測る。



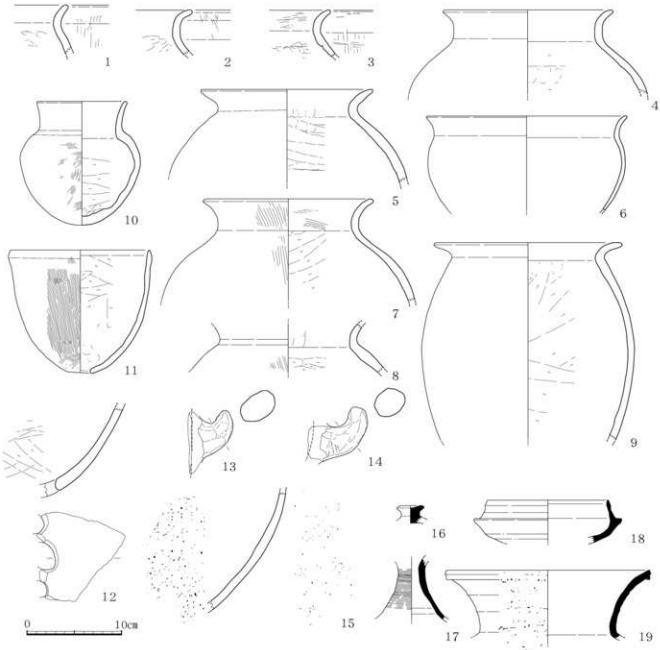
第49図　23号Ａ竪穴建物出土遺物実測図(1)（1/4）

遺物は、土師器坏・甕・甑、須恵器坏蓋などが出土した。

また、このほか23号A～C竪穴建物跡出土遺物（第55図　図版50）がある。

24号ＡＢ竪穴建物跡（第56～58図　図版26・27）

この竪穴建物跡は北側調査区の北側中央付近で確認され、18号Ｂ・Ｃ、25号竪穴建物跡を切る。切り合い関係は24号Ｂ→24号Ａになると考えられる。24号Ａ竪穴建物跡はほぼ方形の平面形を呈し、規模は北西－南東軸約3.5m、北東－南西軸約3.6m、検出面からの深さは最も深い部分で約60cmを測る。床面にはピットが10数個確認されたが、主柱穴と判断できるものはなかった。



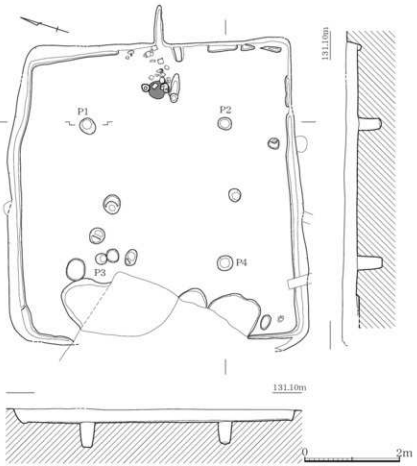
第50図　23号Ａ竪穴建物跡出土遺物実測図(2)（1/4）

カマドは南東壁のほぼ中央に付設され、方形の突出部が確認された。袖は右袖が確認されたが、左袖は奥壁の一部のみしか検出されなかった。袖石は両袖とも残ってなく、抜取り痕とみられるピット、その内側では、火床面は検出されなかったものの、支脚の抜取り痕とみられるピットが確認された。袖石の抜取り痕より推定できるカマドの寸法は右袖が約65㎝、左袖が約69㎝、袖間の幅は奥壁側が約45㎝、端部側で約71㎝を測る。

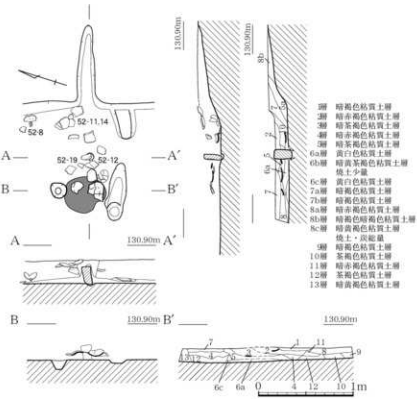
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏身・甕などが出土した。

24号B竪穴建物跡は24号A竪穴建物跡と同様平面形は方形を呈するが、規模は、北西－南東軸約5.0m、北東－南西軸約5.1mと一回り大きく、検出面からの深さは約40㎝を測る。床面には一部壁際溝が掘り込まれ、また、ピットが多く確認されたものの、24号A竪穴建物跡との切り合い関係を明確にできなかったことから、どのピットが主柱穴となるか、判断できなかった。

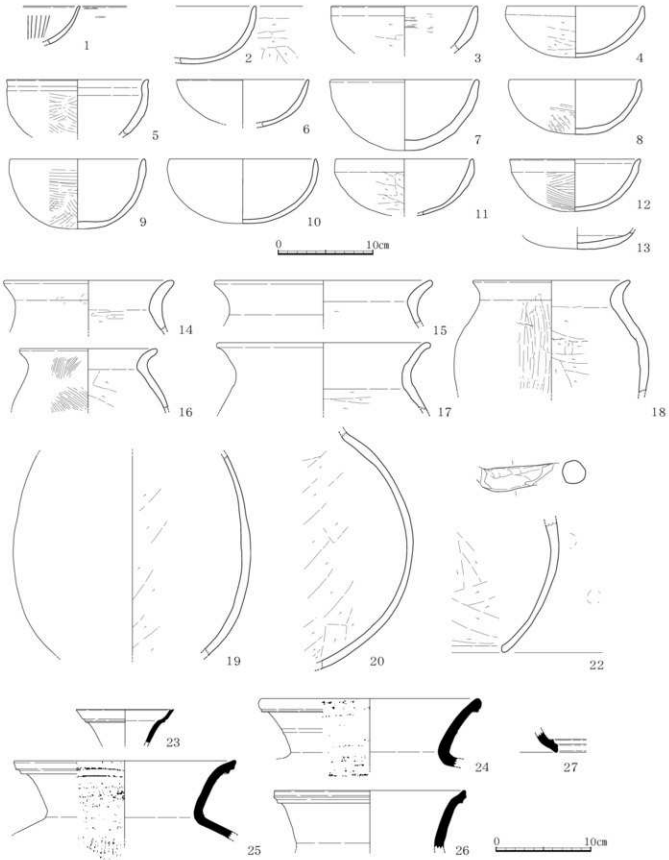
カマドは北西壁のほぼ中央に付設され、半円形の突出部が確認された。袖は左右及び袖石ともに検出できなかったが、袖石の抜取り痕とみられるピットが確認できた。そのピットの内側には火床面、その中央付近に支脚が直立した状態で見つかった。カマドの寸法は、右袖が約44㎝、左袖が約41㎝、袖間の幅は端部側で約71㎝を測る。



※アミは焼土



第51図　23号B竪穴建物跡、カマド実測図（1/80、1/40）



第52図　23号Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

遺物はカマド内部を中心に土師器坏・高坏・甕、須恵器坏蓋・坏身などが出土した。

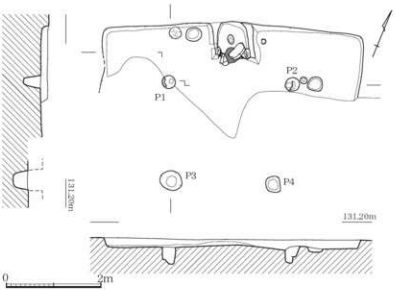
25号竪穴建物跡

（第59・60図　図版27）

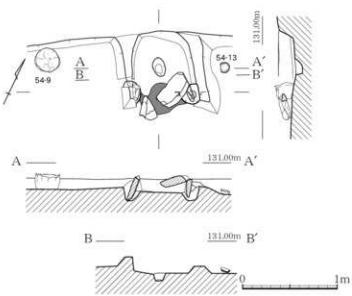
この竪穴建物跡は北側調査区中央の北壁際で確認され、南側は24号A竪穴建物跡に切られ、北側は調査区外へ広がる。平面形は東西の壁の一部しか確認できていないものの、北東隅に建物跡のコーナーがあると見られ、方形を呈すると考えられる。規模は東西軸約4.7m、東壁で約2.5m、検出面からの深さは最も深い部分で約30cmを測る。床面には東側に壁際溝とみられる掘り込みやピット10個ほど確認された。これらのピットの内、P１～P３のいずれか、P４が位置関係から主柱穴になるとみられる、さらに24号A竪穴建物跡内で確認された、P５・P６も主柱穴となる可能性が高く、その場合は、南北軸の規模は約3.3m＋αとなる。

この他、カマドの痕跡を示すような焼土や炭などは検出されなかった。

遺物は土師器坏・甕・高坏などが出土している。



※アミは焼土

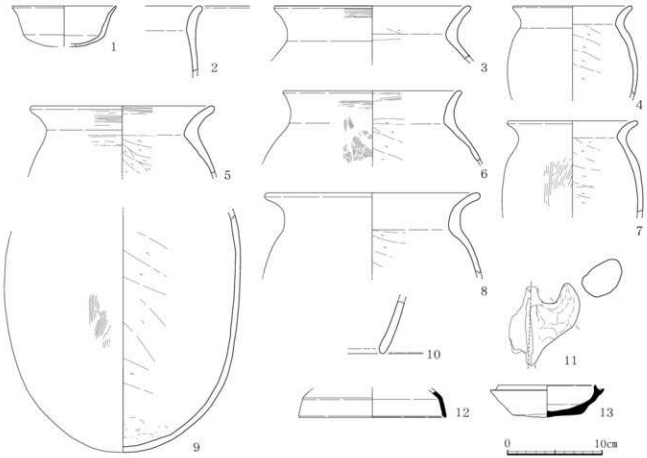


第53図　23号C竪穴建物跡、カマド実測図（1/80、1/40）

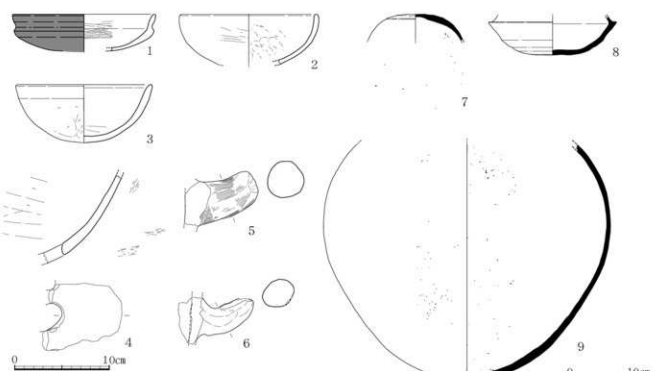
26号竪穴建物跡（第61図　図版28）

この竪穴建物跡は北側調査区の北東側で確認され、27号竪穴建物跡を切る。平面形は方形を呈し、規模は南北軸約3.5m、東西軸約3.0m、検出面からの深さは最も深い部分で約20cmを測る。床面には東壁から南壁にかけて壁際溝が掘り込まれ、床面には10個ほどのピットが確認された。ただ、主柱穴と判断できるようなピットはなかった。

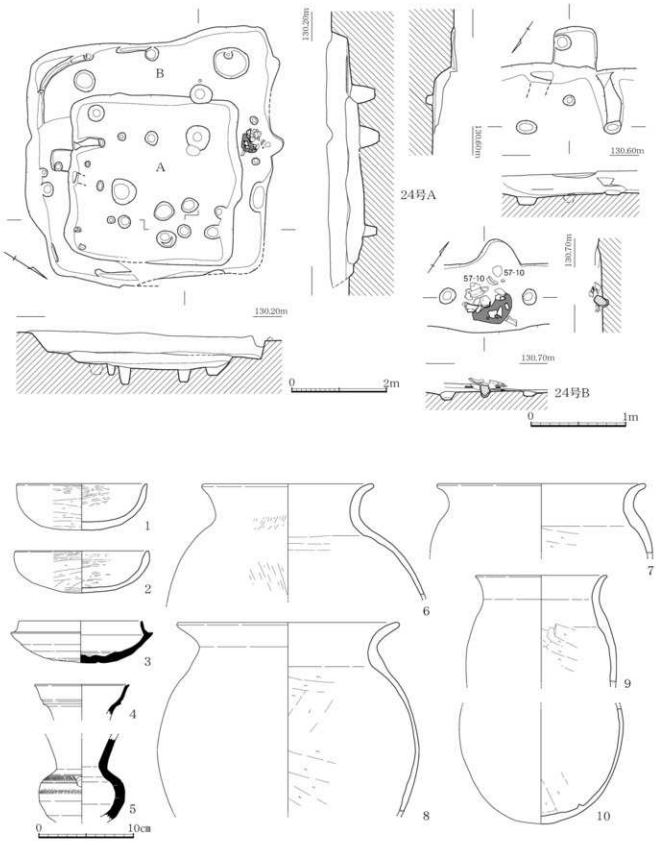
カマドは北壁中央よりやや西寄りに付設される。袖は左袖のみが確認され、袖石の抜取り痕とみられるピットは左右ともに検出された。両袖の内側には、火床面が２ヶ所検出され、さらに奥壁側に支脚が直立した状態で確



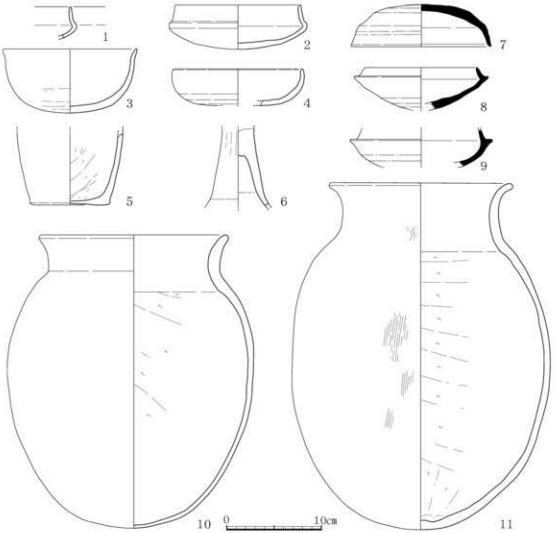
第54図　23号Ｃ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）



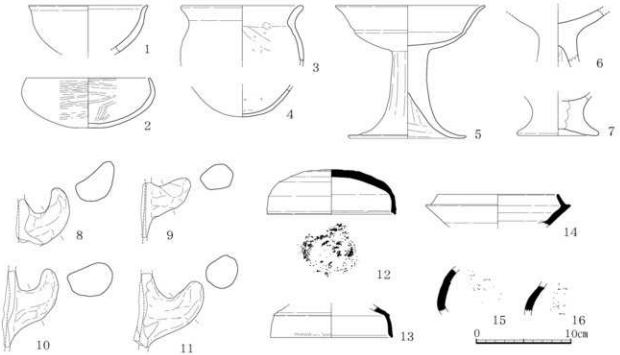
第55図　23号Ａ・Ｂ・Ｃ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4・9のみ1/6）



第56図　24号Ａ・Ｂ竪穴建物跡、カマド、24号Ａ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）



第57図　24号Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）



第58図　24号Ａ・Ｂ竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

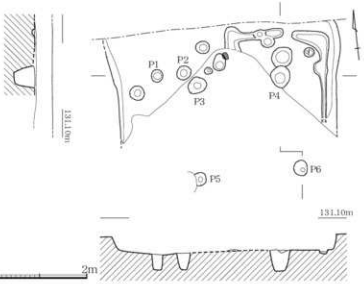
認された。カマドの寸法は、右袖が約55㎝、左袖が約62㎝、袖間の幅は奥壁側が約55㎝、端部側で約42㎝を測る。

遺物は土師器甕・高坏、須恵器甕が出土した。

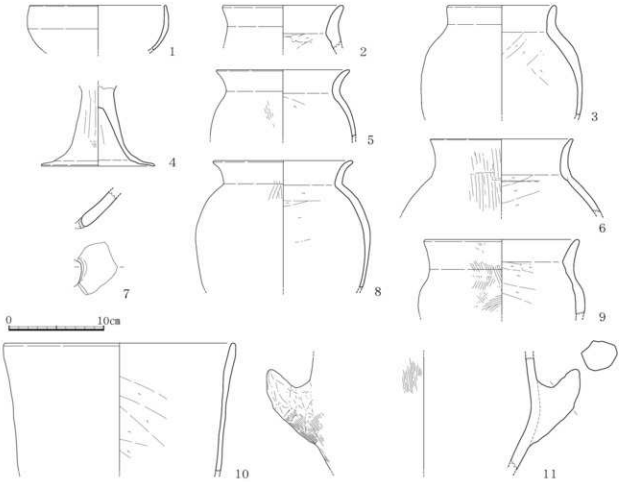
27号竪穴建物跡

（第62・63図　図版29）

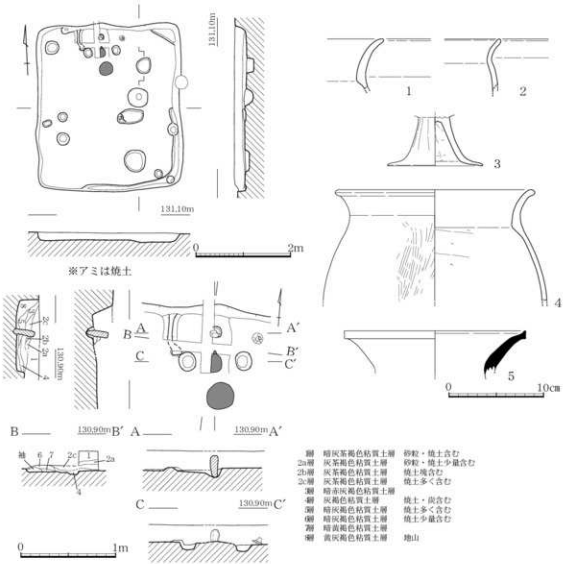
この竪穴建物跡は北側調査区の北東側で確認され、20号・23号Ｂ・26号竪穴建物跡に切られる。平面形は長方形を呈するとみられるが、東側のコーナー付近は壁の崩れが大きい。規模は北東－南西軸約5.1m、北西－南東軸約4.2m＋α、検出面からの深さは最も深い部分で約10㎝を測る。床面には部分的に壁際溝が掘り込まれ、ピットも数個確認された。確認されたピットの内、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４及び23号



第59図　25号竪穴建物跡実測図（1/80）



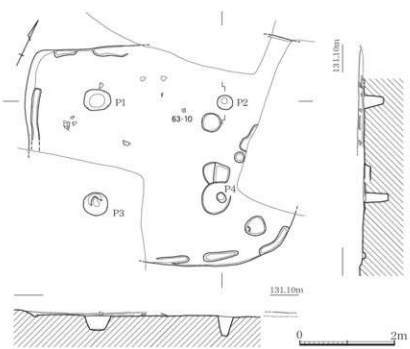
第60図　25号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）



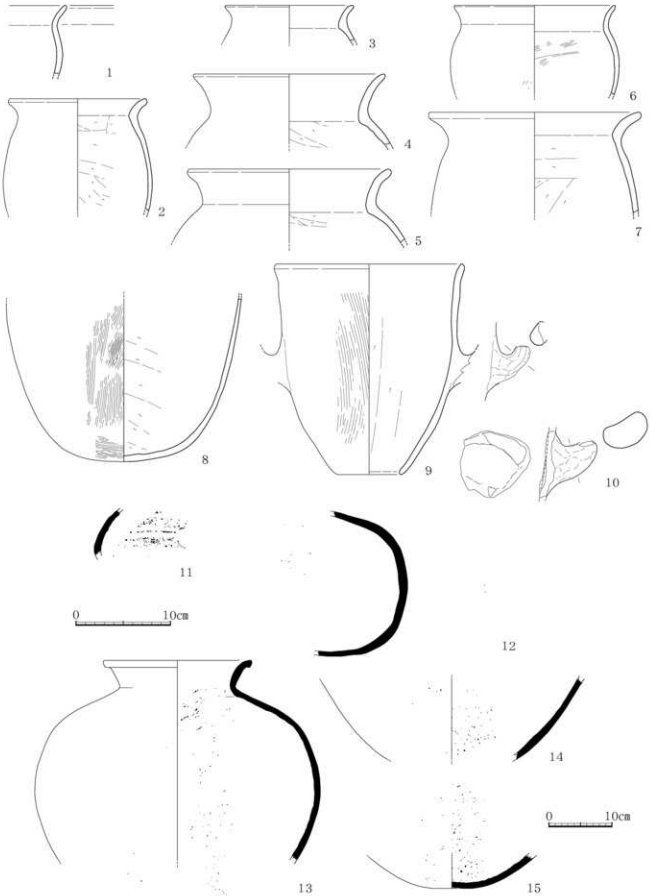
第61図　26号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

B竪穴建物跡内で検出されたＰ３の４本が位置関係や深さから主柱穴になると判断した。この他、カマドや炉跡の痕跡を示すような焼土・炭は検出されなかった。しかし、甑が出土していることから、カマドが付設されていた可能性がある。

遺物は土師器甕・甑、須恵器甕などが出土した。



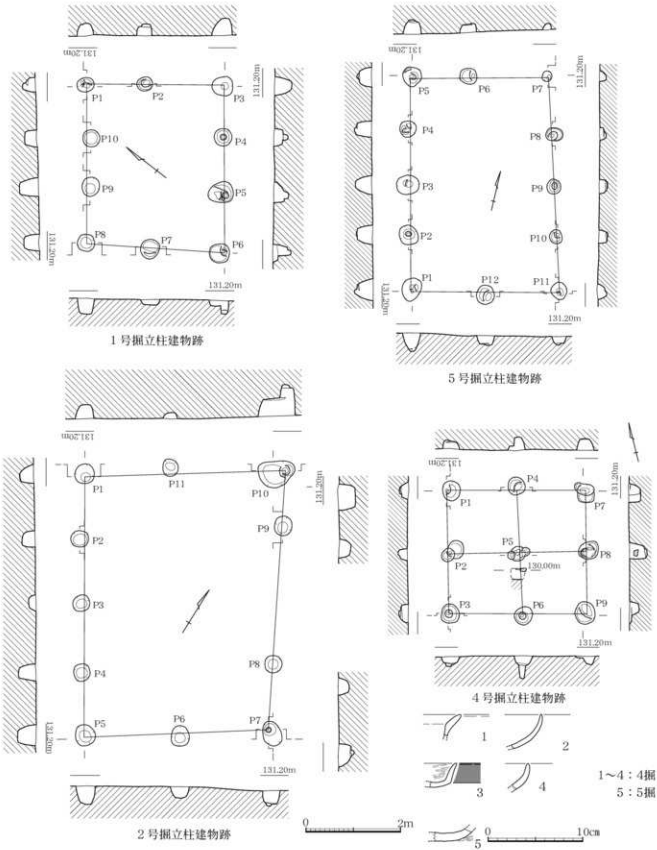
第62図　27号竪穴建物跡実測図（1/80）



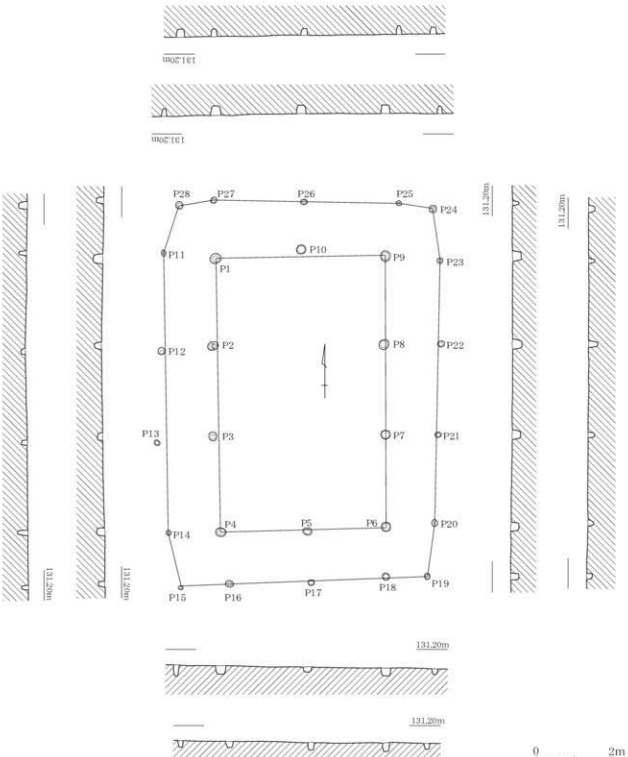
第63図　27号竪穴建物跡出土遺物実測図（1～12：1/4、13～15：1/6）

2．掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は北側調査区で５棟確認された。３号掘立柱建物跡は柱穴の大きさやその配置状況から中世のものと考えられるが、それ以外の４棟は古墳時代から古代にかけてのものと考えられる。



第64図　1・2・4・5号掘立柱建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）



第65図　3号掘立柱建物跡実測図（1/100）

1号掘立柱建物跡（第64図　図版29）

この掘立柱建物跡は北側調査区の中央付近で確認された、17号B竪穴建物跡を切る。主軸方向をN－53°－Eに取り、柱間は3間×2間である。規模は柱穴間の心々距離で桁行約3.4～3.5m、梁行約3.0m、柱穴の深さは25～40cmを測る。また、P2、4、5で柱痕跡が確認できた。

遺物は出土しなかった。

２号掘立柱建物跡（第64図　図版30）

この掘立柱建物跡は、北側調査区のほぼ中央、１号掘立柱建物跡の北西側で確認された。主軸方向はＮ－31°－Ｗに取り、柱間は４間×２間である。ただし、北東側は中央の柱穴が確認されず、３間となっている。規模は柱穴間の心々距離で桁行約5.5m、梁行約3.9～4.2m、柱穴の深さは15～60cmを測る。また、Ｐ７、10で柱痕跡が確認できた。

遺物は出土しなかった。

３号掘立柱建物跡（第65図　図版30）

この掘立柱建物跡は北側調査区の東側で確認され、22号ＡＢＣ竪穴建物跡、５号掘立柱建物跡を切る。主軸方向はＮ－０°－Ｅとほぼ南北方向を主軸とする。柱間は３間×２間で、その四周には側柱が見られ、四面庇の建物跡であったことが分かる。規模は身舎部分の柱穴間の心々距離で、桁行約7.2m、梁行約4.4～4.5m、庇部分まで含むと桁行約9.7～10.1m、梁行約6.5～6.7m、また身舎部分の柱穴の深さは15～25cmを測る。

遺物は出土しなかった。

４号掘立柱建物跡（第64図　図版30）

この掘立柱建物跡は北側調査区の北東側で確認され、16号竪穴建物跡を切る。主軸方向はＮ－15°－Ｅに取り、柱間は２間×２間の総柱建物跡である。規模は柱穴間の心々距離で、桁行約3.6m、梁行約3.2～3.3m、側柱の深さは25～60cmを測る。なお、ほとんどの柱穴で柱痕跡が確認できた。

遺物は土師器坏などが出土している。

５号掘立柱建物跡（第64図　図版31）

この掘立柱建物跡は北側調査区の東側で確認され、22号ＡＢＣ竪穴建物跡を切り、３号掘立柱建物跡に切られる。主軸方向はＮ－14°－Ｗに取り、柱間は２間×４間である。規模は柱穴間の心々距離で、桁行約5.6～5.7m、梁行約3.7～3.9m、深さは15～50cmを測る。なお、ほとんどの柱穴で柱痕跡が確認できた。

遺物は土師器坏が出土している。

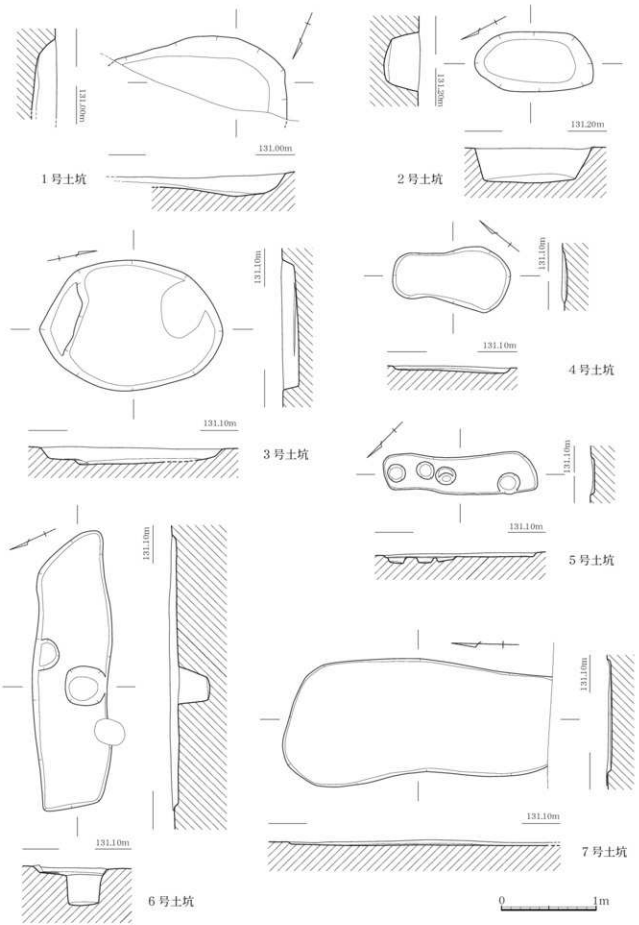
３．土坑

土坑は南側調査区及び北側調査区中央付近から南側で11基が確認された。ただし、遺物の出土量も少なく、土坑の性格を判断できる材料にも乏しかったことから、単なる落ち込みや撹乱坑の場合もあることを、念のため記しておく。

１号土坑（第66・69図　図版31）

この土坑は南側調査区の北東隅で確認された。北側は調査区外へ広がっているため、平面形は不明である。底面は東側から西側へ向かって傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約1.4m、短軸約0.8m、検出面からの深さは約25cmを測る。

遺物は土師器椀が出土した。



第 66 図　土坑実測図(1)（1/40）

2号土坑（第66・69図　図版31）

この土坑は南側調査区の中央北側で確認され、８号竪穴建物跡を切る。平面形は楕円形を呈し、底面はやや舟底状となり、壁は急角度で立ち上がる。規模は長軸約1.2m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約35cmを測る。

遺物は土師器甕・椀、須恵器坏身が出土した。

3号土坑（第66・69図　図版32）

この土坑は北側調査区の南東側で確認された。平面形は細長い円形を呈し、底面は南側で段落ちが見られ、北側から南側に向かって緩やかに傾斜する。規模は長軸約1.9m、短軸約1.4m、検出面からの深さは約15cmを測る。

遺物は土師器高坏が出土した。

4号土坑（第66図　図版32）

この土坑は北側調査区の東側で確認され、５号掘立柱建物跡に切られる。平面形は不定形で、底面は北西側から南東側へ向かって緩やかに傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約1.3m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約10cmを測る。

遺物は出土しなかった。

5号土坑（第66図　図版32）

この土坑は北側調査区の東側で確認された。平面形は歪な長方形を呈し、底面はほぼ平坦で、ピットが数個掘り込まれる。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約1.6m、短軸約0.4m、検出面からの深さは約10cmと浅い。

遺物は出土しなかった。

6号土坑（第66図　図版33）

この土坑は北側調査区中央付近、５号土坑の北西側で確認された。平面形は歪な長方形を呈し、底面はほぼ平坦で、ピットが２個掘り込まれる。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約2.9m、短軸約0.8m、検出面からの深さは約10cmと浅い。

遺物は出土しなかった。

7号土坑（第66・69図　図版33）

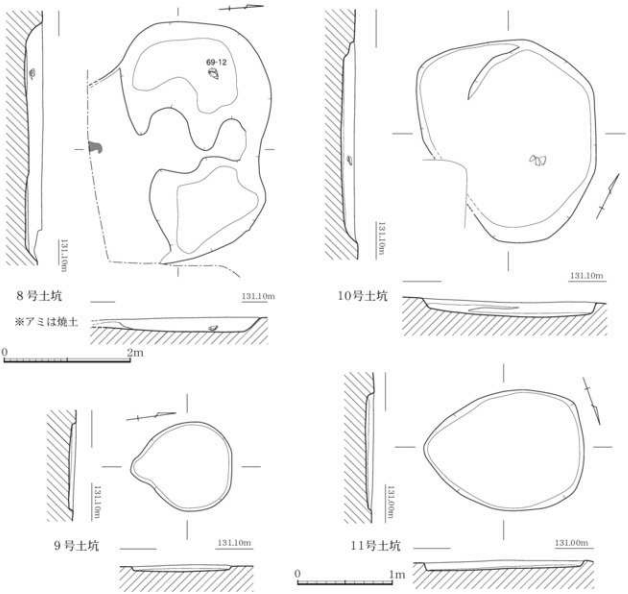
この土坑は北側調査区の南側、２号Ｂ竪穴建物跡内で確認された。南側は調査区外へ広がるものの、平面形は歪な楕円形を呈するとみられる。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約2.8m＋α、短軸約1.2m、検出面からの深さは約５cmと浅い。

遺物は土師器甕・椀などが出土した。

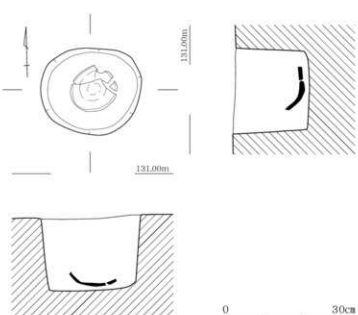
8号土坑（第67・69図　図版33）

この土坑は北側調査区の南東隅で確認され、２号Ｂ竪穴建物跡を切る。平面形は不定形で、底面は段落ちがみられるが、ほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約3.8m、短軸約2.7m＋α、検出面からの深さは約10cmである。

遺物は土師器甕・坏などが出土した。



第67図　土坑実測図(2)（1/40・8号のみ1/60）



第68図　ピット実測図（1/10）

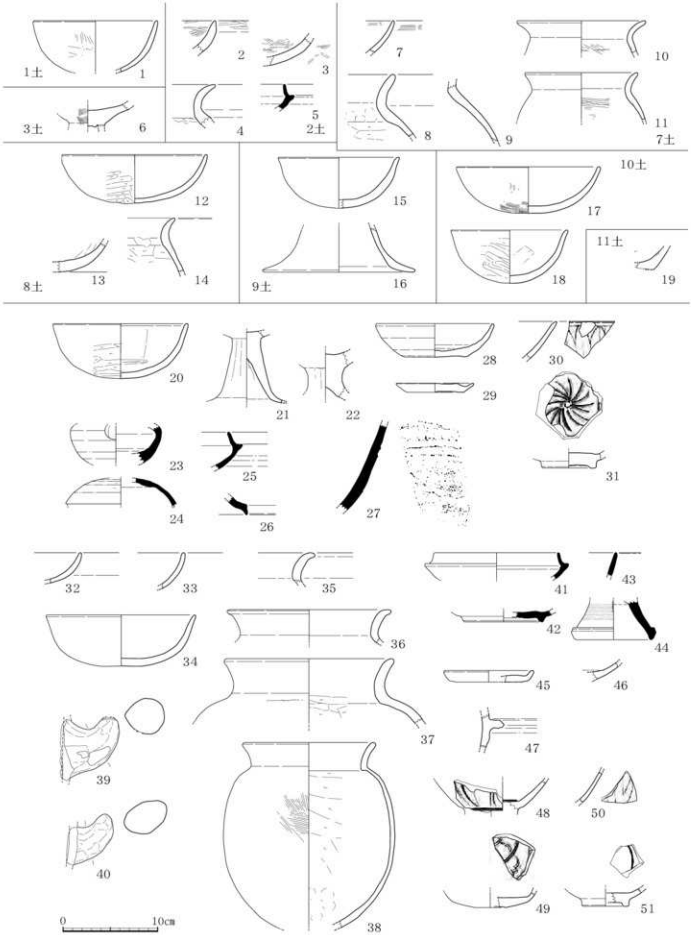
9号土坑（第67・69図　図版34）

この土坑は北側調査区の南東側、12号竪穴建物跡の東側で確認された。平面形は南側がやや突出する円形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。規模は長軸約1.1m、短軸約1.0m、検出面からの深さは約10cmである。

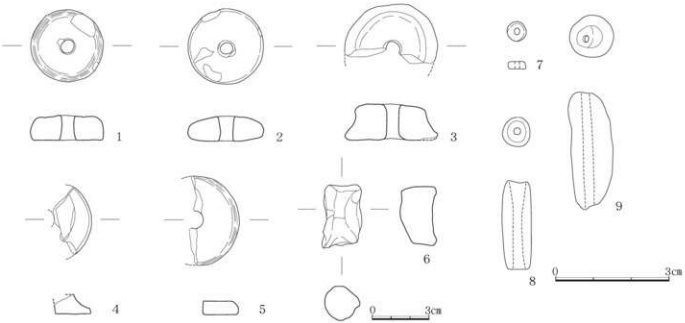
遺物は土師器坏・高坏などが出土した。

10号土坑（第67・69図　図版34）

この土坑は北側調査区の南東側で確認され、12号竪穴建物跡に切られる。平面形はやや歪な円形を呈し、床面は一部に段落ちが見られ、北西側から南東側へ向かって緩やかに傾斜す



第69図　土坑、ピット、グリッド一括出土遺物実測図（1/4）



第70図　出土土製品・石製品・玉類実測図（1～6：1/2、7～9：1/1）

る。壁は急角度で立ち上がる。規模は長軸約2.0m、短軸約1.8m、検出面からの深さは約20cmである。

遺物は土師器坏が出土した。

11号土坑（第67・69図　図版35）

この土坑は北側調査区の南東側、３号土坑の南東側で確認された。平面形はやや歪な円形を呈し、床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約1.7m、短軸約1.3m、検出面からの深さは約10cmである。

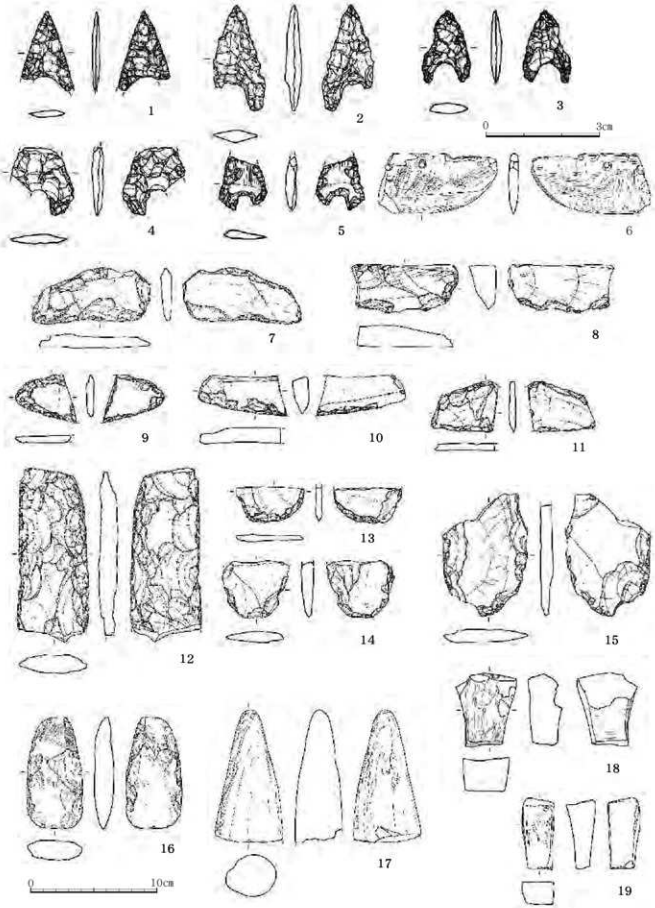
遺物は土師器坏が出土した。

４．ピット（F8-P1）（第68・69図）

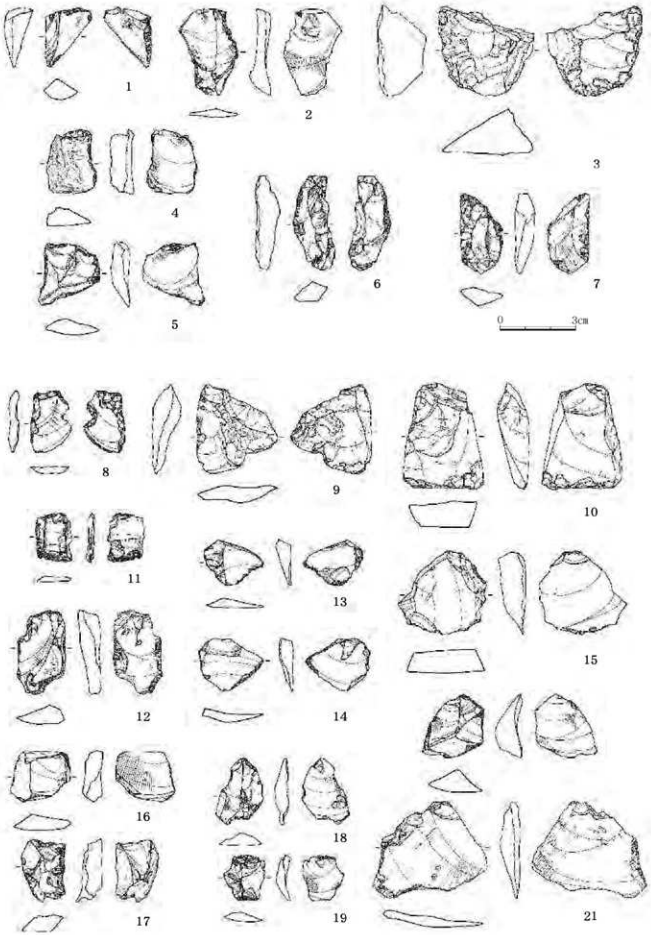
南側調査区のＦ８グリッドで確認された。ピットの径23～25cm、検出面からの深さは約20cmを測る。埋土中から、土師質土器坏が正位で据えられ、床面からやや浮いた状態で出土した。こうした出土状況から、流れ込みとは考えにくく、何らかの祭祀に関する遺構の可能性が高いと判断した。

５．その他の遺物（第69～74図　第10～12表　図版55・56）

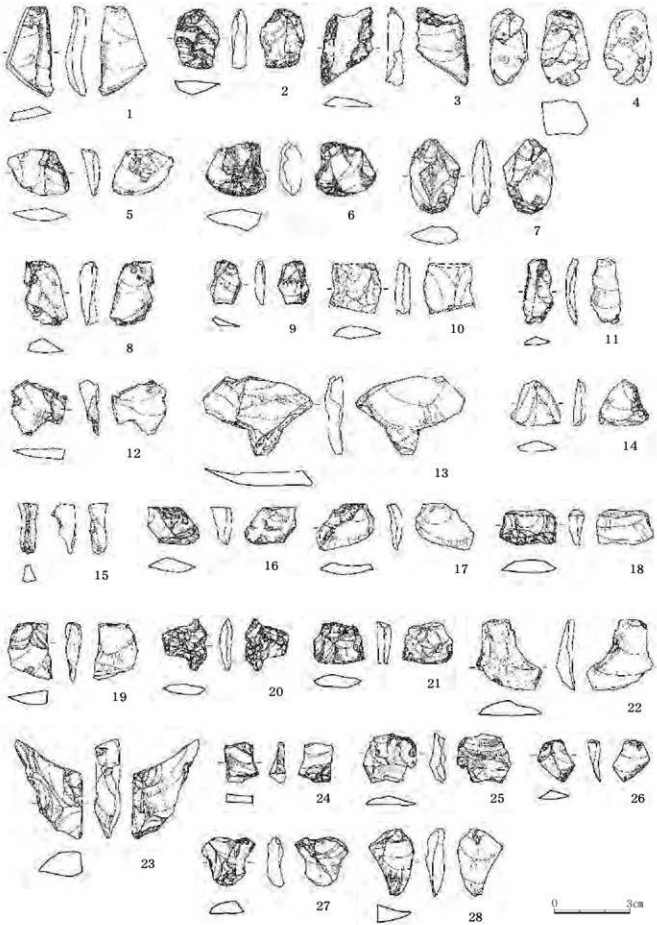
前節までに記述してきた土器のほかに、グリッド一括の出土土器や土製品・石製品、石器が出土しており、第69～74図に示す。詳細については、第10～12表を参照されたい。



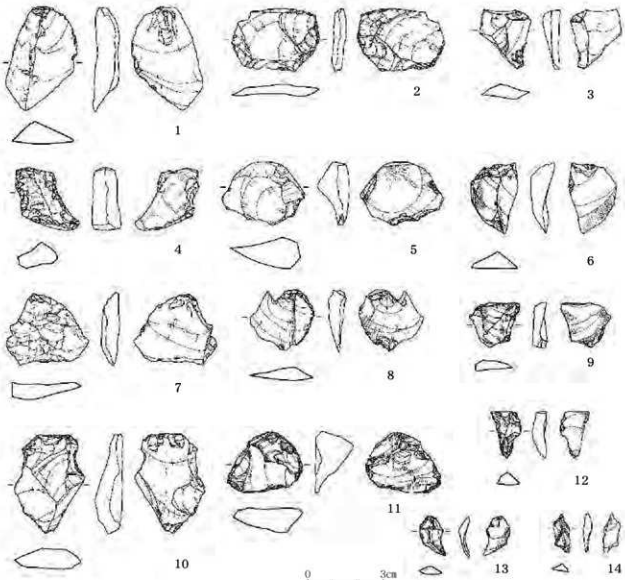
第71図　出土石器実測図(1)（1～5：1/1、6～19：1/3）



第72図　出土石器実測図(2)（2/3）



第73図　出土石器実測図(3)（2/3）



第74図　出土石器実測図(4)（2/3）

Ⅳ　総括

前章までに報告してきたように、本調査では古墳時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが多数確認された。主な時期は古墳時代中期～後期、中世の建物が確認されている[21]。特に古墳時代の遺構については、数多く確認されていることから、その変遷や求来里川流域の中での位置づけ等について、考えてみたい[22]。

集落の変遷

今回の調査で確認された竪穴建物跡のうち、最も古く位置づけられるのは23号A竪穴建物跡である。調査中に切り合い関係を完全に把握できなかったため、平面上の切り合いは23号C→23号B→23号Aとなっているが、23号A竪穴建物がカマドを持たないことや出土した土師器が重藤編年のⅢB期～Ⅳ期の高坏や鉢形甑などが出土しており、中期前半頃と考えられる。

続く中期中頃～後半にかけて、5・27号竪穴建物跡、26号竪穴建物跡、6号A・9号B竪穴建物跡が作られる。まず、5号竪穴建物の出土遺物はⅢB期～Ⅴ期の幅がみられるが、Ⅳ期後半の土師器高坏（第12図5）から、27号竪穴建物からはⅣ期の土師器が出土しており、TK216平行期と考えられる。

26号竪穴建物跡はⅣ期の土師器高坏や壺(第61図3・4)からＴＫ208平行期とみられる。これに続くのは６号Ａ・９号Ｂ竪穴建物跡である。６号Ａ竪穴建物跡の遺物については、調査時に６号Ｂ竪穴建物跡と混在して取り上げを行ったため、確実な出土位置は押さえられていないが、整理段階でⅤ期の高坏（第15図14）やＴＫ23段階の須恵器坏蓋（第15図15）からおおむね中期後半、Ⅶ期の土師器甕（第15図32・33）やTK43の須恵器坏身から後期後半の２時期に分けられることがわかった。そこで、切り合い関係から６号Ａ→６号Ｂの順になると判断した。また、９号Ｂ竪穴建物跡は、ＴＫ23の須恵器坏身（第19図7）から中期後半と判断した。

なお、18号Ａ竪穴建物跡からはⅢＢ期の壺（第31図14）、TK216～TK208にかけての須恵器坏蓋（第31図23・24）やＴＫ43期の蓋や坏身（第31図25・26）が出土しており、前章で指摘したとおり、２軒存在した可能性が高い。

以上の６、７軒が中期に位置づけられる竪穴建物跡である。続く後期には、その数が一気に増加する。まず、22号Ｃ竪穴建物跡から出土した土師器坏（第45図1）は、Ⅵ期とみられることから、後期前半～中頃の幅の中で捉えられる。続いて19号Ｃ竪穴建物跡でＴＫ10の須恵器坏身（第36図18）やⅦ期の土師器坏（第36図11・12）が出土している。そして、この建物と同時期か、若干時期が下るとみられるのが、９号Ａ・14号・22号Ｂ竪穴建物跡でＴＫ10～ＭＴ85の須恵器（第18図21・22、第26図６）やⅥ～Ⅶ期にかけての土師器（第18図13、第26図１、第43図1）から判断でき、さらに17号Ｃ・21号竪穴建物跡がＭＴ85～ＴＫ43（第29図38、第40図９・11）の時期に比定できる。(24号Ａ竪穴建物は24号Ｂ竪穴建物に切られることから、１段階古いと判断)。

後期後半になるＴＫ43段階に最も集落規模が大きくなる。２号ＡＢ・３号・６号Ａ・７号・12号・17号Ｂ・20号・22号Ａ・24号Ｂ竪穴建物跡、４号掘立柱建物跡が、この時期に比定される。これらの竪穴建物跡が出土した遺物をみると、量的に多く、良好なセット関係が掴めそうなのが、３号竪穴建物跡である。土師器では第７図の土師器坏や高坏、第９図１・２の甕や同図７の甑、15～17の須恵器坏身など、この時期に比定できるものである。なお、第９図11の須恵器坏蓋など、古い時期の遺物が見られるものの、これらは、切り合う竪穴建物跡からの流れ込みと考えられる。

続くＴＫ209期からＴＫ217期にかけては、一気にその数は減る。23号Ｃ竪穴建物跡からは、Ⅶ期の土師器坏（第54図１）やＴＫ209～ＴＫ217の須恵器坏身（第54図13）などから、この時期と判断できる。また、８号竪穴建物跡は７号竪穴建物跡を、１号・５号掘立柱建物跡は17号Ｂ竪穴建物跡を切ることから、この時期以降のものである。

以上、本調査区における竪穴建物の変遷を見ていくと、中期前半から中頃にかけてが集落がつくられはじめ、後期前半頃までは一時期に１～２軒程度で推移する。しかし、後期中頃以降、その数は増加し、後期後半になると８軒前後が同時期に存在していた可能性があり、規模が最大になる。その後は、数は減少し、集落は終焉を迎える。

この他、３号掘立柱建物跡は22号ＡＢＣ竪穴建物跡などを切っているが、時期を決定付けられるような遺物も出土していない。ただし、13～14世紀代の青磁碗などが南側調査区で出土しており、この時期の建物である可能性が高いと考えられる。

求来里川流域のおける古墳時代集落について

こうした状況を踏まえ、求来里川流域における各遺跡の古墳時代集落の時期との比較を行ったのが、第１表である[3]。(なお、ここでは、報告書が刊行されている分のみ掲載している)

まず、金田遺跡では前期から数軒の竪穴建物が存在するが、最も多くなるのが、中期前半から中頃（ⅢＢ～Ⅳ期）である。この要因としては、カマドの導入に代表される、生活様式の大きな変化に伴い、集落規模が大きくなったことが窺える。しかし、中期後半以降はその数が一気に減少し、金田遺跡での集落の営みは停止する。こ

れに対して、対岸に位置する町ノ坪遺跡では、後期前半に集落規模の最大期を迎える。ここでは、中期初頭から一時期に１～２軒程度の竪穴建物が存在していたが、金田遺跡の規模縮小に呼応して、移動があったものと考えられる。

求来里平島遺跡では、金田遺跡と同じく中期中頃に数軒の建物が存在するが、後期前半～中頃にかけて空白期が存在する。この時期は流域全体においても、その数は少なくなるが、後期後半に一気に建物数は増加し、集落規模の最大期を迎えることとなる。その後は、７世紀前半まで数軒の建物が造られ、集落の営みは停止すると思われる。

こうして、集落が展開するエリアは、徐々に求来里川上流域へ移っていく。このことは、これまでにも指摘されてきたことであるが、今回改めて、時期別の建物軒数の比較を行うことで、よりその状況が理解し易くなったと考えている。今後は、その他の遺跡の整理・検討を行うことで、古墳時代における求来里川流域の集落展開を明確していきたいと考えている。

註

(1) ３号掘立柱建物跡からは時期を決定づけるような遺物は出土していないが、ピットやその他の遺物などから、13 世紀前半のもの（第 69 図 28・48 など）がみられることから、建物跡も同時期と考えておく。

(2) 土師器の編年は重藤氏（重藤 2002・2008・2010）、須恵器の編年は田辺氏（田辺 1981）に拠った。

(3) 各遺構の時期については、報告書に拠った（P4.5 参考文献参照）。

参考文献

木村龍生「古墳時代須恵器の実年代観について」『先史学・考古学論究』Ⅳ　龍田考古会　2003

重藤輝行「福岡県における古墳時代中～後期の土師器」『古墳時代中・後期の土師器―その編年と地域性―」第５回九州前方後円墳研究会　2002

重藤輝行「筑前・筑後の須恵器出現以後の土器」『山口県の古墳時代土器編年を考える』山口県考古学フォーラム　2008

重藤輝行「北部九州における古墳時代中期の土師器編年」『古文化談叢』第 63 集　九州古文化研究会　2010

杉井健「生活様式における中心周辺関係の成立とその意義」『先史学・考古学論究』Ⅳ　龍田考古会　2003

田辺昭三『須恵器大成』角川書店　1981

中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社　1995

若杉竜太「豊後・日田地方における古墳時代中期の一様相」『先史学・考古学論究』Ⅴ　龍田考古会　2010

第１表　求来里川流域における古墳時代建物変遷表

時期区分		須恵器	土師器	金田遺跡					町ノ坪遺跡B区		求来里平島遺跡				
3期区分	9区編年	田辺	重藤	2次		1.3次					1次B	2次	3次	4次	
前期	前半	1期	Ⅰ期					32 209 239 255							
		2期													
	後半	3期	Ⅱ期	31,33											
		4期	(布留２新) (布留３古)												
中期	初頭	5期	(布留３新)	35											
	前半	6期	TG232,231	Ⅲ A期	38										
			TK73	Ⅲ B期		20	20,26,35	31	23						23A
	中頃	7期	TK216	Ⅳ期	9,10,25		6,7,8,9,10 16,18,22,23	5,11,17 201,214		19				5,27	
			TK208			22	210,212		24		1A,1B			18A,26	
	後半	8期	TK23	Ⅴ期	8		24		21,26	20				6A,9B	
			TK47												
後期	前半	9期	MT15	Ⅵ期											11,22C
			TK10			1		13		4,8 15,18		6		19C	9A,14,22B
	中頃		MT85						2,7,9,11,16,22,27					17C,21,24A,3層	
		10期	TK43	Ⅶ期					1,5,12,25					23,6B,7,12,17B,20,22A,24B	
	後半		TK209						13,17				2,4 5,7	8	
終末期			TK217											23C	
			TK46												
			TK48												

※数字のみは竪穴建物、側は掘立柱建物

第２表　出土土器観察表(1)

挿図番号	遺構 番号	遺構 種類	出土位置等	器種	種類	法量（ ）は復元値・現存高 口径	胴部径	底径	器高	調整 外面	調整 内面	胎土 角閃石	角閃石	雲母	白色粒	黒色粒	赤褐色粒	焼成	色調 内面	色調 外面	備考
第5図1	1型	廊土		土師器	壺	-	-	-	(2.3)	ナデ	ナデ	○	○	○				良	黄橙色	褐色	
第5図2	1型			土師器	壺	-	-	-	(2.9)	ハケ目・ナデ	ナデ		○			○		良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第6図1	2型			土師器	坏	-	-	-	(3.4)	ナデ・ケズリ	ナデ	○						良	橙色	橙色	
第6図2	2型			土師器	坏	-	-	-	(4.8)	ハケ目・ナデ	ナデ	○	○					良	黄褐色	橙色	
第6図3	2型			土師器	坏	-	-	-	(3.8)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○		○				良	橙色	灰黄褐色	焼き不確実
第6図4	2型			土師器	壺	-	-	-	(3.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○					良	灰黄褐色	黄橙色	
第6図5	2型			土師器	鉢	-	-	(7.5)	(1.9)	回転ナデ・回転糸切り	回転ナデ	○			○			良	橙色	橙色	
第6図6	2型			須恵器	坏蓋	-	-	-	(3.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○					やや不良	灰色	灰色	
第6図7	2型			須恵器	高坏脚部	-	-	-	(3.2)	回転ナデ	ナデ・回転ナデ					○		良	灰色	灰色	スカシコ所残存
第6図8	2型		36	須恵器	坏り蓋？	-	-	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ				○			良	灰白色	灰白色	
第6図9	2型		36	須恵器	坏身	-	-	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ				○			良	灰色	灰色	
第6図10	2型		36	須恵器	壺	-	(17.0)	-	(6.4)	回転ナデ	回転ナデ		○		○			良	灰黒色	灰黒色	一部自然軸、内面灰かぶり
第7図1	3型			礎文	鉢	-	-	-	(3.2)			○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	焼き不確実
第7図2	3型	下層		土師器	坏	-	-	-	(3.4)	ミガキ	ミガキ	○	○	○		○		良	暗黄茶色	黒茶色	工具痕有り
第7図3	3型	下層		土師器	坏	-	-	-	(5.4)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○					良	淡黄橙色	淡黄橙色	外面黒斑有り
第7図4	3型	下層		土師器	坏	-	-	-	(2.75)	ミガキ？	ミガキ？		○	○		○		やや不良	暗橙色	暗橙色	
第7図5	3型			土師器	坏	-	-	-	(3.0)	ナデ・ケズリ	ミガキ	○			○			良	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
第7図6	3型	上層	36	土師器	坏	14.0	-	(2.6)	5.1	ミガキ・ナデ・ケズリ？	ミガキ	○	○	○		○		良	暗黒茶色	橙褐茶色	黒色粒多？
第7図7	3型	上層	36	土師器	坏	(12.4)	-	-	(4.05)	ミガキ・ケズリ	ナデ・ミガキ	○	○	○		○	○	良	暗赤茶色	暗赤茶色	
第7図8	3型	下層	36	土師器	坏	(14.2)	-	-	(4.05)	ミガキ（一部不明瞭）	ミガキ	○	○	○		○		良	暗赤茶色	暗赤茶色	黒斑有り
第7図9	3型		36	土師器	坏	16.8	-	-	(6.5)	ナデ・ケズリ	ミガキ	○	○			○		良	橙色	黄橙色	外面スス付着？やがみ大
第7図10	3型	下層	36	土師器	坏	(13.6)	-	-	4.6	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ	○	○					良	淡黄橙色	褐灰色	橙褐坏の閉塞土分と接合 外面スス付着
第7図11	3型	下層・ケヅリ	36	土師器	坏	14.6	-	-	4.5	ナデ・ケズリ	ミガキ	○	○					良	黄橙色	黄橙色	橙坏不
第7図12	3型	下層	36	土師器	坏	(15.4)	-	-	(3.8)	ナデ？（不明瞭）	ナデ？（不明瞭）	○	○	○				やや不良	淡赤橙色	淡浅黄色	
第7図13	3型			土師器	坏	(14.4)	-	-	(6.0)	ナデ（器面摩耗の為不明瞭）	ナデ（器面摩耗の為不明瞭）	○	○					良	黄橙色	橙色	
第7図14	3型	下層		土師器	坏	(13.0)	-	-	5.0	器面摩耗の為不明・器面黒斑有り	器面摩耗の為不明	○	○		○			良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第7図15	3型	下層	36	土師器	坏	(11.8)	-	-	(4.6)	ミガキ	ミガキ		○	○	○		○	良	暗茶黒色	暗赤茶色	
第7図16	3型		36	土師器	坏	(13.4)	-	-	(3.0)	ナデ？	ナデ？		○			○		良	暗茶色	暗茶色	
第7図17	3型	上層	36	土師器	坏	(12.0)	-	-	(4.1)	器面荒れの為不明	器面荒れの為不明	○	○	○				良	橙色	橙色	橙坏不
第7図18	3型		36	土師器	坏	(13.4)	-	-	(4.7)	ナデ・ケズリ	ナデ	○			○	○		良	淡黄橙色	淡黄橙色	橙坏不
第7図19	3型	PS	36	土師器	坏	(14.8)	-	-	4.8	ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ？（不明瞭）	○	○	○				良	黄灰色	橙色	橙坏不外面黒斑有り
第7図20	3型	下層		土師器	高坏	-	-	-	(4.2)	ハケ目・ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	○	○					良	橙色	橙色	
第7図21	3型	下層	36	弥生	高坏	-	-	-	(5.1)	ケズリ	ナデ	○				○		良	黄灰色	淡黄色	
第7図22	3型	下層	36	弥生	高坏	-	-	-	(6.6)	ケズリ？（器面剥落の為不明）	ケズリ・器面剥落有り	○	○	○				良	浅黄橙色	浅黄橙色	
第7図23	3型	下層		ミニチュア	坏	-	-	-	(2.8)	ナデ	指ナデ	○				○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	焼き不確実
第8図1	3型	下層	36	土師器	壺	-	-	-	(3.6)	ナデ	ナデ	○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第8図2	3型	下層	36	土師器	壺	-	-	-	(3.0)	ナデ	ナデ	○	○					良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第8図3	3型			土師器	壺	-	-	-	(3.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	黒褐色	灰黄褐色	
第8図4	3型	下層	36	土師器	壺	-	-	-	(4.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第8図5	3型			土師器	壺	-	-	-	(4.7)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○					良	淡黄褐色	灰黄褐色	
第8図6	3型			土師器	壺	-	-	-	(6.5)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	灰黄褐色	橙色	
第8図7	3型	下層		土師器	壺	-	-	-	(7.1)	ナデ・工具痕・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○			○		良	灰褐色	橙色	
第8図8	3型		36	土師器	壺	-	-	-	(6.2)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	褐灰色	橙色	
第8図9	3型	下層		土師器	壺	-	-	-	(5.4)	ナデ	ナデ・工具痕・ケズリ	○	○			○		良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第8図10	3型	下層	36	土師器	壺	(17.6)	-	-	(5.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○		○	○		良	浅黄橙色	浅黄橙色	
第8図11	3型	下層	36	土師器	壺	(17.6)	-	-	(5.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○		○	○		良	にぶい橙色	にぶい橙色	
第8図12	3型	下層	36	土師器	壺	(13.4)	-	-	(7.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○					良	褐灰色	橙色	
第8図13	3型	下層	36	土師器	壺	(14.1)	-	-	(4.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	淡黄褐色	橙色	
第8図14	3型	下層	36	土師器	壺	(16.4)	-	-	(4.9)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	黄橙色	黄橙色	
第8図15	3型	下層	36	土師器	壺	(15.0)	-	-	(6.6)	ナデ（不明瞭）	ナデ・指オサエ・ケズリ	○				○		良	褐色	褐色	
第8図16	3型		36	土師器	壺	(17.2)	-	-	(10.7)	ナデ？（器面摩耗の為不明瞭）	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	橙色	橙色	
第8図17	3型	下層	36	土師器	壺	(14.4)	-	-	(7.1)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	暗灰黄色	暗灰黄色	6層閉土分と接合
第8図18	3型	カマド	36	土師器	壺	11.8	13.5	-	14.1	ハケ目・ナデ？（器面荒れの為不明瞭）	ハケ目・ナデ・ケズリ・指オサエ	○	○			○		良	褐色	にぶい赤褐色	外面全体的にスス付着
第8図19	3型	下層	36	土師器	壺	14.0	-	-	(10.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	淡黄色	淡黄色	
第8図20	3型	PS下層	37	土師器	壺	(15.4)	(19.8)	-	(19.4)	ナデ・沈線	ナデ・ケズリ	○	○					良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第8図21	3型		37	土師器	壺	11.9	13.2	-	(11.2)	ハケ目	ケズリ	○	○	○		○		良	黒褐色	橙色	
第8図22	3型		37	土師器	壺	(11.2)	(13.4)	-	14.8	ナデ・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○			○		良	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	外面現状にスス付着
第8図23	3型		37	土師器	甕？	-	(14.0)	-	(10.7)	ナデ？（器面剥落の為不明瞭）	器面剥落の為不明	○	○	○				良	黒褐色	赤褐色	焼き不確実
第8図24	3型		37	土師器	壺	(17.0)	(20.0)	-	(16.3)	ナデ・指オサエ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	暗褐色	暗褐色	やがみ大
第9図1	3型	カマド	37	土師器	壺	17.3	28.2	-	34.8	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	黄橙色	黄橙色	頸部穿孔1ヶ所有り
第9図2	3型	下層・ケヅリ	37	土師器	壺	30.8	29.1	-	34.1	ナデ・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○			○		良	浅黄色	浅黄色	外面スス付着
第9図3	3型			土師器	壺	-	-	-	(5.1)	ナデ・指オサエ	ナデ	○	○			○		良	黒褐色	黒褐色	
第9図4	3型	下層		土師器	甕	-	-	-	(4.6)	ハケ目・ヨコナデ	ケズリ・ヨコナデ	○	○			○		良	淡黄褐色	淡黄褐色	外面に黒斑有り
第9図5	3型	下層	37	土師器	甕	-	-	-	(14.0)	ヨコナデ？ナデ・並ハケ目残存	ヨコナデ・ケズリ	○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内面に黒斑有り
第9図6	3型	下層	37	土師器	甕or鉢	-	-	-	(7.4)	指オサエ・ナデ・ケズリ	ケズリ後ミガキ？	○	○			○		良	橙色	淡黄橙色	
第9図7	3型	下層	37	土師器	甕	16.8	-	5.6	20.9	ハケ目・ナデ・指オサエ・ヘラ痕	ハケ目・ケズリ・ナデ	○	○			○		良	灰黄褐色	淡黄橙色	肥手有り26層と接合
第9図8	3型	下層		土師器	甕	-	-	-	(6.3)	ナデ	ナデ	○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	焼き不確実
第9図9	3型	下層		須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		○			○		良	暗灰黒色	暗灰黒色	
第9図10	3型	下層		須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		○			○		良	灰白色	暗灰色	
第9図11	3型		37	須恵器	坏蓋	(13.0)	-	-	4.8	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		○		○		○	良	暗灰色	灰黒色	
第9図12	3型	下層		須恵器	坏蓋	(13.0)	-	-	(3.9)	回転ナデ	回転ナデ			○	○		○	良	灰黒色	灰白色	外面に自然軸
第9図13	3型	上層		須恵器	坏蓋	(15.2)	-	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ		○			○		やや不良	淡黄灰色	灰茶褐色	

第３表　出土土器観察表(2)

遺構				法量（ ）は復元値・残存高				調整		胎土							色調		
挿図番号	番号種別	出土位置等	写真図版	種別	器種	口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	雲母	角閃石	石英	赤色粒	白色粒	黒色粒	砂粒	焼成	内面	外面	備考
第16図14	3層	上層		須恵器	坏身	-	-	-	(2.8)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・回転ヘラケズリ			○					やや不良	灰白色	灰白色	
第16図15	3層	下層	37	須恵器	坏身	(12.3)	-	(8.2)	(4.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・一部不整方向ナデ			○			○		良	灰色	褐灰色	6は間出土か混合
第16図16	3層	下層		須恵器	坏身	-	受部(15.0)	-	(2.9)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						○		良	灰色	灰色	
第16図17	3層		37	須恵器	坏身	(12.5)	受部(14.6)	-	(3.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						○		良	灰色	灰色	
第16図18	3層	下層		須恵器	高坏	(15.4)	-	-	(3.75)	回転ナデ	回転ナデ			○			○		良	灰褐色	灰褐色	
第16図19	3層		38	須恵器	高坏脚部	-	-	-	(4.3)	回転ナデ	回転ナデ						○		良	灰色	灰色	5カシか黒鉢9,8は出土間違いか可能性
第16図20	3層	下層		須恵器	高坏？	-	-	(7.8)	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ					○			良	灰色	灰色	5カシ
第16図21	3層	上層	37	須恵器	坏身	-	-	-	(2.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデのちナデ						○		良	灰白色	灰白色	内面にヘラ記号
第16図22	3層	下層		須恵器	甕	-	-	-	(13.8)	回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・ナデ						○		良	灰色	灰色	6は間出土か混合
第16図23	3層	上層	38	須恵器	瓶類	-	-	-	(3.2)	カキ目				○					良	灰色	灰色	当て具痕有り
第11図1	5層			土師器	甕	-	-	-	(3.5)	ナデ	ナデ	○	○						良	灰褐色	灰褐色	
第11図2	5層	カマド		土師器	甕	-	-	-	(4.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○						良	淡黄橙色	淡橙色	
第11図3	5層	カマド	38	土師器	甕	(12.3)	(13.6)	-	(9.9)	ナデ・ハケ目ナ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	淡黄橙色	暗黄橙色	外面黑褐有り
第11図4	5層	カマド		土師器	甕	-	-	-	(3.8)	ナデ	ナデ	○	○		○		○		良	暗黑茶色	暗茶色	
第11図5	5層	カマド	38	土師器	甕	-	-	-	(12.3)	ハケ目	ケズリ	○	○				○		良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第11図6	5層	カマド	38	須恵器	甕	-	-	-	(5.4)	回転ナデ・タタキ後カキ目	回転ナデ						○		良	灰色	灰色	当て具痕有り
第12図1	5層		38	土師器	坏	-	-	-	4.9	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○				○		良	明褐色	明褐色	内外面スス付着
第12図2	5層		38	土師器	坏	(14.3)	-	-	(4.4)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○						良	橙色	灰褐色	
第12図3	5層		38	土師器	坏	15.4	-	-	6.0	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ目	○	○						良	橙色	淡橙色	
第12図4	5層		38	土師器	椀	10.4	-	-	7.2	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	淡褐色	赤褐色	外面スス付着,外面黑褐有り
第12図5	5層		38	土師器	高坏杯部	(18.2)	-	-	(6.9)	ハケ目・ナデ	ナデ・ミガキ？		○						良	明赤褐色	明赤褐色	外面スス付着
第12図6	5層		38	土師器	甕	(17.4)	-	-	(10.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ		○				○		良	橙色	橙色	一部に粘土塊を貼り付けハケでなでつけたような痕跡？,補修痕か？
第12図7	5層		38	土師器	甕	-	(25.6)	-	(23.7)	ハケ目	ケズリ	○	○				○		良	赤褐色	暗褐色	外面スス付着
第15図1	6B層			土師器	坏	-	-	-	(4.3)	ケズリ	ナデ	○	○				○		良	褐色	赤褐色	内面黑褐有り
第15図2	6B層		38	土師器	坏	-	-	-	(5.4)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○			○			良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第15図3	6B層			土師器	坏	(14.1)	-	-	(4.7)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○				○		良	橙色	褐色	
第15図4	6B層			土師器	坏	(11.4)	-	-	(4.0)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○						良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第15図5	6B層			土師器	坏	(13.9)	-	-	(7.5)	ナデ	ナデ・工具ナデ・ヘラ痕	○	○						良	淡黄橙色	橙色	外面暗灰にスス付着
第15図6	6B層		38	土師器	坏	(16.6)	-	-	(5.7)	ナデ？(不明瞭)	ナデ？(不明瞭)	○	○			○			良	淡黄色	橙色	
第15図7	6B層		38	土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.9)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○						良	橙色	橙色	外面黑褐有り,5A間出土か混合
第15図8	6B層		38	土師器	坏	(15.0)	-	-	(5.2)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○			○	○		良	淡黄色	淡橙色	
第15図9	6B層			土師器	甕	-	-	-	(3.8)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○						良	淡黄橙色	黑褐色	外面スス付着
第15図10	6A層			土師器	甕	-	-	-	(4.1)	ナデ	ナデ・ケズリ？	○	○				○		良	淡黄褐色	淡黄橙色	
第15図11	6B層			土師器	甕	(16.2)	-	-	(7.1)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○						良	褐灰色	黄灰色	
第15図12	6B層		38	土師器	甕	(15.8)	-	-	(8.9)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	灰黄褐色	灰褐褐色	
第15図13	6B層		38	土師器	甕	(17.2)	-	-	(9.6)	ナデ・ハケ目	ハケ目・ナデ・ケズリ	○	○			○	○		良	灰黄褐色	黑褐色	
第15図14	6B層		39	土師器	高坏脚部	-	-	10.4	(4.3)	ナデ・赤彩ナス	ケズリ・ナデ	○	○				○		良	橙色	橙色	
第15図15	6B層		39	須恵器	坏蓋	(12.4)	-	-	(4.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ			○			○		良	灰色	褐灰褐色	
第15図16	6層			土師器	坏	-	-	-	(3.5)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○						良	淡黄橙色	淡黄橙色	外面黑褐有り
第15図17	6層			土師器	坏	-	-	-	(4.5)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○			○			良	橙色	橙色	
第15図18	6層		39	土師器	坏	(15.4)	-	-	(4.0)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○			○			良	淡黄橙色	橙色	
第15図19	6層		39	土師器	坏	(14.0)	-	-	5.1	ナデ・ケズリ	ナデ・器面調落有り	○	○			○			良	橙色	橙色	
第15図20	6層		39	土師器	坏	(14.2)	-	-	4.6	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○			○			良	灰黄褐色	灰黄褐色	
第15図21	6層			土師器	坏	(13.4)	-	-	(4.8)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○						良	橙色	橙色	
第15図22	6層		39	土師器	坏	(15.4)	-	-	5.4	ナデ・ハケ目	ナデ	○	○			○	○		良	橙色	黑褐色	
第15図23	6層		39	土師器	坏	(12.6)	-	-	(5.7)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○						良	橙色	橙色	
第15図24	6層		39	土師器	坏	14.3	-	-	4.7	ナデ・ケズリ(温度差の為不明)	器面変色の為不明	○	○			○			良	橙色	橙色	
第15図25	6層		39	土師器	坏	(13.8)	-	-	5.9	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○						良	橙色	橙色	
第15図26	6層		39	土師器	椀	12.6	-	-	5.8	花崗ウンダイト(器面変色の為不明瞭)	ナデ	○	○					○	良	赤褐色	暗褐橙色	
第15図27	6層		39	土師器	高坏脚部	-	-	(9.4)	(3.0)	不明瞭(ナデ？)	ケズリ	○	○				○		良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第15図28	6層		39		ミニチュア	(4.5)	-	-	(3.2)	指オサエ	指オサエ		○						良	褐灰色	仁示い黄橙色	
第15図29	6層			土師器	甕	-	-	-	(2.6)	ナデ・ハケ目	ナデ	○	○		○				良	淡黄色	灰黄褐色	
第15図30	6層		39	土師器	甕	-	-	-	(4.6)	ナデ・ハケ目	ナデ・器面剥落有り	○	○						良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第15図31	6層			土師器	甕	-	-	-	(5.0)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	黑褐色	赤褐色	
第15図32	6層		39	土師器	甕	-	-	-	(9.0)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	黄橙色	黄橙色	外面黑褐有り
第15図33	6層		39	土師器	甕	(14.2)	-	-	(9.0)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	灰黄褐色	灰黄褐色	
第15図34	6層		39	須恵器	坏身	-	-	-	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ						○		良	灰色	灰色	
第15図35	6層		39	須恵器	坏身	-	-	-	(3.2)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						○		良	灰褐色	黄灰褐色	自然釉付着
第15図36	6層			青磁	碗	-	-	-	(1.3)											淡緑色	淡緑色	龍泉窯
第15図37	6層		39	青磁	碗	-	-	-	(3.3)	-	-								-	淡緑色	淡緑色	釉厚・釉ネ不確実
第16図1	7層		39	土師器	坏	(11.6)	-	-	(3.7)	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ミガキ	○	○						良	黑褐色	黑褐色	
第16図2	7層	土坑		土師器	坏	(12.0)	-	-	(5.1)	ミガキ？・ナデ(不明瞭)	ミガキ？(不明瞭)	○		○	○				良	橙色	橙色	
第16図3	7層	土坑	39	土師器	坏	(10.8)	-	(2.4)	4.3	ミガキ	ミガキ		○				○		良	暗茶色	暗茶色	黑色思理
第16図4	7層			土師器	甕	-	-	-	(4.1)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○						良	暗褐橙色	黄橙色	
第17図1	9層			土師器	坏	-	-	-	(4.1)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ		○						良	橙色	橙色	
第18図1	9A層			土師器	坏	-	-	-	(4.0)	ナデ・ケズリ	ミガキ	○	○				○		良	灰褐色	橙色	内面黑色思理
第18図2	9A層			土師器	坏	(15.0)	-	-	(4.8)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ	○	○						良	橙色	黑褐色	内外面スス付着
第18図3	9A層			土師器	坏	(13.4)	-	-	(3.6)	ナデ・ケズリ	ミガキ？		○	○					良	橙色	仁示い橙色	
第18図4	9A層		39	土師器	坏	(14.4)	-	-	(4.9)	ナデ・ケズリ・ハケ目	ナデ		○				○		良	橙色	黄橙色	外面黑褐有り,5B間出土か混合
第18図5	9A層		39	土師器	坏	14.5	-	-	6.7	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ目	○	○						良	橙色	橙色	外面黑褐有り
第18図6	9A層		39	土師器	坏	(14.0)	-	-	5.8	ナデ・ケズリ	ナデ・工具痕	○	○					○	良	橙色	橙色	
第18図7	9A層			土師器	坏	(13.6)	-	-	(4.6)	ナデ	ナデ	○	○						良	橙色	橙色	

第４表　出土土器観察表(3)

遺構					法量（ ）は復元値・現存高				調整		胎土						焼成	色調		備考
検出番号	番号 種別	出土位置等	埋土記号	種別	器種	口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	雲母	角閃石	角礫	赤色粒	白色粒	黒色粒	砂粒		内面	外面	
第1402号	9A型	カマド	39	土師器	坏	(12.3)	-	-	6.0	ナデ・ケズリ	ナデ					○		○	良	淡黄橙色	赤褐色	外面スス付着
第1403号	9A型			土師器	鉢	(20.4)	-	-	(7.2)	ナデ	ナデ	○	○				○		良	黄褐色	黄褐色	
第1410号	9A型			土師器	壺	-	-	-	(3.6)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○						良	明赤褐色	明赤褐色	
第1403-11	9A型		40	土師器	壺	-	-	-	(5.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○						良	黄橙色	黄橙色	
第1403-12	9A型	カマド	40	土師器	壺	(13.0)	-	-	(3.7)	ナデ？(摩耗の為不明瞭)	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	赤褐色	赤褐色	
第1403-13	9A型			土師器	壺	(15.5)	(17.0)	-	(9.1)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	にぶい黄橙色	橙褐色	203と接合
第1403-14	9A型			土師器	壺	(14.4)	-	-	(7.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	灰褐色	明赤褐色	
第1403-15	9A型		40	土師器	壺	(11.6)	-	-	(6.9)	ナデ・ハケ調	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	にぶい黄橙色	黄橙色	黒斑周有り
第1403-16	9A型		40	土師器	壺	(16.4)	-	-	(7.8)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○						良	灰黄褐色	灰黄褐色	
第1403-17	9A型		40	土師器	壺	(15.2)	-	-	(5.4)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○						良	橙色	橙色	口縁部黒斑有り
第1403-18	9A型		40	土師器	壺	(15.4)	-	-	(4.2)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○						良	灰黄褐色	橙色	204と接合
第1403-19	9A型		40	土師器	壺	-	-	-	(8.7)	ナデ	ケズリ	○	○				○		良	赤褐色	赤褐色	
第1403-20	9A型		40	土師器	壺	-	-	-	(5.2)	ナデ	ナデ	○	○			○	○		良	黄橙色	黄橙色	
第1403-21	9A型			須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ					○	○	○	良	灰色	灰色	
第1403-22	9A型		40	須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.95)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ					○			良	灰白色	灰白色	
第1403-23	9A型			須恵器	高坏脚部	-	-	-	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ					○			良	灰色	灰色	外面に自然釉
第1403-24	9A型		40	青磁	椀	-	-	(5.0)	(2.0)	無	無								-	緑灰色	緑灰色	蛇彫
第1403-25	9A型		40		ミニチュア	(3.0)	-	-	3.3	ナデ	ナデ	○	○						良	にぶい褐色	にぶい褐色	
第1403-1	9B型		40	土師器	坏	13.4	-	-	6.4	ミガキ	ナデ・ミガキ	○		○	○				良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第1403-2	9B型		40	土師器	坏	14.0	-	-	6.0	ナデ・ミガキ・ハケ目	ナデ・ミガキ	○				○			良	橙色	橙色	内外面スス付着
第1403-3	9B型		40	土師器	坏or鉢	-	-	-	(3.7)	ハケ目・ナデ	ナデ	○	○			○			良	にぶい黄橙	灰黄色	外面スス付着、横さ・区不鮮実
第1403-4	9B型		40	土師器	坏	14.1	-	-	5.9	ハケ目・ミガキ？(不明瞭)	ナデ・ミガキ	○			○	○			良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第1403-5	9B型			土師器	坏	-	-	-	(3.8)	ナデ	ケズリ	○	○			○			良	灰褐色	にぶい赤褐色	
第1403-6	9B型		40		ミニチュア	(4.0)	-	-	(3.9)	指オサエ・ナデ	指オサエ	○	○						良	にぶい橙色	にぶい橙色	外面黒斑有
第1403-7	9B型		40	須恵器	坏身	(13.2)	-	(4.6)	(4.8)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ			○			○		良	暗灰色	暗灰色	口縁内面、歪った工具で調整？ 9A側出土分と接合
第1403-1	10型		40	調文	鉢	-	-	-	(2.0)	ミガキ	ミガキ								良	黒褐色	黒褐色	
第1403-2	10型			弥生	高坏脚部	-	-	-	(5.9)	沈線2条・2段透孔	ナデ・器面剥落有り	○	○						良	淡褐橙色	淡褐橙色	横さ不鮮実
第1403-3	10型		40	調文	鉢	-	-	(10.2)	(2.7)	指オサエ後ナデ・ナデ	ナデ					○	○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第1403-4	10型			調文	鉢	-	-	(8.2)	(4.4)	ナデ	ナデ・指オサエ	○	○	○			○		良	暗褐色	明赤褐色	
第1403-5	10型	カマド	40	土師器	坏	(14.0)	-	-	6.3	ナデ・ケズリ	ナデ・丁寧なナデ	○				○	○		良	橙色	橙色	内外面スス付着、外面黒斑有り
第1403-6	10型		40	土師器	坏	15.0	-	-	6.8	ナデ・ケズリ	器面荒れの為不明	○	○				○		良	赤橙色	赤橙色	
第1403-7	10型		40	土師器	坏	15.2	-	-	5.5	ナデ・ケズリ	ナデ・工具痕	○	○				○		良	橙色	黄橙色	
第1403-8	10型	カマド	40	土師器	坏	12.1	-	-	5.6	器面荒れの為不明	器面荒れの為不明	○	○			○	○		良	淡黄橙色	黄橙色	
第1403-9	10型		40	土師器	坏	15.4	-	-	6.5	ナデ・ハケ目	ナデ・ミガキ？	○	○				○		良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第1403-10	10型			土師器	坏	15.9	-	-	(5.9)	ナデ・ハケ目	ミガキ	○	○				○		良	にぶい橙色	にぶい橙色	
第1403-11	10型		41	土師器	坏	(15.2)	-	-	6.8	ハケ目・ナデ	丁寧なナデ	○	○				○		良	明褐色	橙色	
第1403-12	10型			土師器	高坏坏部	(15.2)	-	-	(4.9)	器面摩耗の為不明(ナデ？)	器面摩耗の為不明(ナデ？)	○	○						良	黄橙色	黄橙色	
第1403-13	10型	カマド	41	土師器	坏	-	-	-	(5.0)	ナデ？(摩耗の為不明瞭)	摩耗の為不明	○	○			○	○		良	橙色	橙色	
第1403-14	10型		41	須恵器	甕？蓋？	-	-	-	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ							○	良	灰色	黒褐色	
第1403-15	10型		41	土師器	壺	-	-	-	(8.9)	ナデ・工具痕・ハケ目	ナデ・ハケ目・ケズリ	○	○				○		良	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
第1403-16	10型			土師器	壺	(13.2)	-	-	(4.9)	ナデ？(摩耗の為不明瞭)	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	黒褐色	赤褐色	内面スス付着
第1403-17	10型		41	土師器	壺	(22.0)	-	-	(6.0)	ナデ	ハケ目・ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				○		良	暗褐色	暗褐色	
第1403-18	10型		41	土師器	壺	(15.1)	-	-	(15.2)	ナデ	ナデ・ケズリ？(器面荒れの為不明瞭)	○	○				○		良	赤褐色	淡赤褐色	
第1403-19	10型		41	土師器	壺	(15.8)	-	-	(7.3)	ナデ・丁寧なナデ	ハケ目・ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				○		良	暗橙色	暗橙色	口縁部黒斑有り
第1403-20	10型	炉底	41	土師器	壺	17.4	-	-	(9.2)	ナデ	ナデ・ケズリ		○				○		良	赤褐色	赤褐色	外面黒斑有り
第1403-21	10型			土師器	壺		-	-	(4.8)	丁寧なナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○			○		良	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
第1403-22	10型			土師器	甕？蓋？	-	-	-	(2.6)	ココナデ	ココナデ	○	○						良	にぶい橙色	にぶい橙色	
第1403-23	10型			土師器	甕	-	-	-	(7.3)	ナデ・ハケ目	ナデ	○	○	○					良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第1403-24	10型			土師器	甕	-	-	-	(13.6)	ココナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○						良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第1403-25	10型			土師器	甕or鉢	-	-	-	(4.5)	ハケ目・指オサエ	ケズリ	○	○			○	○		良	にぶい黄橙色	黄橙色	
第1403-26	10型		41	土師器	甕or鉢	-	-	-	(7.2)	指オサエ・ナデ・ハケ目	ナデ	○	○			○	○		良	黒褐色	暗褐色	
第1403-27	10型		41	土師器	甕or鉢	-	-	-	(6.2)	ナデ・指オサエ・指ナデ	ケズリ	○	○			○	○		良	黒色	橙色	内面黒斑有り
第2403-1	11型			調文	鉢	-	-	(7.8)	(4.7)	ナデ	ナデ	○	○				○		良	にぶい褐色	明褐色	
第2403-2	11型			土師器	坏	-	-	-	(4.3)	ハケ目	ナデ？	○	○				○		良	にぶい橙色	灰黄褐色	外面スス付着？
第2403-3	11型			土師器	坏		-	-	(3.3)	ナデ？(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ？(器面摩耗の為不明瞭)	○		○		○			良	橙色	橙色	
第2403-4	11型	カマド	41	土師器	坏	(13.0)	-	-	(6.5)	ナデ？(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ？(器面摩耗の為不明瞭)	○	○						良	赤褐色	赤褐色	
第2403-5	11型	カマド	41	土師器	坏	14.6	-	-	6.3	ナデ・ハケ目	ナデ	○	○						良	橙色	橙色	
第2403-6	11型	カマド	41	土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.5)	ナデ・ハケ目	ナデ		○						良	明褐色	橙色	
第2403-7	11型	カマド	41	土師器	高坏坏部	(23.4)	-	-	(4.8)	ナデ・ハケ目・器面剥落有り	器面剥落の為不明		○	○			○		良	明赤褐色	明赤褐色	
第2403-8	11型	カマド	41	土師器	壺	(16.0)	-	-	(3.1)	ハケ目・ナデ・指オサエ	器面剥落の為不明	○	○				○		良	橙色	橙色	
第2403-9	11型		41	土師器	壺	(16.8)	-	-	(9.0)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第2403-1	12型	カマド	41	土師器	壺	(16.8)	-	-	(7.0)	ナデ	器面摩耗の為不明	○	○						良	灰黄色	淡黄橙色	外面黒斑有り
第2403-2	12型			土師器	壺	(12.2)	(14.2)	-	(8.6)	ナデ・ハケ目	ナデ・工具ナデ(ケズリ？)	○	○				○		良	灰黄褐色	にぶい橙色	
第2403-3	12型			土師器	壺	-	-	-	(6.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	灰黄褐色	灰黄褐色	
第2403-4	12型	カマド		土師器	甕	-	-	-	(19.8)	ハケ目後ナデ(摩耗の為不明瞭)	ケズリ(摩耗の為不明瞭)	○	○				○		良	淡黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着
第2403-5	12型	カマドPS		須恵器	坏蓋	(13.2)	-	-	3.6	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ		○	○			○		良	灰白色	灰褐色	
第2403-6	12型			須恵器	坏身	-	-	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ						○		良	暗灰色	暗灰色	
第2403-7	12型		41	須恵器	坏身	-	-	-	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ		○			○		○	良	灰色	灰色	
第2403-8	12型			須恵器	坏身	-	受部(3.6)	-	(4.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ					○	○		良	灰色	灰色	
第2503-1	13型		41	土師器	壺	(14.0)	(21.0)	-	(11.7)	ハケ目・ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				○		良	暗褐色	にぶい褐色	外面黒斑有り
第2503-2	13型			土師器	壺	-	-	-	(5.4)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ	○	○						良	にぶい黄褐色	にぶい褐色	

第5表　出土土器観察表(4)

遺構					法量（ ）は復元値・残存高			調整		胎土								色調		備考
検出番号	番号 種別	出土位置等	写真図版	種別	器種	口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	雲母	石英	角閃石	長石	黒色粒	白色粒	砂粒	焼成	内面	外面	
第26図1	1-便		41	土師器	甕	(14.4)	(17.5)	-	(16.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	暗褐色	暗褐色	外面煤状にスス付着
第26図2	1-便			土師器	甕	-	(17.3)	-	(12.0)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	淺黄橙色	淺黄橙色	
第26図3	1-便			土師器	甕	-	-	-	(5.1)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ		○			○	○		良	淺黄橙色	淺黄橙色	
第26図4	1-便		42	土師器	坏	(14.6)	-	-	3.8	丁寧なナデ	丁寧なナデ	○							良	にぶい橙色	にぶい褐色	外面スス付着、糸痕・圧不確実、17A類出土分と接合
第26図5	1-便		42	須恵器	坏身	(11.6)	-	(4.8)	(3.5)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ			○		○	○	○	良	灰白色	灰赤色	内面はセリ状圧手痕、内面気泡、焼多く赤褐ガラス
第26図6	1-便	P4	42	須恵器	坏身	-	-	-	(11.2)	(3.2)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ			○		○		良	灰白色	灰白色	17A類出土分と接合
第26図7	1-便			須恵器	壺	-	-	-	(3.7)	カキ目・回転ナデ	回転ナデ		○				○		良	灰褐色	暗褐灰色	
第26図8	1-便			青磁	碗	-	-	-	(3.4)	-	-								-	青緑色	青緑色	同定値
第27図1	16-便		42	土師器	甕	(19.9)	-	-	(3.8)	ナデ・化粧土	ナデ	○	○				○		良	にぶい褐色	にぶい褐色	
第27図2	16-便			土師器	壺	(6.8)	-	-	(3.3)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○				○		良	淺黄橙色	淺黄橙色	
第27図3	16-便		42	須恵器	高坏脚部	-	-	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ						○		良	灰色	暗灰色	
第29図1	17A-便			土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.3)	ナデ・工具ナデ	ナデ・工具ナデ	○	○				○		良	黄褐色	にぶい黄橙	
第29図2	17A-便		42	土師器	甕	-	-	-	(4.6)	ナデ・指オサエ	ケズリ・器面剥落有り	○	○				○		良	灰白色	灰白色	内面黒斑有り
第29図3	17A-便			土師器	甕	(13.2)	-	-	(6.1)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第29図4	17A-便			土師器	甕	(17.6)	-	-	(6.7)	器面摩耗の為不明	ケズリ	○	○				○		良	暗褐色	にぶい黄橙色	
第29図5	17A-便		42	土師器	甕	(21.8)	-	-	(9.7)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				○		良	灰白色	淺黄橙色	
第29図6	17A-便		42	土師器	甕	(22.2)	-	-	(6.4)	器面剥落の為不明	ケズリ・器面剥落有り	○	○				○		良	褐灰色	にぶい黄橙色	
第29図7	17A-便		42	土師器	甕	(26.2)	-	-	(7.6)	ハケ目(器面摩耗の為不明瞭)	器面摩耗の為不明		○				○		良	淺黄橙色	淺黄橙色	
第29図8	17A-便			土師器	甕	-	-	-	(16.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	淺黄橙色	淺黄橙色	外面に黒斑有り
第29図9	17A-便		42	土師器	甕	-	-	-	(16.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	橙色	橙色	
第29図10	17A-便		42	土師器	高坏脚部	-	-	-	(8.6)	工具ナデ(器面剥落の為不明瞭)	しぼり目(器面剥落の為不明瞭)				○		○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第29図11	17A-便		42	土師器	甕	-	-	-	(7.5)	ナデ	ナデ	○	○					○	良	淡黄色	淡黄色	工具痕有り
第29図12	17A-便			須恵器	坏蓋	-	-	-	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ						○		良	灰色	灰色	
第29図13	17A-便			須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ			○			○		良	灰色	灰色	
第29図14	17A-便			須恵器	坏蓋	-	-	-	(3.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ			○			○		良	灰色	灰色	
第29図15	17A-便	カマド	42	須恵器	坏蓋	(11.1)	-	2.9	2.9	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ			○			○		良	灰色	灰黄色	
第29図16	17A-便		42	須恵器	坏蓋	(14.1)	-	-	3.3	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		○	○			○		良	灰色	灰黄色	内面ナデ痕の工具痕らしきものあり
第29図17	17A-便		42	須恵器	坏蓋	14.1	-	-	3.5	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ			○		○	○		良	黄灰色	暗灰黄色	
第29図18	17A-便		42	須恵器	坏蓋	(15.5)	-	-	3.75	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ			○			○		良	暗灰色	暗灰色	天井部の切り離し後、未調整
第29図19	17A-便		42	須恵器	器台	-	-	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ						○		良	灰白色	灰色	波状文有り
第29図20	17A-便		42	須恵器	坏蓋	(11.2)	-	-	(4.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	不整方向ナデ・回転ナデ						○		良	灰色	暗灰色	
第29図21	17A-便		42	須恵器	坏身	(12.1)	受部(1.6)	-	(4.2)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・回転ナデのちナデ						○	○	良	灰色	灰色	内面にヘラ記号
第29図22	17A-便		42	須恵器	坏身	(11.0)	-	(4.2)	3.8	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ		○				○		良	灰白色	灰白色	底面切り離し後未調整
第29図23	17A-便		42	須恵器	坏身	-	受部(1.6)	-	(3.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						○		良	灰色	灰色	
第29図24	17A-便		42	須恵器	坏身	(11.8)	-	-	(3.5)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	○	○	○			○		良	やや不良	灰白色	灰色
第29図25	17A-便		42	須恵器	坏身	-	受部(3.6)	-	(5.7)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・回転ナデのちナデ	○	○			○	○		良	灰色	灰色	
第29図26	17B-便	P1		土師器	坏	(13.2)	-	-	(3.6)	器面摩耗の為不明	工具ナデ		○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第29図27	17B-便			土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.2)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明			○			○		良	橙色	橙色	
第29図28	17B-便			土師器	甕	-	-	-	(4.0)	ナデ・ハケ目ヶ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第29図29	17B-便			土師器	甕	-	-	-	(4.6)	ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	○	○						良	淺黄橙色	淺黄橙色	
第29図30	17B-便			土師器	甕	-	-	-	(4.4)	ハケ目	ケズリ	○	○				○		良	灰白色	灰白色	
第29図31	17B-便			土師器	甕	(14.1)	-	-	(4.4)	器面剥落の為不明	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	橙色	橙色	内面スス付着？
第29図32	17B-便		43	土師器	高坏脚部	-	-	-	(9.8)	器面剥落の為不明	工具ナデ・ナデ			○			○		良	にぶい橙色	にぶい橙色	
第29図33	17B-便			土師器	小型丸底壺	-	(11.4)	-	(6.2)	器面摩耗の為不明	指オサエ	○	○			○			良	橙色	橙色	
第29図34	17B-便		42	須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデのちナデ・回転ナデ			○			○		良	灰白色	灰色	
第29図35	17B-便		42	須恵器	坏身	(9.6)	-	-	(3.15)	回転ナデ	回転ナデ		○				○		良	灰褐色	暗灰色灰黄色	
第29図36	17B-便	P2		須恵器	坏身	(12.1)	-	-	(2.85)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ				○		○		良	灰褐色	灰褐色	
第29図37	17B-便		42	須恵器	坏身	10.6	-	-	4.6	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						○		良	灰白色	灰白色	内面に気泡有り
第29図38	17C-便			須恵器	坏蓋	(12.2)	-	-	(2.95)	回転ナデ	回転ナデ		○				○		良	灰白色	灰褐色	
第29図39	17C-便			土師器	甕	(12.4)	-	-	(3.0)	器面剥落の為不明	ケズリ・器面剥落有り		○				○		良	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
第29図40	17-便		43	土師器	坏	(12.4)	-	(4.0)	3.55	ミガキ	ミガキ			○		○			良	黄茶色	黄茶色	
第29図41	17-便		43	須恵器	坏蓋	(13.0)	-	-	(3.6)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ		○				○		良	灰白色	灰白色	
第31図1	18A類	カマド		土師器	坏	-	-	-	(3.1)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○					○		良	にぶい黄橙色	灰黄褐色	外面スス付着
第31図2	18A類			土師器	坏	(13.2)	-	-	(3.7)	ナデ・ケズリ	ナデ・工具ナデ		○				○		良	灰黄褐色	灰黄褐色	
第31図3	18A類			土師器	坏	(16.0)	-	-	(3.8)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○						良	にぶい橙色	にぶい橙色	
第31図4	18A類	P4		土師器	坏	(13.2)	-	-	(5.1)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○				○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第31図5	18A類		43	土師器	坏	(14.2)	-	-	6.2	不明	不明	○	○				○		良	暗橙色	暗橙色	
第31図6	18A類		43	土師器	鉢	16.7	-	5.4	6.1	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	○	○			○	○		良	黄褐色	淡黄色	
第31図7	18A類			土師器	坏	-	-	-	(3.9)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○		○					良	にぶい橙色	橙色	
第31図8	18A類	カマド		土師器	甕	-	-	-	(2.6)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第31図9	18A類			土師器	甕	-	-	-	(3.8)	ナデ・ハケ目ヶ(器面剥落の為不明瞭)	ナデ・ケズリ	○	○	○					良	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
第31図10	18A類			土師器	甕	-	-	-	(4.2)	ナデ・ハケ目ヶ(器面剥落の為不明瞭)	ナデ・ケズリ・ケズリヶ(器面剥落の為不明瞭)	○	○	○					良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第31図11	18A類		43	土師器	甕	-	-	-	(7.6)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ	○					○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第31図12	18A類			土師器	甕	(13.8)	-	-	(4.0)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ・ケズリ	○	○				○		良	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
第31図13	18A類		43	土師器	甕	(12.2)	(17.6)	-	(7.7)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第31図14	18A類		43	土師器	甕	8.6	(13.6)	-	13.5	ナデ	ケズリ・ナデ・指オサエ	○	○				○		良	淺黄橙色	にぶい赤褐色	内外器面剥有り、18A類出土分と接合
第31図15	18A類		43	土師器	甕	18.2	-	-	(10.9)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				○		良	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
第31図16	18A類		43	土師器	甕	-	-	-	(5.5)	ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)	○					○		良	黄橙色	暗褐色	
第31図17	18A類			土師器	壺	-	-	-	(3.8)	ナデ	ナデ	○	○				○		良	橙色	橙色	
第31図18	18A類			土師器	甕	-	-	-	(9.4)	ケズリ・ヨコナデ	指オサエ後ナデ・ヨコナデ	○	○			○	○		良	橙色	橙色	橙赤不確実

第６表　出土土器観察表(5)

遺構				胎土	焼成	成形	調整											色調		備考
				底径（ ）は復元径・現存高						口縁部	頸部	体部	底部	内面	外面					
押図番号	番号 種別	出土位置等	写真図版	種別	器種	口径	頸部径	底径	器高	外面	内面	指頭圧痕	角閃石	石英	雲母	白色粒	黒色粒	砂粒	良	不良	内面	外面	
第31図19	18A型		43	土師器	甕	(25.0)	-	-	(8.0)	ハケ目・ヨコナデ	ナデ・ケズリ	○	○				○		良		黄橙色	黄橙色	外面に黑斑有り
第31図20	18A型		43	土師器	甕	-	-	-	(6.5)	ナデ・ハケ目	ケズリ	○	○				○		良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面に黑斑有り
第31図21	18A型		43	土師器	鍋or甕	-	-	-	(6.0)	指オサエ・指ナデ	ケズリ		○			○			良		浅黄橙色	浅黄橙色	
第31図22	18A型		43	土師器	甕	-	-	(9.0)	(21.3)	ハケ目・指オサエ・指ナデ	ナデ一部指オサエ・ナデ・ケズリ	○	○			○			良		黄橙色	黄橙色	18A型出土分と接合
第31図23	18A型		43	須恵器	坏蓋	(12.4)	-	-	3.9	回転ヘラケズリ・回転ヘラケズリ・指回転ナデ・回転ナデ	強い回転ナデ			○		○	○		良		灰黄色	灰黄色	
第31図24	18A型		43	須恵器	坏蓋	(12.7)	-	-	(3.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		○			○			良		黄灰色	黄灰色	
第31図25	18A型		43	須恵器	坏蓋	8.1	-	-	3.4	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ			○		○			良		黄灰黑色	灰黑色	
第31図26	18A型	下層	43	須恵器	坏身	-	受部(4.6)	-	(3.0)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ					○			良		灰色	灰色	
第31図27	18A型		43	須恵器	高坏	(10.8)	-	-	(4.8)	回転ナデ	回転ナデ			○		○			良		灰黑褐色	暗黄灰黑色	
第31図28	18A型		44	須恵器	器台or高坏	-	-	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ		○			○			良		灰黑色	灰黑色	
第33図1	18B型		44	土師器	坏	(16.6)	-	-	5.9	ナデ・ケズリ	ナデ		○	○					良		橙色	橙色	内外面黑斑有り
第33図2	18B型		44	土師器	坏	(14.2)	-	-	6.5	ナデ(不明瞭)	ナデ(不明瞭)		○	○					良		橙色	橙色	
第33図3	18B型		44	土師器	坏	(14.7)	-	-	6.6	ナデ(不明瞭)	ナデ(不明瞭)		○	○			○		良		赤褐色	赤褐色	外面黑斑有り、18A型出土分と接合
第33図4	18B型		44	土師器	坏	(13.3)	-	-	(3.5)	ナデ	ナデ		○			○			良		暗褐色	暗赤褐色	外面に黑斑
第33図5	18B型			土師器	甕	-	-	-	(5.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ		○	○		○			良		橙色	橙色	
第33図6	18B型		44	土師器	甕	(14.3)	-	-	(6.6)	ナデ・ハケ目	ナデ・工具ナデ		○	○			○		良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第33図7	18B型			土師器	甕	-	-	-	(9.1)	ナデ	ナデ		○	○		○			良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	18A型出土分と接合
第33図8	18B型		44	須恵器	鼎	-	-	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ					○			良		黑灰色	暗灰色	
第33図9	18B型		44	須恵器	器台？	-	-	-	(3.2)				○			○	○	○	良		黄灰黑色	灰色	
第36図1	19A型		44	土師器	甕	-	-	-	(4.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ		○	○					良		浅黄橙色	にぶい黄橙色	
第36図2	19A型		44	土師器	甕	-	-	-	(3.1)	ナデ	ナデ		○	○			○		良		灰黄褐色	灰黄褐色	
第36図3	19A型		44	土師器	甕	(18.8)	-	-	(4.4)	工具痕ナ・ナデ	ナデ・ケズリ		○	○					良		灰黄褐色	灰黄褐色	
第36図4	19A型			土師器	甕	(10.6)	-	-	(3.5)	器面調整の為不明	ケズリ・器面調整有り		○	○			○		良		橙褐色	灰黑色	
第36図5	19A型			土師器	甕	(22.6)	-	-	(5.5)	器面調整の為不明	ケズリ(工具痕)・器面調整有り	○	○	○					良		浅黄橙色	浅黄橙色	
第36図6	19A型		44	土師器	甕	-	-	-	(8.4)	ナデ(一部ハケ目ヤ)	ナデ		○	○		○	○		良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第36図7	19A型			土師器	甕	-	-	-	(10.5)	指オサエ・指ナデ・一部ハケ目残存	内面ケズリ？		○	○		○	○		良		黄橙色	黄橙色	外面に黑斑有り
第36図8	19A型		44	須恵器	鼎	(12.2)	-	-	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ			○			○		良	やや不良	灰白色	灰色	外面に一部へら痕有り
第36図9	19A型		44	須恵器	坏身	-	受部(4.2)	-	(3.0)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						○		良		灰色	灰色	19C型出土分と接合
第36図10	19A型		44	須恵器	鼎？	-	-	-	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ		○	○					良		灰白色	明灰色	
第36図11	19C型	P2	44	土師器	坏	(10.8)	-	1.6	4.55	ナデ？	ナデ？			○	○			○	やや不良		黄橙色	橙色	
第36図12	19C型		44	土師器	坏	(10.6)	-	-	(4.5)	ミガキかナデ	ミガキかナデ			○					良		橙褐色	橙褐色	
第36図13	19C型			土師器	甕	-	-	-	(3.3)	器面調整の為不明(ナデ？)	器面調整の為不明(ナデ？)		○			○		○	良		橙色	橙色	
第36図14	19C型			土師器	甕	-	-	-	(3.1)	ナデ	ナデ		○	○					良		灰黄褐色	灰黄褐色	
第36図15	19C型		44	土師器	甕	-	-	-	(3.1)	ナデ	ナデ・ケズリ(工具ナデ)		○			○			良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面スス付着
第36図16	19C型	カマド		土師器	甕	-	-	-	(1.2.6)	ナデ	ナデ		○	○					良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面に黑斑有り
第36図17	19C型		44	須恵器	坏身	-	-	(6.8)	(3.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ			○			○		良		黄灰色	灰黑色・灰黑色	25B型出土分と接合
第36図18	19C型		44	須恵器	坏身	(13.6)	-	-	(4.9)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ			○			○		良		黄灰色	黄灰色	自然釉付着・灰かぶり
第36図19	19C型		44	須恵器	高坏	11.5	-	-	(8.6)	回転ナデ	回転ナデ						○		良		灰白色	灰白色	
第36図20	19C型		45	須恵器	高坏	-	-	(9.1)	(4.9)	回転ナデ	回転ナデ						○		良		灰色	灰色	スカシ１ヵ所残存
第38図1	20型		45	土師器	坏	(14.8)	-	-	(4.8)	ハケ目・ナデ(不明瞭)	ナデ			○			○		良		浅黄橙色	浅黄橙色	内外面黑斑有り
第38図2	20型		45	土師器	高坏脚部	(15.4)	-	-	(3.8)	ナデ？(不明瞭)	ナデ？(不明瞭)		○	○			○		良		橙色	橙色	
第38図3	20型		45	土師器	甕	(18.8)	-	-	(6.3)	ナデ	ナデ・ケズリ		○	○		○	○		良		黑褐色	褐色	
第38図4	20型		45	土師器	甕	(17.8)	-	-	(1.4.2)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ		○	○			○		良		灰黄褐色	浅黄橙色	
第38図5	20型			土師器	甕or鼎	-	-	-	(3.5)	ナデ	ケズリ		○	○			○		良		橙色	橙色	
第38図6	20型		45	土師器	甕	-	-	-	(9.0)	ナデ(一部ハケ目？)	ケズリ		○	○					良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面に黑斑有り
第38図7	20型		45	土師器	甕	-	-	-	(11.7)	ナデ・指オサエ・指ナデ	ケズリ		○	○		○	○		良		黄橙色	浅黄橙色	
第38図8	20型		45	須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデのち手ナデ・回転ヘラケズリ			○				○	良		灰色	灰色	内面にヘラ記号
第38図9	20型		45	須恵器	坏蓋	(12.2)	-	-	4.2	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ			○			○		不良		暗黄土色	灰茶色	色調は茶、黄色を帯びるが、釉焼成ではない
第38図10	20型			須恵器	坏蓋	(12.5)	-	-	(3.9)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ			○			○		良		黄灰黑色	黄灰黑色	口縁内面、天ったエ具で調整？25B型出土分と接合
第38図11	20型		45	須恵器	坏身	(12.6)	-	-	(2.25)	回転ナデ	回転ナデ						○		良		灰黑色	灰黑色	
第38図12	20型		45	須恵器	坏身	11.9	-	5.2	4.4	回転ナデその後ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ			○		○	○		良		灰黑色	灰黑色	底面切り離し後未調整
第38図13	20型		45	須恵器	坏蓋	(15.6)	-	-	(4.4)	回転ナデ	回転ナデ						○		良		黄灰黑色	灰黑色	内面一部灰かぶり、外面に炭痕有り
第38図14	20型			須恵器	坏蓋	(26.2)	-	-	(4.2)	回転ナデ・平行ケタキ	回転ナデ・同心円状当具痕ナデ			○			○		良		橙色	橙色	
第38図15	20型			須恵器	台	-	-	-	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ						○		良		灰色	灰色	
第38図16	20型			須恵器	高坏脚部	-	-	-	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ						○		良		灰白色	灰白色	
第38図17	20型			須恵器	高坏	-	-	(12.8)	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ						○	○	良		灰白色	黄灰黑色	外面に灰かぶり、20型出土分と接合
第39図1	21型		45	土師器	坏	12.3	-	-	3.1	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明		○	○					良		浅黄橙色	浅黄橙色	外面黑斑有り
第39図2	21型		45	土師器	高坏脚部	-	-	-	(7.3)	工具ナデ・器面摩耗の為不明	ケズリ・器面摩耗の為不明	○	○						良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第39図3	21型			土師器	高坏脚部	-	-	-	(3.1)	工具ナデ・器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明		○	○		○			良		橙色	橙色	
第39図4	21型			土師器	甕	(16.2)	-	-	(4.8)	ナデ？	ナデ・ケズリ		○					○	良		浅黄橙色	浅黄橙色	
第39図5	21型	カマド		土師器	甕	-	(26.6)	-	(32.4)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ		○	○					良		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面黑斑有り
第39図6	21型		45	土師器	甕	(14.0)	-	-	(6.9)	器面摩耗の為不明	ケズリ		○	○					良		黑褐色	にぶい橙色	
第39図7	21型	カマド	45	土師器	甕	20.7	-	-	(12.0)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ？		○	○		○	○		良		浅黄橙色	浅黄橙色	
第39図8	21型	カマド	45	土師器	甕	-	(27.2)	-	(14.0)	ハケ目・ナデ	ケズリ(器面摩耗の為不明)	○	○						良		浅黄橙色	浅黄橙色	
第40図1	21型	カマド	46	土師器	甕	15.8	19.6	-	2.4.3	ナデ	ナデ・ケズリ		○	○			○		良		浅黄橙色	浅黄橙色	外面黑斑有り
第40図2	21型	カマド	45	土師器	甕	-	(26.4)	-	(24.3)	ナデ	ケズリ・ナデ		○	○			○		良		浅黄橙色	浅黄橙色	
第40図3	21型		46	土師器	甕	-	(30.8)	-	(29.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ		○	○			○		良		灰黄色	浅黄橙色	
第40図4	21型	カマド		土師器	甕	(18.8)	-	-	(8.2)	ナデ			○	○					良		浅黄橙色	浅黄橙色	

第７表　出土土器観察表(6)

遺構					法量（ ）は復元値・残存高				調整		胎土							焼成	色調		備考
検出番号	番号 種別	出土位置等	写真図版	種別	器種	口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	細砂粒	粗砂粒	石英	雲母	赤色粒	黒色粒	白色粒		内面	外面	
第40図5	21型		46	土師器	甕	(25.0)	-	-	(18.6)	ハケ目(摩耗の為不明瞭)・指オサエ・指ナデ	ヨコナデ・ケズリ	○	○			○			良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面に黒斑有り，第40図6と同一個体か
第40図6	21型		46		ミニチュア	(24.0)	-	-	(23.7)	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ケズリ	○	○			○			良	黄橙色	黄橙色	内外面に黒斑有り，第40図5と同一個体か
第40図7	21型		46		ミニチュア	2.8	-	-	2.4	指オサエ・後ナデ		○	○			○	○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第40図8	21型		46	須恵器	甕	-	-	-	(2.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデのちナデ		○			○	○		良	明灰色	灰色	元和窯の切り離し残潤部が暗い
第40図9	21型		46	須恵器	坏蓋	13.4	-	-	4.4	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ少し不整方向ナデ		○			○		○	やや不良	明灰色	黄灰褐色	天井部の切り離し残潤部が暗い
第40図10	21型		46	須恵器	坏身	-	-	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ					○			良	灰褐色	黄灰色	
第40図11	21型		46	須恵器	坏身	(12.2)	-	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ		○		○	○			良	灰色	灰色	
第42図1	22A型		46	土師器	坏	(10.5)	-	(1.0)	4.45	一部ケズリ	ケズリ・ナデ		○		○		○		やや不良	浅黄白色	浅黄白色	
第42図2	22A型		46	土師器	高坏脚部	-	-	-	(5.2)	工具ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	工具痕・ケズリ(器面摩耗の為不明瞭)	○				○			良	浅黄橙色	浅黄橙色	
第42図3	22A型			土師器	甕	-	-	-	(5.0)	ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	○	○			○			良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第42図4	22型		46	土師器	甕	-	-	-	(2.1)	ナデ	ケズリ	○	○		○				良	黄橙色	黄橙色	多孔(2個残)・外面に黒斑有り
第42図5	22A型			土師器	甕	-	-	-	(6.4)	ナデ	ナデ	○	○			○	○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第43図1	22B型		46	土師器	坏	(11.2)	-	(5.0)	(4.1)	ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ・ナデ・ケズリ		○	○		○		○	良	明灰黄色	橙色	
第43図2	22B型		46	土師器	高坏脚部	-	-	-	(4.0)	工具ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	工具痕・ケズリ(器面摩耗の為不明瞭)	○		○		○			良	橙色	橙色	
第43図3	22B型			土師器	甕	-	-	-	(3.7)	ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ(器面摩耗の為不明瞭)・ケズリ	○	○						良	黄橙色	黄橙色	
第43図4	22B型	カマド		土師器	甕	(17.0)	(19.4)	-	(18.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ・ハラ痕	○	○						良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第45図1	23C型		46	土師器	坏	10.8	-	1.1	5.5		ナデ		○		○	○			やや不良	淡赤褐色	淡赤褐色	外面は赤にとりきとどかぬ&不明瞭
第45図2	23C型			土師器	甕	-	-	-	(6.3)	ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○		○				良	にぶい黄橙色	橙色	
第45図3	23C型			土師器	甕	-	-	-	(5.8)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ		○	○					良	明赤褐色	明赤褐色	
第45図4	23C型	カマド		土師器	甕or鉢	-	-	-	(4.6)	指オサエ・ナデ		○	○			○	○		良	不明	明赤褐色	
第47図1	23型			土師器	坏	-	-	-	(4.3)	ミガキ・ケズリ	ミガキ		○		○		○		良	黒灰色	黒灰色	
第47図2	23型			土師器	坏	-	-	-	(4.1)	ナデ・ハケ目	ナデ	○	○			○			良	橙色	橙色	
第47図3	23型			土師器	坏	-	-	-	(4.0)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ		○	○		○	○		良	黒灰色	黒灰色	
第47図4	23型			土師器	坏	(14.4)	-	-	(5.7)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○	○	○					良	橙色	橙色	
第47図5	23型		46	土師器	坏	(11.0)	-	-	(3.6)	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ミガキ・ケズリ					○		○	良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第47図6	23型		46	土師器	坏	(12.6)	-	(3.8)	4.25	ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ・ナデ・ケズリ		○	○				○	やや不良	淡橙色	淡橙色	
第47図7	23型			土師器	坏	(15.4)	-	-	4.3	ナデ・ハケ目ヶ	ナデ		○		○				良	橙色	橙色	外面へラ記号
第47図8	23型		46	土師器	甕	(15.3)	-	-	(7.9)	ナデ・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○			○			良	灰黄褐色	淡赤褐色	
第47図9	23型			土師器	甕	(15.9)	-	-	(8.4)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○					良	黄橙色	黄橙色	
第47図10	23型		46	土師器	甕	(21.8)	-	-	(6.7)	ハケ目ヶ(不明瞭)	ケズリ	○	○						良	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
第47図11	23型			土師器	甕	-	-	-	(4.7)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○			良	浅黄橙色	黄橙色	
第47図12	23型		47	土師器	甕	-	-	-	(11.6)	指オサエ・指ナデ・ハケ目後ナデ	ナデ	○	○						良	にぶい黄橙色	黄橙色	22A類泥土分と接合
第47図13	23型		47	土師器	甕or鉢	-	-	-	(6.3)	指オサエ・指ナデ	ケズリ	○	○			○		○	良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第47図14	23型		47	土師器	甕	(25.2)	-	-	(18.1)	ナデ・横方向のナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○			○	○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面に黒斑有り
第47図15	23型		47	土師器	甕	-	-	-	(0.9)	ナデ	指オサエ		○			○			良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	多孔(2個残)・外面に黒斑有り
第47図16	23型			土師器	甕	-	-	-	(1.2)	ナデ・(摩耗の為不明瞭)	ケズリ	○	○						良	橙色	橙色	多孔(2個残)，第47図17と同一個体
第47図17	23型			土師器	甕	-	-	-	(1.15)	ナデヶ	ケズリ	○	○						良	橙色	橙色	多孔(2個残)，第47図16と同一個体
第47図18	23型			須恵器	甕	-	-	-	(5.0)	タタキのちカキ目	タタキのちナデ						○		良	灰色	灰褐色	当て具痕有り
第47図19	23型		47	須恵器	器台？	-	(3.3)	-	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ						○		良	暗灰色	暗灰色	波状文
第47図20	23型		47	須恵器	器台	-	-	-	(9.0)	回転ナデ	回転ナデ							○	良	オリーブ灰色	灰色	内面に自然釉，外面に波状文有り
第49図1	23A型			土師器	坏	-	-	-	(3.7)	器面摩耗の為不明	ナデヶ					○		○	良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第49図2	23A型			土師器	坏	-	-	-	(4.1)	器面摩耗の為不明瞭(ナデヶ)	器面摩耗の為不明瞭(ナデヶ)		○						良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第49図3	23A型		47	土師器	坏	(11.8)	-	-	(5.4)	ナデ	ナデ		○		○				良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第49図4	23A型		47	土師器	坏	(15.1)	-	-	(4.3)	ナデ	ナデ		○		○	○			良	橙色	橙色	
第49図5	23A型		47	土師器	坏	12.8	-	1.9	4.6	ナデミガキ・ナデ・一部ミガキ	ミガキ		○	○				○	良	橙茶色	暗橙色	口唇部付近、一部ナデ、内面黒色処理
第49図6	23A型		47	土師器	坏	12.7	-	-	5.0	ナデ	ナデ・ミガキ	○			○	○			良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第49図7	23A型		47	土師器	坏	13.3	-	-	5.3	ナデ・指オサエ	ナデ	○	○						良	橙色	橙色	
第49図8	23A型		47	土師器	坏	(15.6)	-	-	(4.4)	器面荒れの為不明	器面荒れの為不明	○	○						良	橙色	橙色	
第49図9	23A型		47	土師器	坏	-	-	-	(3.9)	ナデヶ(不明瞭)	ナデヶ(不明瞭)	○	○				○		良	淡橙色	淡橙色	赤き不純実
第49図10	23A型		47	土師器	坏	(14.2)	-	-	(6.0)	器面荒れの為不明	器面荒れの為不明		○						良	橙色	橙色	
第49図11	23A型		47	土師器	坏	(14.6)	-	-	6.7	ナデヶ(不明瞭)	ナデヶ(不明瞭)		○	○			○		良	橙色	橙色	23B類泥土分と接合
第49図12	23A型			土師器	坏	(13.6)	-	-	(5.1)	ナデ・ハケ目	工具ナデ	○	○	○					良	淡橙色	淡橙色	
第49図13	23A型			ミニチュア	坏	-	-	-	(2.8)	ナデ・指オサエ	指オサエ		○				○		良	にぶい橙色	にぶい橙色	赤き不純実
第49図14	23A型		47	土師器	高坏	8.3	-	7.9	8.1	ハケ目・ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ		○						良	淡黄橙色	淡黄橙色	
第49図15	23A型		47	土師器	高坏杯部	(20.0)	-	-	(6.4)	ナデ・ハケ目	ナデ・器面剥落有り	○	○			○	○		良	橙色	橙色	第49図19と同一個体か？
第49図16	23A型		47	土師器	高坏脚部	-	-	-	(5.9)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明		○	○			○		良	橙色	橙色	
第49図17	23A型		47	土師器	高坏脚部	-	-	(12.0)	(6.3)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○	○	○		○			良	橙色	橙色	
第49図18	23A型			土師器	高坏脚部	-	-	(9.0)	(2.5)	ナデ	ケズリ・ナデ	○	○						良	橙色	橙色	
第49図19	23A型		47	土師器	高坏脚部	-	-	15.6	(7.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目	○	○			○	○		良	橙色	橙色	第49図15と同一個体か？
第50図1	23A型		48	土師器	甕	-	-	-	(5.2)	ナデ・ハケ目	ナデ・工具ナデ(工具痕)		○				○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第50図2	23A型		48	土師器	甕	-	-	-	(4.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○					良	黄橙色	黄橙色	
第50図3	23A型		48	土師器	甕	-	-	-	(5.0)	ナデ・ハケ目	ナデハケ目ヶ・ナデ・ケズリ	○	○						良	灰黄褐色	灰黄褐色	
第50図4	23A型		48	土師器	甕	(17.6)	-	-	(9.0)	ナデ	ナデ・ケズリ・指オサエ	○	○	○			○		良	淡黄橙色	淡黄橙色	外面黒斑有り
第50図5	23A型		48	土師器	甕	18.1	-	-	(10.0)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				○		良	赤褐色	赤褐色	外面暗状にスス付着
第50図6	23A型		48	土師器	鉢	(21.0)	(20.8)	-	(10.0)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明		○			○			良	黄橙色	黄橙色	
第50図7	23A型		48	土師器	甕	(17.2)	-	-	(10.8)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ・ケズリ	○	○			○			良	淡黄橙色	灰黄褐色	外面黒斑有り
第50図8	23A型			土師器	甕	-	-	-	(5.2)	ナデ・ハケ目	ナデ・工具ナデ・ケズリ	○	○						良	灰褐色	淡黄橙色	外面黒斑有り
第50図9	23A型		48	土師器	甕	(19.6)	(22.6)	-	(20.9)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○						良	暗褐色	暗褐色	外面黒斑有り，赤き・茶不純実
第50図10	23A型		48	土師器	壺	9.2	12.7	-	13.1	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○						良	黄橙色	橙色	外面黒斑にスス付着，外面黒斑有り

第８表　出土土器観察表(7)

遺構					法量(：)は復元値・現存高				調整		胎土								色調		
検出番号	番号 種別	出土位置等	写真図版	種別	器種	口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	角礫	角礫(石英)	角礫(長石)	角礫(黒雲母)	赤色粒(白)	赤色粒(赤)	黒色粒	砂粒	焼成	内面	外面	備考
第50図11	23A竪		48	上師器	甕	14.6	-	2.5	13.0	ナデ・ハケ目・指オサエ	ナデ・ケズリ・指オサエ							○		良	黄褐橙色	黄褐橙色	内外面黒斑有り
第50図12	23A竪		48	上師器	甕	-	-	-	(9.3)	ナデ(摩耗の為不明瞭)	ケズリ	○	○		○	○				良	黒色	橙色	多孔(白雲母)・内外面に黒斑有り
第50図13	23竪		48	上師器	甕	-	-	-	(6.7)	ナデ	ナデ	○	○	○		○				良	にぶい黄橙色	橙色	
第50図14	23A竪		48	上師器	甕	-	-	-	(5.8)	ナデ(工具痕あり)	ケズリ	○	○			○				良	黒褐色	灰黄色	
第50図15	23A竪		48	上師器	甕	-	-	-	(12.5)	平行タタキ	同心円状タキ	○	○			○				良	浅黄橙色	橙色	橙放棄、23B竪出土分と接合
第50図16	23A竪		48	黄色土器	高坏蓋	-	-	-	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ				○					良	灰黄色	にぶい黄橙色	～図、橙
第50図17	23A竪		48	黄色土器	高坏	-	-	-	(6.45)	回転ナデ	回転ナデ				○		○			良	橙灰色	灰黄色	内面に自然釉
第50図18	23A竪		49	黄色土器	坏身	(12.6)	-	-	(4.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		○			○				良	明灰色	明灰色	
第50図19	23A竪		49	黄色土器	甕	(21.4)	-	-	(7.2)	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	○					○			良	灰色	灰色	
第51図1	23B竪			上師器	坏	-	-	-	(4.0)	工具ナデ(器面剥落の為不明瞭)	ナデ?	○	○							良	橙色	橙色	内面暗文
第51図2	23B竪	カマド		上師器	坏	-	-	-	6.1	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○			○				良	橙色	橙色	
第51図3	23B竪	カマド		上師器	坏	(15.4)	-	-	(4.7)	ナデ・ケズリ	ナデ・工具ナデ	○	○			○		○		良	橙色	橙色	
第51図4	23B竪		49	上師器	坏	14.4	-	-	5.5	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○			○				良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第51図5	23B竪	カマド		上師器	坏	(14.8)	-	-	(3.9)	ナデ・ハケ目	ナデ		○	○						良	橙色	橙色	
第51図6	23B竪		49	上師器	坏	13.8	-	-	(3.0)	ナデ・ケズリ・(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ	○	○							良	橙色	橙色	
第51図7	23B竪	P4	49	上師器	坏	(15.4)	-	-	7.5	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○			○				良	黄褐色	橙色	
第51図8	23B竪	カマド	49	上師器	坏	13.7	-	-	5.8	ナデ・タタキ	ナデ	○	○			○				良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第51図9	23B竪	カマド	49	上師器	坏	(14.0)	-	-	7.4	ナデ・ハケ目	ナデ	○	○			○				良	橙色	橙色	
第51図10	23B竪		49	上師器	坏	(15.4)	-	-	6.8	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○		○	○				良	黄褐橙色	黄褐橙色	
第51図11	23B竪	カマド	49	上師器	坏	(14.4)	-	-	(5.9)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○			○				良	黄橙色	黄橙色	
第51図12	23B竪	カマド	49	上師器	坏	(13.6)	-	-	5.6	ナデ・ハケ目	ナデ		○			○				良	橙色	橙色	
第51図13	23B竪			上師器	坏	-	-	-	(1.8)	ナデ？・回転ヘラ切り？	器面剥落の為不明	○	○	○		○				良	浅黄橙色	浅黄橙色	外面黒斑有り
第51図14	23B竪			上師器	甕	(17.7)	-	-	(5.3)	ナデ	ナデ・ケズリ		○			○				良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第51図15	23B竪			上師器	甕	(22.6)	-	-	(4.6)	ナデ？・器面剥落有り	ナデ？・ケズリ	○	○	○						良	浅黄橙色	浅黄橙色	
第51図16	23B竪		49	上師器	甕	14.3	-	-	(6.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○			○				良	灰黄褐色	黄褐橙色	内面スス付着
第51図17	23B竪		49	上師器	甕	(22.6)	-	-	(7.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○				良	黄褐橙色	黄褐橙色	
第51図18	23B竪	カマド	49	上師器	甕	(16.5)	(20.6)	-	(12.0)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ		○	○		○				良	橙褐色	にぶい黄橙色	
第51図19	23B竪	カマド		上師器	甕	-	(25.1)	-	(21.2)	ナデ	ケズリ	○	○			○				良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第51図20	23B竪	カマド		上師器	甕	-	-	-	(25.2)	ヨコナデ・タテ方向のナデ・ナデ	ケズリ	○	○			○				良	橙色	橙色	橙さ不確実・7mほどの欠
第51図21	23B竪			上師器	甕	-	-	-	(3.0)	ナデ	ナデ	○	○					○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	脚？
第51図22	23B竪	カマド		上師器	甕	-	-	-	(13.9)	ナデ・指オサエ	ケズリ	○	○			○				良	にぶい赤褐色	橙色	橙さ不確実・7mほどの欠
第51図23	23B竪		49	黄色土器	鼎	(10.4)	-	-	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ			○		○				良	灰黄褐色	灰白色	自然釉、底状文
第51図24	23B竪		49	黄色土器	甕	(22.8)	-	-	(7.2)	回転ナデ	回転ナデ	○	○			○				不良	浅黄色	黄灰色	20竪出土分と接合
第51図25	23B竪		49	黄色土器	甕	(23.2)	-	-	(6.3)	回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ				○	○	○			良	褐灰色	灰色	内面に角で具痕有り。外面に波状文有り
第51図26	23B竪		49	黄色土器	甕	(20.0)	-	-	(6.15)	回転ナデ	回転ナデ	○	○			○				良	暗灰色	暗灰色	波状文
第51図27	23B竪		49	黄色土器	高坏脚部	-	-	-	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ					○				やや不良	灰色	灰色	外面波状文？
第51図1	23C竪			上師器	坏	(11.0)	-	(3.0)	4.3	ナデ？	ナデ？		○	○						やや不良	黄橙色	黄橙色	
第51図2	23C竪		49	上師器	甕	-	-	-	(7.0)	ナデ	ナデ(工不明瞭)・工具ナデ	○	○							良	浅黄橙色	浅黄橙色	
第51図3	23C竪		49	上師器	甕	(20.2)	-	-	(5.7)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ・ケズリ	○	○							良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第51図4	23C竪		50	上師器	甕	(12.4)	-	-	(9.5)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○							良	橙色	黄橙色	内面スス付着
第51図5	23C竪	カマド	50	上師器	甕	(18.8)	-	-	(7.2)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ・ケズリ	○	○							良	にぶい橙色	橙色	
第51図6	23C竪		50	上師器	甕	(20.6)	-	-	(7.5)	ナデ・ハケ目	ナデ(ハケ目)・ケズリ	○	○	○						良	にぶい黄橙色	橙色	
第51図7	23C竪		50	上師器	甕	(13.4)	-	-	(8.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○			○				良	橙色	黄橙色	
第51図8	23C竪		50	上師器	甕	(22.2)	-	-	(8.6)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○							良	浅黄橙色	浅黄橙色	23A竪出土分と接合
第51図9	23C竪		50	上師器	甕	-	-	-	(25.2)	ハケ目・ナデ	ケズリ(器面荒れの為不明瞭)・ナデ・指オサエ	○	○			○				良	浅黄橙色	にぶい黄橙色	
第51図10	23C竪			上師器	甕	-	-	-	(5.7)	ナデ	ナデ	○	○			○				良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
第51図11	23C竪		50	上師器	甕	-	-	-	(8.7)	ナデ	ケズリ	○	○			○				良	浅黄橙色	浅黄橙色	
第51図12	23C竪			黄色土器	坏蓋	(15.6)	-	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ		○			○				良	明灰色	黄灰黄色	
第51図13	23C竪	カマド	50	黄色土器	坏身	10.2	-	7.4	3.4	回転ナデ	回転ナデ	○	○			○				やや不良	灰白色	灰白色	底面切り離し、後未調整
第51図1	23竪		50	上師器	坏	-	-	-	(4.1)	ナデ？	ミガキ		○	○		○				良	暗茶褐色	暗褐色	外面に黒色斑？ 20竪、23A竪出土分と接合
第51図2	23竪			上師器	坏	(14.2)	-	-	(5.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・指ナデ	○	○	○						良	橙色	橙色	
第51図3	23竪	カマド		上師器	坏	(14.2)	-	-	6.1	ナデ・ケズリ	ナデ・工具痕	○	○			○				良	橙色	橙色	
第51図4	23竪			上師器	甕	-	-	-	(9.9)	ハケ目後ナデ	ケズリ	○	○			○				良	灰黄褐色	にぶい橙色	外面黒斑有り・多孔(白雲母)?
第51図5	23竪			上師器	甕	-	-	-	(5.9)	ナデ・ハケ目	ナデ	○	○			○				良	褐灰色	にぶい赤褐色	外面に黒斑有り
第51図6	23竪		50	上師器	甕	-	-	-	(5.0)	ナデ	ナデ	○	○			○				良	黒色	にぶい黄橙色	外面に黒斑有り
第51図7	23C竪		50	黄色土器	甕	-	-	-	(3.7)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・回転ナデのちナデ					○				良	褐灰色	灰色	内面にハケ目有
第51図8	23C竪		50	黄色土器	坏身	(8.6)(16)	-	(3.9)	(4.1)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ					○				良	灰黄色	灰黄色	23B竪出土分と接合
第51図9	23竪		50	黄色土器	甕	-	-	(45.5)	-	(37.5)	平行タタキ・カキ目	○				○				やや不良	灰黄色	灰色	
第51図1	24A竪		50	上師器	坏	13.6	-	-	4.9	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ミガキ	○	○			○				良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第51図2	24A竪		50	上師器	坏	14.0	-	-	4.5	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ミガキ	○	○		○	○				良	橙色	橙色	
第51図3	24A竪		50	黄色土器	坏身	(13.0)	-	5.4	4.5	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ			○		○				良	灰褐色	灰黄色	内面が通常の逆に底部切離し後未調整
第51図4	24A竪		50	黄色土器	鼎	(10.0)	-	-	(3.35)	回転ナデ	回転ナデ					○				良	黄灰黄色	灰白色	自然釉、底状文
第51図5	24A竪		51	黄色土器	鼎	-	(9.1)	-	(8.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ					○				良	灰色(やや赤味)	赤灰色	脚孔半分以上欠損
第51図6	24A竪		51	上師器	甕	(17.6)	-	-	(11.8)	ナデ・ハケ目(不明瞭)	ナデ・ケズリ？(不明瞭)	○	○							良	黄灰色	黄褐色	
第51図7	24A竪		51	上師器	甕	(21.6)	-	-	(7.4)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○				良	暗黄色	橙色	
第51図8	24A竪		51	上師器	甕	(23.0)	(27.7)	-	(20.1)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○				良	浅黄橙色	浅黄橙色	
第51図9	24A竪		51	上師器	甕	(13.6)	(15.9)	-	(11.3)	器面剥落の為不明	ケズリ・器面剥落有り	○	○			○				良	黄橙色	黄橙色	
第51図10	24A竪		51	上師器	甕	-	-	-	(12.3)	ナデ	ケズリ	○	○			○				良	灰黄色	橙橙色	
第51図1	24B竪			上師器	坏	-	-	-	(3.3)	ナデ	ナデ		○			○		○		良	暗赤黄色	暗赤黄色	第37図2と同一個体？
第51図2	24B竪		51	上師器	坏	(13.2)	-	-	4.7	ヨコナデ・ナデ	ナデ		○			○				良	暗赤黄色	暗赤黄色	外面に黒斑有り、第37図2と同一個体？

第９表　出土土器観察表(8)

遺構					法量（ ）は復元値・残存高			調整			胎土							焼成	色調		備考
検図番号	番号種別	出土位置等	写真図版	種別	器種	口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	雲母	石英	赤褐色粒	黒色粒	白色粒	砂粒		内面	外面	
SB57図2	24図		S1	土師器	椀	(13.0)	-	-	6.8	ナデ・工具ナデ(不明瞭)	ナデ(不明瞭)		○		○			良	黄橙色	黄橙色	外面黒斑有り
SB57図4	24図			土師器	坏	(13.6)	-	-	3.9	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○		○				良	にぶい黄橙色	橙色	
SB57図5	24図			土師器	鉢	-	-	-	(8.5)	(7.7) ナデ・ケズリ・ハラ痕有り	ケズリ	○		○		○		良	橙色	橙色	ゆがみ大
SB57図6	24図		S1	土師器	高坏・脚部	-	-	-	(8.2)	工具ナデ・器面摩耗の為不明瞭	器面摩耗の為不明							良	橙色	橙色	
SB57図7	24図		S1	須恵器	坏蓋	14.8	-	-	4.45	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ		○			○		やや不良	黄灰白色	灰白色	口縁内面、先端のみ一カ所ヘラ調整
SB57図8	24図			須恵器	坏身	(11.8)	-	-	(4.4)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ		○			○		良	暗灰色	黒褐色	
SB57図9	24図			須恵器	坏身	9.8(11)	-	-	(3.8)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ					○		良	暗灰白色	暗灰白色	
SB57図10	24図	カマド	S1	土師器	甕	19.7	26.0	-	30.9	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	黄橙色	黄橙色	
SB57図11	24図		S1	土師器	甕	18.9	27.3	-	36.6	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ・指オサエ	○	○			○		良	灰黄色	淡黄橙色	外面黒斑有り
SB58図1	24図			土師器	坏	(12.4)	-	-	(5.0)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
SB58図2	24図			土師器	坏	(13.0)	-	-	5.3	ミガキ	ミガキ	○	○					良	淡黄色	黄色	外面黒斑有り
SB58図3	24図		S1	土師器	甕	(12.8)	(13.0)	-	(6.0)	ナデ 器面剥落の為不明瞭	ナデ(器面剥落の為不明瞭)・ケズリ	○	○	○				良	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
SB58図4	24図			土師器	甕	-	-	-	(3.0)	ナデ	ケズリ・指オサエ	○	○	○				良	橙色	にぶい黄橙色	頸オ手縦潰
SB58図5	24図			土師器	高坏	(15.6)	-	-	14.1	ナデ・ケズリ (器面摩耗の為不明瞭)	ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	○				○		良	橙色	橙色	
SB58図6	24図			土師器	高坏	-	-	-	(5.7)	ナデ	ナデ		○	○		○	○	良	黄橙色	黄橙色	内面黒斑有り
SB58図7	24図			土師器	高坏・脚部	-	-	(8.2)	(4.2)	器面摩耗の為不明	ナデ	○	○	○				良	橙色	橙色	
SB58図8	24図		S2	土師器	甕ヵ蓋	-	-	-	(6.0)	ナデ	ケズリ	○	○			○	○	良	淡橙色	淡橙色	
SB58図9	24図		S2	土師器	甕ヵ蓋	-	-	-	(6.3)	ナデ	ケズリ	○	○			○	○	良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
SB58図10	24図		S2	土師器	甕	-	-	-	(8.1)	ナデ	ナデ	○	○			○	○	良	灰黄色	にぶい黄橙色	外面に黒斑有り
SB58図11	24図		S2	土師器	甕	-	-	-	(7.9)	ナデ	ナデ	○	○	○		○	○	良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
SB58図12	24図		S2	須恵器	坏蓋	(13.6)	-	-	4.8	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ		○			○		良	暗黄灰褐色	暗黄灰褐色	天井部の切り離し痕、未調整、灰かぶり
SB58図13	24図		S2	須恵器	坏蓋	(12.8)	-	-	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ		○	○		○		良	暗灰色	暗灰色	
SB58図14	24図		S2	須恵器	坏身	(12.6)	9.6(11.2)	-	(3.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ					○		良	灰色	灰色	
SB58図15	24図		S2	須恵器	壺	-	-	-	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ				○	○	○	良	灰色	灰色	外面に波状文有り
SB58図16	24図		S2	須恵器	鉢ヵ	-	-	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ					○		良	灰色	青灰色	外面に波状文有り
SB60図1	25図		S2	土師器	甕	(14.2)	-	-	(8.5)	器面摩耗の為不明(ケズリ?)	ナデ	○	○			○		良	淡黄色	淡黄色	
SB60図2	25図		S2	土師器	甕	(12.2)	-	-	(4.7)	ナデ	ナデ・ケズリ		○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
SB60図3	25図			土師器	壺	(11.2)	(17.0)	-	(11.6)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○		○		良	暗褐色	橙色	
SB60図4	25図		S2	土師器	高坏・脚部	-	-	(11.6)	(8.4)	ケズリ・ハケ目・ナデ (器面摩耗の為不明瞭)	ケズリ・ナデ (器面摩耗の為不明瞭)	○						良	橙色	黄橙色	外面黒斑有り
SB60図5	25図			土師器	甕	(13.8)	-	-	(7.2)	ナデ・ハケ目ヵ (器面摩耗の為不明瞭)	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	灰褐色	黄橙色	
SB60図6	25図		S2	土師器	甕	(15.0)	-	-	(7.8)	ハケ目・ナデ	ナデ・ケズリ	○		○				良	黄橙色	橙色	
SB60図7	25図			土師器	甕	-	-	-	(4.0)	ナデ	ナデ	○	○		○		○	良	橙色	橙色	歪孔
SB60図8	25図		S2	土師器	甕	(14.4)	(18.4)	-	(13.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				○	良	黄橙色	黄橙色	
SB60図9	25図			土師器	甕	(16.2)	(17.6)	-	(8.0)	ハケ目・ナデ	ケズリ・器面剥落有り		○	○		○		良	黒褐色	橙色	
SB60図10	25図		S2	土師器	甕	(24.2)	-	-	(13.6)	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ケズリ		○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面に黒斑有り
SB60図11	25図		S2	土師器	甕	-	-	-	(11.9)	ハケ目後ナデ	ナデ	○	○			○	○	良	橙色	橙色	
SB61図1	26図		S2	土師器	甕	-	-	-	(5.3)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
SB61図2	26図			土師器	甕	-	-	-	(5.6)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明			○		○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面黒斑有り
SB61図3	26図	カマド	S2	土師器	高坏・脚部	-	-	9.8	(5.2)	工具ナデ・ナデ？	ケズリ・ナデ？					○		良	橙色	橙色	
SB61図4	26図		S2	土師器	甕	(20.4)	-	-	(11.8)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
SB61図5	26図		S3	須恵器	甕	(19.2)	-	-	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ		○			○		良	黄灰色	黄灰色	
SB63図1	27図			須恵器	甕	-	-	-	(7.2)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明				○		○	良	黄橙色	黄橙色	
SB63図2	27図		S3	土師器	甕	(14.4)	(15.8)	-	(11.0)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○			○		良	灰黄褐色	淡黄橙色	
SB63図3	27図		S3	土師器	甕	(13.4)	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ・ケズリ		○					良	灰褐色	暗褐色	内面スス付着
SB63図4	27図			土師器	甕	(20.0)	-	-	(7.0)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○					良	淡黄橙色	淡黄橙色	
SB63図5	27図			土師器	甕	(21.0)	-	-	(7.8)	ナデ	ナデ・ケズリ		○					良	淡黄橙色	淡黄橙色	
SB63図6	27図		S3	土師器	甕	(16.9)	(17.8)	-	(9.5)	器面剥落の為不明・一部ハケ目残存	器面剥落の為不明・一部ハケ目残存							良	淡黄橙色	淡黄橙色	
SB63図7	27図		S3	土師器	甕	(23.0)	-	-	(10.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○					良	淡黄橙色	淡黄橙色	
SB63図8	27図		S3	土師器	甕	-	-	-	(17.3)	ハケ目	ケズリ	○	○		○	○		良	淡黄橙色	淡黄橙色	外面スス付着、28層出土分と接合
SB63図9	27図		S3	土師器	甕	(19.6)	-	(6.4)	21.3	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		○		良	淡黄橙色	淡黄橙色	頸オ手有り
SB63図10	27図		S3	土師器	甕ヵ蓋	-	-	-	(7.0)	指オサエ・ナデ		○	○			○	○	良	黄橙色	淡黄橙色	
SB63図11	27図	P1	S3	須恵器	鼎	-	-	-	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ					○		良	黄灰黒色	灰白色	内面一部灰かぶり 23C層出土分と接合
SB63図12	27図		S3	須恵器	横瓶	-	-	-	(20.4)	タタキ後カキ目	ナデ・回転ナデ					○		良	灰色	灰色	外面にヘラ記号？、内面に一部灰ヶ黒斑有り、24層出土分と接合
SB63図13	27図		S3	須恵器	壺	(23.2)	(45.2)	-	(31.7)	タタキ後カキ目	同心円状タタキ				○	○	○	良	灰色	灰色	
SB63図14	27図			須恵器	壺	-	-	-	(12.8)	タタキ後カキ目	同心円状タタキ				○	○	○	良	灰色	灰色	第63図13～15同一個体かっ
SB63図15	27図			須恵器	壺	-	-	-	(5.2)	タタキ	同心円状タタキ				○	○	○	良	灰色	褐灰色	
SB64図1	4図	P3		土師器	小型甕	-	-	-	(2.5)	ナデ	ナデ・ケズリ(摩耗で不明)	○	○	○		○	○	良	赤褐色	赤褐色	
SB64図2	4図	P3		土師器	坏	-	-	-	(3.7)	ナデ？	ナデ？	○	○	○		○		良	淡赤色	暗赤色	
SB64図3	4図	P3		土師器	坏	-	-	-	(2.5)	恐らくミガキ(不明瞭)	ミガキ	○	○	○		○	○	良	黒茶色	黒茶色	黒色処理を施しているかも
SB64図4	4図	P8		土師器	坏	-	-	-	(2.8)	ナデ(摩耗)第2層に黒分付着	ナデ(摩耗)第2層に黒分付着		○	○	○	○		良	赤褐色	暗赤茶色	頸オ手痕潰、第2層に黒分付着
SB64図5	5図	P3		土師器	坏ヵ	-	-	-	(1.4)	一部タタキ	ナデ(摩耗で不明)	○	○	○		○		良	暗茶黄色	暗赤褐色	
SB66図1	1土			土師器	坏	(13.0)	-	-	(5.4)	ハケ目・ナデ？(器面摩耗の為不明)	器面摩耗の為不明		○		○			良	淡黄橙色	淡黄橙色	
SB66図2	2土			土師器	坏	-	-	-	(3.4)	ミガキ	ミガキ		○	○		○		良	暗茶色	暗茶色	
SB66図3	2土			土師器	坏	-	-	-	(3.0)	ナデ後一部ミガキ	ミガキ		○			○		良	にぶい橙色	にぶい橙色	頸オ手縦潰
SB66図4	2土			土師器	坏	-	-	-	(4.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○				良	淡黄色	淡黄色	
SB66図5	2土		S3	須恵器	坏身	-	-	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ					○		良	灰色	灰色	
SB66図6	3土			土師器	高坏	-	-	-	(2.4)	ハケ・ナデ		○	○	○				良	橙色	橙色	
SB66図7	7土			土師器	坏	-	-	-	(3.4)	ハケ or ミガキ	ハケ・ハケ or ミガキ	○		○		○	○	やや不良	赤橙色	赤橙色	

第10表　出土土器観察表(9)

遺構			写真図版	種別	器種	法量（ ）は復元値・現存高				調整		胎土							焼成	色調		備考
挿図番号	番号 種別	出土位置等				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	雲母	角閃石	石英	長石	赤色粒	白色粒	黒色粒	砂粒		内面	外面	
第46図8	7土			土師器	甕	-	-	-	(6.6)	ココナデ・ナデ	ヨコナデ・指ナデサエ・ケズリ	○	○				○			良	浅黄橙色	浅黄橙色	胎土に黒褐石混入
第46図9	7土			土師器	甕	-	-	-	(6.2)	丁寧なナデ	ナデ・ケズリ 不明瞭	○	○				○			良	にぶい橙色	にぶい橙色	
第46図10	7土			土師器	甕	(13.4)	-	-	(3.5)	ナデ・表面摩耗のため調整不明瞭	ナデ・ハケ目	○	○				○			良	赤褐色・黒褐色	赤褐色	
第46図11	7土			土師器	甕	(11.9)	-	-	(5.0)	ナデ・表面摩耗のため調整不明瞭	ナデ・ハケ目	○	○				○			良	黒褐色	赤褐色	
第46図12	8土		S4	土師器	坏	15.2	-	-	5.2	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○				○			良	橙色	橙色	
第46図13	8土			土師器	甕?	-	-	-	(3.1)	ナ	ケズリ・工具ナデ・ナ	○	○				○		○	やや不良	暗赤茶色	暗赤色	
第46図14	8土			土師器	甕	-	-	-	(5.8)	ナデ・ハケかき	ナデ・ケズリ	○	○	○						良	赤橙色	赤橙色	
第46図15	9土			土師器	坏	(12.7)	-	-	(5.4)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明		○				○			良	にぶい橙色	にぶい黄橙色	胎土不純実、10土出土分と接合
第46図16	9土			土師器	高坏	-	-	(16.2)		ナデ	ナデ		○	○			○	○		良	浅黄色	暗橙色	
第46図17	10土		S4	土師器	坏	(14.0)	-	-	4.9	ハケ目・器面摩耗有り	ナデ・器面摩耗有り		○	○						良	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面黒褐有り
第46図18	10土		S4	土師器	坏	12.2	-	-	5.6	ナデ・ミガキ	ナデ・工具ナデ	○	○				○			良	橙色	橙色	
第46図19	11土			土師器	坏?	-	-	-	(2.1)	ナデ	ナデ	○	○				○			良	黄黄褐色	にぶい黄橙色	胎土不純実
第46図20	E8	P6	S4	土師器	坏	(14.0)	-	-	5.8	ナデ・ケズリ	工具ナデ	○	○				○			良	橙色	橙色	外面黒褐有り
第46図21	E4	P3	S4	土師器	高坏脚部	-	-	-	(7.5)	工具ナデ・器面摩耗の為不明瞭	しぼり痕・器面摩耗の為不明瞭		○				○			良	橙色	橙色	
第46図22	C2	P5	S4	土師器	高坏脚部	-	-	-	(4.8)	工具ナデ	ナデ	○	○				○			良	褐灰色	明赤褐色	
第46図23	D2	P7	S4	黄色器	ハソウ	-	(9.6)	-	(4.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		○				○			良	灰白色	灰色灰黄色	
第46図24	C7	P11・P12	S4	黄色器	坏蓋	-	受部(11.7)	-	(2.8)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						○			良	灰色	暗灰色	外面自然釉、付着物有り
第46図25	D7	P1	S4	黄色器	高坏	-	-	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ						○			良	黄灰黄色	黄灰黄色	灰かぶり
第46図26	F3	P1	S4	黄色器	坏身	-	-	-	(3.9)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						○	○		良	灰黒色(底面)・灰白色	灰黒色(底面)・灰白色	
第46図27	E6	P2	S4	黄色器	器台	-	-	-	(9.1)	ナデ	回転ナデ							○		良	オリーブ灰色	灰色	内面に自然釉、外面に透状文・沈線有り
第46図28	F8	P1	S4	須恵土器	坏	12.3	-	6.7	3.5	回転ナデ・回転糸切り・板状圧痕・器面摩耗の為不明瞭	回転ナデ・器面摩耗の為不明瞭	○	○				○			良	黄褐色	黄褐色	
第46図29	F8	P1	S4	須恵土器	皿	8.0	-	6.0	1.0	回転ナデ・回転ヘラ切り・板状圧痕	回転ナデ		○				○			良	黄橙色	黄橙色	内面スス付着
第46図30	E8	P3	S4	青磁	椀	-	-	-	(3.9)											-	緑灰色	緑灰色	13C初～前期
第46図31	E8	P4	S4	青磁	椀	-	-	5.4	1.6											-	黄緑色	黄緑色	龍泉窯、外面鎬紋
第46図32	E8			土師器	坏	-	-	-	(3.2)	工具ナデ(不明瞭)	ナデ		○	○						良	褐灰色	橙色	
第46図33	E8			土師器	坏	-	-	-	(3.8)	ナデ・器面摩耗有り	ナデ・器面摩耗有り		○	○			○			良	橙色	橙色	
第46図34	E8			土師器	坏	(15.6)	-	-	5.4	ナデ・ケズリ	丁寧なナデ		○		○	○				良	橙色	橙色	内面黒褐有り
第46図35	E8			土師器	甕	-	-	-	(3.1)	ナデ	摩耗の為不明		○	○						良	にぶい橙色	にぶい橙色	
第46図36	E8	1		土師器	甕	(17.8)	-	-	(3.5)	ナデ?(不明瞭)	ナデ		○	○			○			良	浅黄橙色	浅黄橙色	
第46図37	E8		S4	土師器	甕	(17.2)	-	-	(7.0)	ナデ?・器面摩耗有り	ナデ・ケズリ		○	○			○			良	褐灰色	浅黄橙色	
第46図38	E8	2	S4	土師器	甕	(13.7)	(18.2)	-	(19.6)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ・指ナサエ		○	○			○			良	灰黄色	黄褐黄色	外面スス付着、黒褐有り
第46図39	F8		S4	土師器	甕	-	-	-	(6.7)				○			○	○			良	褐灰色	橙色	
第46図40	F8		S4	土師器	焼ッ甕	-	-	-	(5.4)	指オサエ・ナデ	ナデ?(器面の為不明瞭)	○	○			○	○			良	黒褐色	橙色	
第46図41	F8		S4	黄色器	坏身	(13.0)	受部(15.2)	-	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ							○		良	灰色	灰色	
第46図42	F7		S4	黄色器	坏	-	-	(8.2)	(1.2)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						○			良	灰白色	灰白色	
第46図43	D2	P6		黄色器	脚部	-	-	-	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ							○		良	灰色	灰色	
第46図44	F7		S4	黄色器	高坏脚部	-	-	(7.8)	(4.1)	回転ナデ	回転ナデ						○			良	灰色	灰色	スカシジッ再現存
第46図45	F8			須恵土器	皿	(9.4)	-	(8.0)	1.2	回転ナデ・回転糸切り	回転ナデ		○							良	黄橙色	黄橙色	
第46図46	E8			白磁	皿	-	-	-	(1.8)	—	—									-	灰色	灰色	胎土不純実
第46図47	F8		S4	瓦質	羽釜	-	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ		○			○	○			良	灰茶色	暗茶色	
第46図48	E8		S5	青磁	椀	-	-	-	(3.1)	—	—									-	濃緑色	濃緑色	
第46図49	F8		S5	青磁	皿	-	-	(3.6)	(1.6)	—	—									-	青緑色	青緑色	龍泉窯、外面鎬紋、蓮弁有り
第46図50	F8		S5	青磁	椀	-	-	-	(3.4)	—	—									-	青緑色	青緑色	龍泉窯、龍泉窯
第46図51	F8			青磁	椀	-	-	(4.8)		—	—									-	黄緑色	黄緑色	同定笑？

第11表　出土土製品・石製品・玉類観察表

挿図番号	出土位置	写真図版	器種	長さ 厚さ (cm)	径・幅 (cm)	孔径 (cm)	重さ (g)	色調	備考
第75図1	24B竪	56	紡錘車	1.30	3.80	0.85	33.09	暗黒色	安山岩製
第75図2	F7	56	紡錘車	1.30	4.00	0.95	32.31	灰白色	滑石製
第75図3	3竪下層	56	紡錘車	1.90	4.90	0.70	23.64	淺黄色	土製
第75図4	4掘P3	56	紡錘車	1.00	-	-	6.81	灰白色	滑石製
第75図5	22竪	56	紡錘車	0.70	4.70	0.95	15.44	暗灰色	滑石製
第75図6	12竪	56	不明土製品	3.15	1.85	-	10.12	黄橙色	指押さえ痕有り
第75図7	9A竪	56	臼玉	0.20	0.50	0.14	0.097	白色	
第75図8	6竪	56	管玉	2.35	0.75	0.45	1.956	濃緑色	碧玉製
第75図9	25竪	56	土錘	3.10	1.15	0.20	3.428	淡赤褐色	

第12表　出土石器観察表

神田番号	写真図版	出土地点等		器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	備考
第71図1	55	2型	P3	打製石斧	鞍岳産黒曜石	2.10	1.35	0.20	0.50	
第71図2	55	3型	下層	打製石斧	鞍岳産黒曜石	2.80	1.40	0.45	1.07	
第71図3	55	23型		打製石斧	鞍岳産黒曜石	1.85	1.25	0.30	0.47	
第71図4	55	一括		打製石斧	鞍岳産黒曜石	1.80	1.65	0.30	0.72	
第71図5	55	F8		剥片類	鞍岳産黒曜石	1.40	1.20	0.30	0.44	
第71図6	55	23D型	2	石臼下	粘板岩	4.75	9.45	0.75	49.22	
第71図7	55	17A型		石錘	泥板岩	4.45	9.35	1.15	52.00	
第71図8	55	6B型	6	横刃形石器	泥板岩	3.85	8.40	2.10	86.60	
第71図9	55	12型		横刃形石器	泥板岩	3.80	4.85	0.60	13.90	
第71図10	55	3型		横刃形石器	泥板岩	3.20	7.00	1.25	39.50	
第71図11	55	9A型		横刃形石器	泥板岩	4.00	5.35	0.55	16.70	
第71図12	55	3型	7	打製石斧	泥板岩	13.75	5.65	1.55	151.40	
第71図13	55	23B型		打製石斧	泥板岩	5.35	2.90	0.60	12.58	
第71図14	55	22型		打製石斧	泥板岩	4.50	5.35	1.00	31.25	
第71図15	55	3型	9	打製石斧	泥板岩	9.40	6.60	1.05	76.80	
第71図16	55	21型		磨製石斧	緑色片状岩	8.85	4.45	1.55	103.70	
第71図17	55	21型	3	磨製石斧	緑質(cc粉質)片岩	(10.50)	(5.40)	(3.70)	286.60	
第71図18	55	14型	1	礪石	石英粗面岩	5.80	4.80	2.70	91.80	
第71図19	55	20型		礪石	石英粗面岩	5.65	2.55	2.30	41.44	
第72図1	55	F7		スクレイパー	鞍岳産黒曜石	2.35	1.85	1.10	2.68	
第72図2	55	22型		スクレイパー	鞍岳産黒曜石	3.40	2.35	0.85	3.37	
第72図3	55	12型		スクレイパー	石英粗面岩	3.55	3.80	1.90	20.72	
第72図4	55	9A型		スクレイパー	鞍岳産黒曜石	2.55	2.00	0.95	4.84	
第72図5	55	F8		スクレイパー	鞍岳産黒曜石	2.55	2.45	0.75	3.60	
第72図6	55	E3	P8	スクレイパー	鞍岳産黒曜石	3.75	1.70	1.00	4.59	
第72図7	55	23C型		スクレイパー	鞍岳産黒曜石	3.20	1.65	0.80	3.11	
第72図8	56	12型		二次加工剥片	姫島産黒曜石	2.45	1.60	0.40	1.41	
第72図9	56	9A型		使用痕剥片	硅質岩	3.55	3.20	1.15	8.14	
第72図10	56	2型		二次加工剥片	サヌカイト	4.20	3.20	1.30	17.34	
第72図11	56	23C型	カマド	楔形石器？	鞍岳産黒曜石	1.95	1.45	0.35	0.92	
第72図12	56	23A型		二次加工剥片	鞍岳産黒曜石	3.35	1.95	0.90	4.72	
第72図13	56	6型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	1.80	2.35	0.60	1.72	
第72図14	56	23B型	カマド	使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.10	2.55	0.60	2.08	
第72図15	56	6B型		二次加工剥片	姫島産黒曜石	3.35	3.50	1.10	10.47	
第72図16	56	24B型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.00	2.35	0.80	3.32	
第72図17	56	21型		二次加工剥片	鞍岳産黒曜石	2.45	1.75	1.05	3.25	
第72図18	56	10型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.65	1.90	0.55	2.04	
第72図19	56	E3	P2	使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	1.80	1.65	0.55	1.14	
第72図20	56	6上		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.55	2.45	1.10	4.05	
第72図21	56	4型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	3.85	4.55	0.80	7.64	
第73図1	56	一括		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	3.55	1.90	0.80	3.98	
第73図2	56	22型		楔形石器？	鞍岳産黒曜石	2.35	1.80	0.60	1.95	
第73図3	56	22B型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	3.15	2.10	0.70	3.30	
第73図4	56	23型		原石	黒曜石	3.00	1.95	1.50	9.23	
第73図5	56	24型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	1.85	2.45	0.75	2.26	
第73図6	56	25型		スクレイパー	鞍岳産黒曜石	2.15	2.45	0.90	3.85	
第73図7	56	23A型		楔形石器？	姫島産黒曜石	3.00	2.00	0.70	3.79	
第73図8	56	3型	ドジョウ	使用痕剥片	黒曜石	2.55	1.70	0.70	2.51	
第73図9	56	3型	上層	剥片	小国産？黒曜石	1.75	0.25	0.40	0.72	
第73図10	56	F7	P5	使用痕剥片	サヌカイト	2.05	2.10	0.65	2.92	
第73図11	56	9A型		剥片類	鞍岳産黒曜石	2.60	1.20	0.50	0.95	
第73図12	56	22型		剥片類	鞍岳産黒曜石	2.20	2.20	0.80	2.07	
第73図13	56	3型		剥片類	サヌカイト	3.15	4.35	0.70	6.85	
第73図14	56	12型		剥片類	安山岩	1.85	2.00	0.50	1.58	
第73図15	56	9A型		剥片類	鞍岳産黒曜石	2.00	0.80	1.00	0.96	
第73図16	56	22型		剥片類	鞍岳産黒曜石	1.45	2.05	0.85	1.70	
第73図17	56	12型		剥片類	サヌカイト	1.85	2.35	0.60	2.00	
第73図18	56	22型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	1.40	2.25	0.60	1.48	
第73図19	56	23A型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.25	1.80	0.65	2.09	
第73図20	56	22型		二次加工剥片	ハリ質安山岩	2.05	1.75	0.50	1.58	
第73図21	56	25型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	1.65	2.00	0.55	2.18	
第73図22	56	23A型		二次加工剥片	ハリ質安山岩	2.80	2.60	0.70	3.35	
第73図23	56	23B型		二次加工剥片	姫島産黒曜石	3.95	2.65	1.00	7.68	
第73図24	56	F8		二次加工剥片	鞍岳産黒曜石	1.60	1.35	0.65	1.20	
第73図25	56	21型		楔形石器？	鞍岳産黒曜石	1.95	2.15	0.65	2.03	
第73図26	56	20型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	1.65	1.45	0.45	0.63	
第73図27	56	3型	P7	使用痕剥片	姫島産黒曜石	1.95	2.10	0.65	2.27	
第73図28	56	22B型	カマド	使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.65	1.85	0.75	2.32	
第74図1	56	6B型		剥片類	姫島産黒曜石	4.10	2.80	10.05	8.01	
第74図2	56	11型		楔形石器？	サヌカイト	2.50	3.50	0.55	4.95	
第74図3	56	17A型		使用痕剥片	姫島産黒曜石	2.30	2.00	0.70	2.16	
第74図4	56	9A型		使用痕剥片？	石英	2.50	2.55	1.15	6.91	
第74図5	56	6型		使用痕剥片	ハリ質安山岩	2.50	3.30	1.25	6.74	
第74図6	56	20型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.80	1.90	0.95	3.05	
第74図7	56	20型		剥片類	玉髓	2.85	3.30	0.70	5.53	
第74図8	56	3上		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.45	2.60	0.70	2.87	
第74図9	56	18D型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	1.80	2.00	0.60	1.70	
第74図10	56	E2	P5	二次加工剥片	サヌカイト	3.95	2.80	1.10	9.45	
第74図11	56	20型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	2.40	3.00	1.50	6.64	
第74図12	56	12型		二次加工剥片	姫島産黒曜石	1.85	1.20	0.55	0.92	
第74図13	56	23A型		使用痕剥片	姫島産黒曜石	1.55	1.05	0.45	0.35	
第74図14	56	2型		使用痕剥片	鞍岳産黒曜石	1.55	0.70	0.35	0.22	

A地点調査区全景（南から）

調査区全景（北東から）

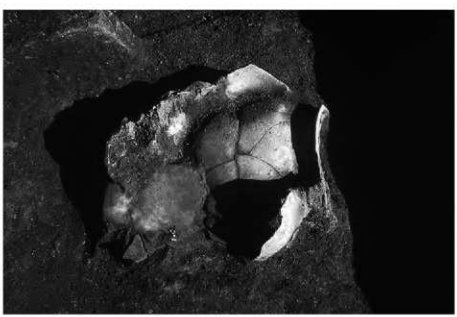
写真図版２

１号竪穴建物跡発掘状況（東から）

３号竪穴建物跡発掘状況（西から）

３号竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）

3 号竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



3 号竪穴建物跡遺物出土状況

4 号竪穴建物跡発掘状況（南から）

写真図版４

４号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

５号竪穴建物跡発掘状況（北から）

５号竪穴建物跡遺物出土状況

６号ＡＢ竪穴建物跡
発掘状況（南から）

６号Ａ竪穴建物跡遺物出土状況

６号Ｂ竪穴建物跡発掘状況（東から）

写真図版 6

7 号竪穴建物跡発掘状況（南西から）

7 号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南西から）

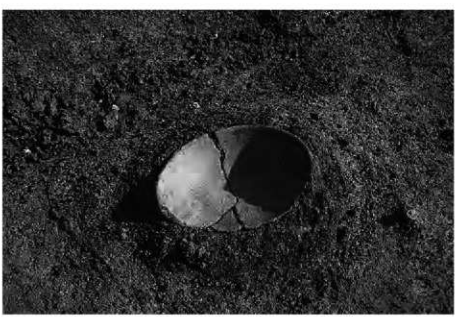
7 号竪穴建物跡遺物出土状況

8 号竪穴建物跡完掘状況（南から）

8 号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

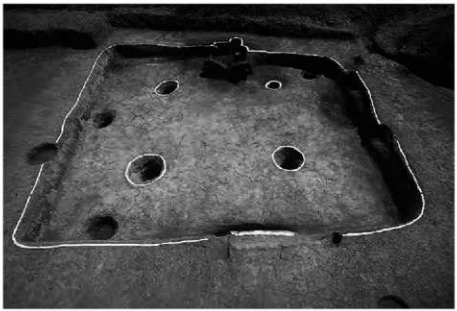
9 号 A 竪穴建物跡発掘状況（西から）

９号Ａ竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



９号Ａ竪穴建物跡遺物出土状況

９号Ｂ竪穴建物跡発掘状況（東から）



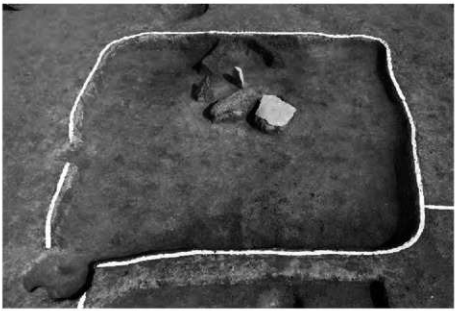
10号竪穴建物跡発掘状況（西から）

10号竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）

10号竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）

写真図版10

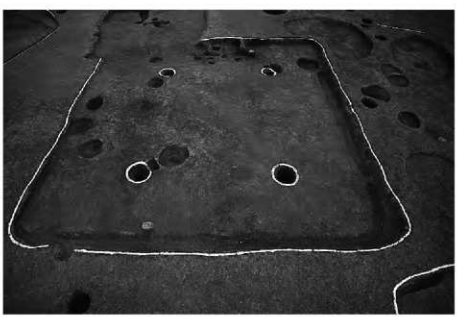
10号竪穴建物跡遺物出土状況



11号竪穴建物跡発掘状況（南から）

11号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

11号竪穴建物跡
カマド遺物出土状況



12号竪穴建物跡発掘状況（南から）

12号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

写真図版12

12号竪穴建物跡遺物出土状況

13号竪穴建物跡発掘状況（南西から

13号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南西から）

13号竪穴建物跡遺物出土状況

14号竪穴建物跡発掘状況（南西から）

14号竪穴建物跡遺物出土状況

16号竪穴建物跡発掘状況（南東から）

16号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南東から）

17号ＡＢＣ竪穴建物跡
発掘状況（南東から）

17号ＡＢＣ竪穴建物跡
発掘状況（南から）

17号Ａ竪穴建物跡
カマド発掘状況（南西から）

17号Ｂ竪穴建物跡
カマド遺物出土状況

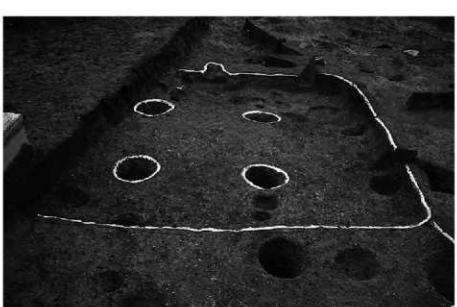
18号Ａ竪穴建物跡発掘状況（南から）

18号Ａ竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

18号Ａ竪穴建物跡遺物出土状況

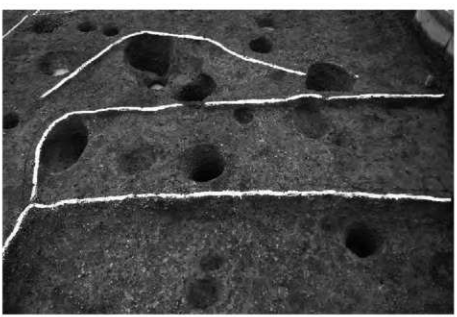
18号Ｂ竪穴建物跡発掘状況（西から）

18号Ｃ竪穴建物跡発掘状況（東から）



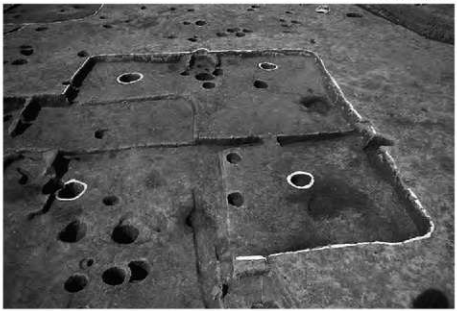
19号ＡＢＣ竪穴建物跡
発掘状況（西から）

19号Ａ竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



19号ＢＣ竪穴建物跡発掘状況（東から）

20号竪穴建物跡発掘状況（北から）



21号竪穴建物跡発掘状況（南から）

21号竪穴建物跡遺物出土状況

21号竪穴建物跡カマド
発掘状況（南から）

21号竪穴建物跡
カマド遺物出土状況（南から）

22号Ａ竪穴建物跡発掘状況（南から）

22号Ａ竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

22号Ａ竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

22号Ｂ竪穴建物跡発掘状況（南から）

22号Ｂ竪穴建物跡カマド
遺物出土状況

写真図版22

22号Ｃ竪穴建物跡発掘状況（東から）

22号Ｃ竪穴建物跡
カマド発掘状況（東から）

22号Ｄ竪穴建物跡発掘状況（西から）

23号Ａ竪穴建物跡発掘状況（南から）

23号Ａ竪穴建物跡遺物出土状況

23号Ｂ竪穴建物跡発掘状況（西から）

23号Ｂ竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）

23号Ｂ竪穴建物跡
カマド遺物出土状況

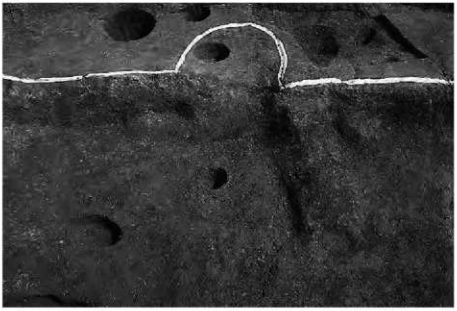
23号Ｃ竪穴建物跡発掘状況（南から）

23号Ｃ竪穴建物跡遺物出土状況

23号Ｃ竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

23号Ｃ竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

24号Ａ竪穴建物跡発掘状況（北西から）



24号Ａ竪穴建物跡
カマド発掘状況（北西から）

24号Ａ竪穴建物跡遺物出土状況

24号ＡＢ竪穴建物跡
発掘状況（南東から）

24号Ｂ竪穴建物跡
カマド遺物出土状況

25号竪穴建物跡発掘状況（南から）

26号竪穴建物跡発掘状況（南から）

26号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

26号竪穴建物跡
カマド遺物出土状況

27号竪穴建物跡発掘状況（西から）

27号竪穴建物跡遺物出土状況

1号掘立柱建物跡発掘状況（南西から）

2号掘立柱建物跡発掘状況（南東から）

3号掘立柱建物跡発掘状況（南西から）

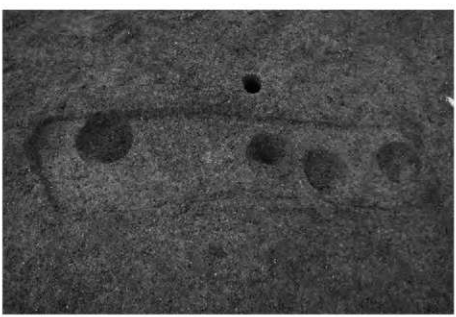
4号掘立柱建物跡発掘状況（東から）

5号掘立柱建物跡発掘状況（南から）

1号土坑発掘状況（北から）

2号土坑発掘状況（南東から）

3号土坑発掘状況（東から）

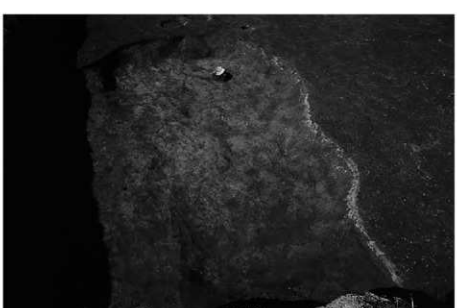


4号土坑発掘状況（南西から）

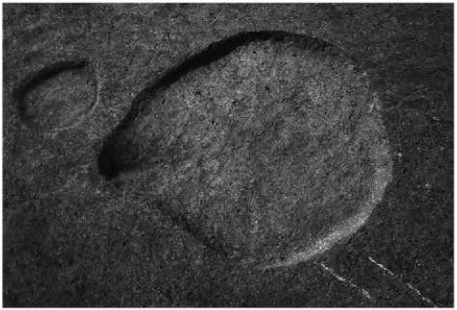
5号土坑発掘状況（北東から）

6号土坑発掘状況（南から）

7号土坑発掘状況（東から）



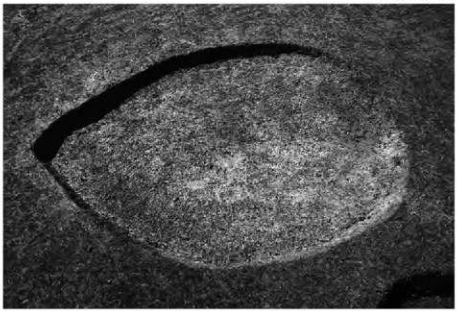
8号土坑発掘状況（東から）



9号土坑発掘状況（東から）

10号土坑発掘状況（北から）

10号土坑遺物出土状況



11号土坑発掘状況（北から）

B地点全景（西から）

6-8

6-9

7-9

7-10

7-17

7-18

8-4

8-11

8-15

8-16

6-10

7-11

7-12

7-19

8-1

8-8

8-17

8-19

7-6

7-8

7-15

7-16

7-21

7-22

8-10

8-18

8-20

8-21

8-22

8-23

8-24

9-1

9-2

9-5

9-6

9-11

9-21

9-7

9-15

9-21

9-17

写真図版38

9-19

9-23

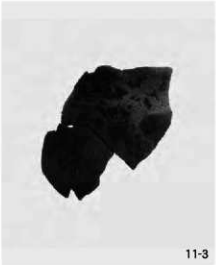
11-6

12-1

12-6

15-7

15-8


11-3

12-2

12-3

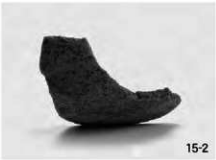
12-7

15-12

11-5

12-4

12-5


15-2

15-6

15-13

15-14

15-18

15-20

15-15

15-19

15-22

15-23

15-24

15-27

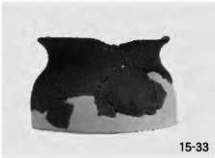
15-25

15-26

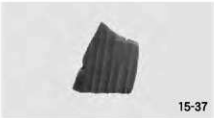
15-30

15-28

15-32


15-33

15-34


15-37

16-1

15-35

16-3

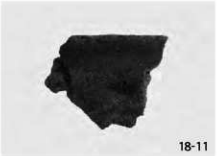
16-2

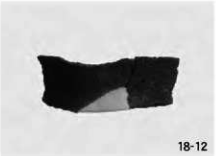
18-4

18-5

18-6

18-8


18-11


18-12

18-15

18-16

18-17

18-18

18-22

18-19

18-20

18-24

18-25

19-1

19-3

19-2

19-4

19-6

19-7

21-1

21-8

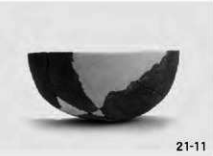
21-3

21-6

21-9

21-5

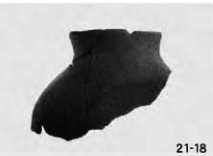
21-7


21-11

21-14

21-15

21-17


21-18

21-19

21-20

21-26

21-27

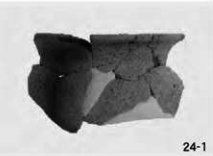
22-5

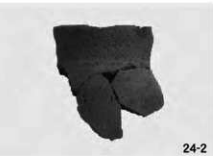
22-6

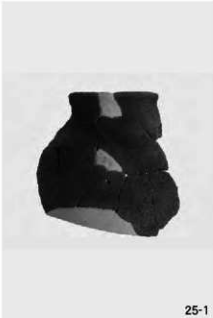
22-8

24-7

22-9


24-1


24-2


25-1

26-1

26-7

写真図版42

26-4

26-6

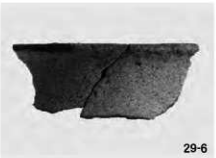
27-3

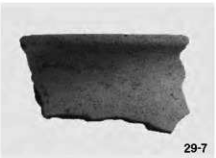
26-5

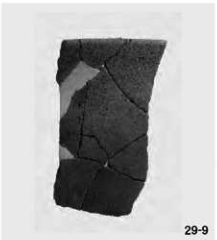
27-1

29-2

29-5


29-6


29-7


29-9

29-10

29-11

29-16

29-18

29-15

29-17

29-19

29-20

29-21

29-23

29-22

29-24

29-20

29-25

29-35

29-34

29-37

29-32

29-40

29-41

31-6

31-5

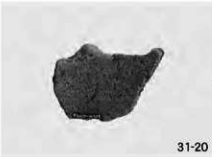
31-11

31-14

31-13

31-15

31-16


31-20

31-20

31-21

31-23

31-24

31-22

31-25

31-26

31-27

写真図版44

31-28

33-6

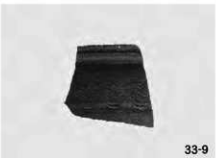
33-1

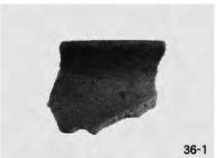
33-3

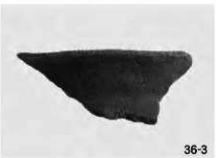
33-2

33-4

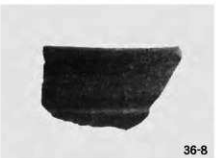
33-8

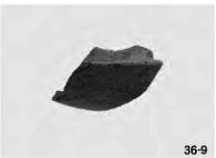

33-9


36-1


36-3

36-6

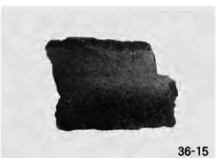

36-8


36-9

36-10

36-11

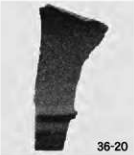
36-12


36-15

36-17

36-18

36-19

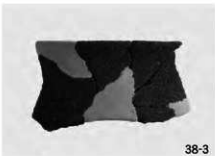

36-20

38-1

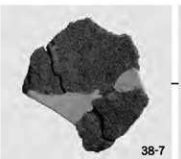
38-6

38-6

38-2


38-3

38-4


38-7

38-7

38-9

38-10

38-11

38-8

38-12

38-13

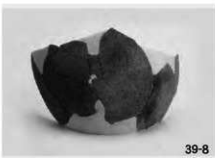
39-1

38-12

39-2

39-6

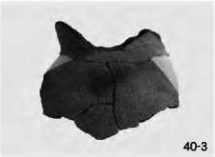
39-7

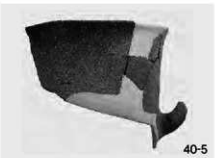

39-8

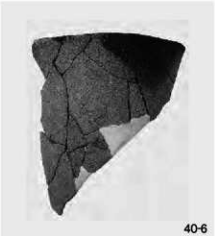
40-2

写真図版46

40-1


40-3


40-5


40-6

40-7

40-8

40-10

42-1

40-9

40-11

42-2

42-4

43-1

43-2

43-4

45-1

47-5

47-6

47-8

47-10

47-12

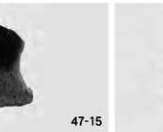
47-12

47-14

47-20

47-13

47-15

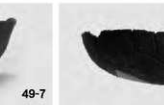

47-19

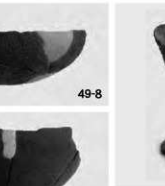
49-3

49-5

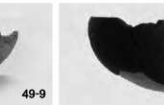
49-6

49-7


49-8


49-14

49-9


49-10

49-11

49-17

49-15

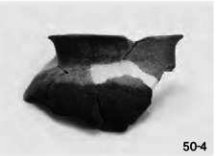
49-19

49-16

写真図版48

50-1

50-3


50-4

50-5

50-6

50-7

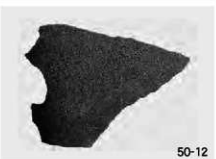
50-9

50-10

50-11

50-13

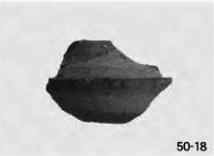
50-14


50-12

50-16

50-15

50-17


50-18

50-19

52-4

52-8

52-6

52-7

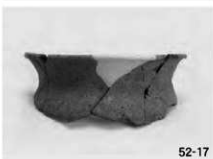
52-11

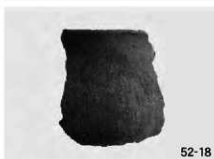
52-9

52-10

52-12

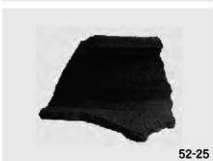
52-16


52-17


52-18

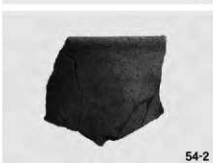
52-23

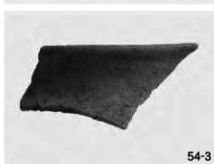
52-24


52-25

52-26

52-27


54-2


54-3

写真図版50

54-4

54-5

54-6

54-11

54-7

54-8

55-1

54-9

54-13

55-7

55-6

55-6

55-8

55-9

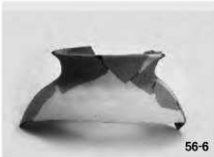
56-1

56-2

56-3

56-4

56-5


56-6

56-7

56-8

56-9

56-10

57-2

57-3

57-5

57-6

57-4

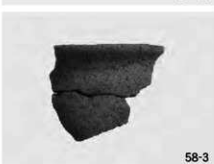
57-7

57-10

57-11

58-2

58-5


58-3

58-8

写真図版52

58-9

58-10

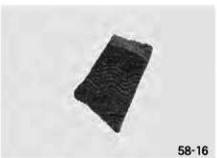
58-11

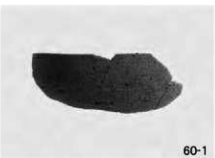
58-12

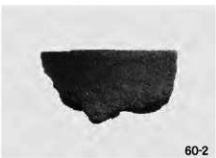
58-13

58-14

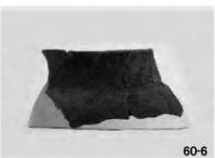
58-15


58-16

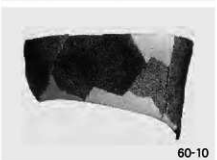

60-1

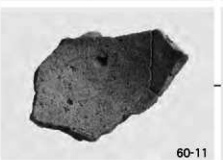

60-2

60-4


60-6

60-8

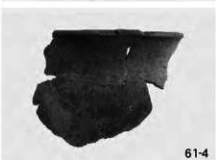

60-10


60-11

60-11

61-1

61-3

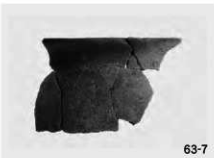

61-4

61-5

63-2

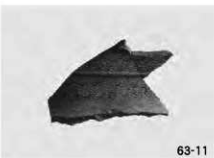
63-6

63-3


63-7

63-8

63-9

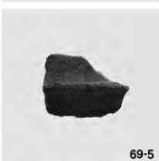

63-11

63-10

63-10

63-12

63-14


69-5

63-13

69-12

69-17

69-18

69-20

69-21

69-27

69-23

69-26

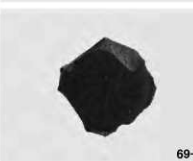
69-24

69-25

69-30

69-28

69-29


69-31

69-37

69-39

69-38

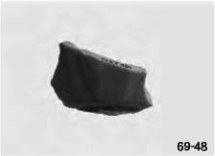
69-40

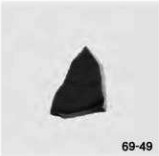
69-41

69-42

69-44

69-47


69-48


69-49

69-50

70-1

70-2

70-3

70-4

70-5

70-6

70-7

70-8

70-9

71-1

71-2

71-3

71-4

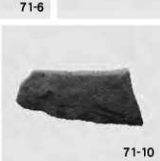
71-5

71-6

71-7

71-8

71-9


71-10

71-11

71-13

写真図版56

71-12

71-16

71-17

71-14

71-15

71-18

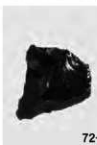
71-19

72-1

72-2

72-3

72-4


72-5

72-6

72-7

72-8

72-9

72-10

72-11

72-12

72-13

72-14

72-15

72-16

72-17

72-18

72-19

72-20

72-21

73-1

73-2

73-3

73-4

73-5

73-6

73-7

73-8

73-9

73-10

73-11

73-12

73-13

73-14

73-15

73-16

73-17

73-18

73-19

73-20

73-21

73-22

73-23

73-24

73-25

73-26

73-27

73-28

74-1

74-2

74-3

74-4

74-5

74-6

74-7

74-8

74-9

74-10

74-11

74-12

74-13

74-14

報 告 書 抄 録

ふ り が な	くくりのいせき４　くくりひらしまいせき４じのちょうさ
書　　名	求来里の遺跡Ⅳ　求来里平島遺跡４次の調査
副 書 名	県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	(4)
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第102集
編 著 者 名	若杉竜太
編 集 機 関	日田市教育庁文化財保護課
所　在　地	〒877-0077　日田市南友田町516-1　0973(24)7171
発行年月日	2012年３月21日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くくりひらしまいせき 求来里平島遺跡 ４次	おおいたけんひたし 大分県日田市 おおあざくくり 大字求来里 あざちゃく 字着来	44204-6	204194	33°18′43″	130°58′2″	20051121 ～ 20060324	A 地点 2,845 ㎡ B 地点 608 ㎡	圃場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主　な　遺　構	主 な 遺 物	特記事項
求来里平島遺跡 ４次	集落	古墳 中世	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 土坑	土師器・須恵器 石器（石鏃、石錘等） 紡錘車・土錘 管玉・小玉	日田盆地内では、初例となる黒色処理を施した土師器坏が出土。

要　約	遺跡は日田盆地東部を流れる求来里川左岸の沖積地上に位置する。今回の調査では古墳時代中期～後期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡から構成される集落が確認された。これらの建物跡からは、須恵器や土師器が出土したが、中でも模倣坏といわれる土師器坏が多数見られ、特に黒色処理を施した坏については、日田盆地では初例となるものであり、注目される。 本遺跡では古墳時代後期に集落規模の最大期を迎えるが、求来里川流域では、弥生時代中期から古墳時代後期にかけて、ほぼ継続的に集落が営まれていたことが判明しており、小地域での集落展開を考える上では興味深い地域といえる。 また、小規模ではあるが、中世の建物やピットが確認されており、市内の他の中世期の遺跡との関連を考えていく必要がある。

求来里の遺跡Ⅳ

—求来里平島遺跡４次の調査—

2012年３月21日

編　集　　日田市教育庁文化財保護課

〒877-0077　大分県日田市南友田町516-1

発　行　　日田市教育委員会

〒877-8601　大分県日田市田島２-６-１

印　刷　　尾花印刷有限会社

〒877-0026　大分県日田市田島本町８-８

日田市

SOY INK